

た。

井上通女 幼名を玉と云ひ後振と云ひ最後に通と稱した藩士井上儀左衛門本固の二女で幼より學を好み宏才あり博く經史に涉り詩歌を善くす、天和の頃より京極家の母堂養性院に仕へて江戸に在ること九歳歸國して三田宗壽に嫁し三男二女を生み頗る婦徳高かつた、元文三年六月享年七十九歳で歿した諸著の内歸家日記三卷、往事集五卷など傳はつて居る。勝田鹿谷 字は寧郷、通稱九一郎、丸龜の人學を好み頗る多識であつたが嘉永二年十月七十三歳で歿した遺著に逸史微考、鹿谷隨筆、樵話、日本詩選、姓名考などがある。

大川郡

大川郡は明治三十二年四月法律四十一號を以て大内、寒川の二郡を併せて改稱せらるゝに至つたもので大内の名は孝靈天皇(紀自三七一至四四六)の御宇に皇女謫居せられ皇女の宮居を土人大内と云ひ郡名是より出でたりと又大市と云ふより出でしとも稱せられたが大内郡の名は續日本後記承和十年五月(紀一五〇三)の條に始めて見える又寒川郡の名は石田村の東原に清泉あり寒川と稱し云々とも又相撲國寒川神社を移せしより郡名是より出でたりと傳へらるゝが寒川郡の名は和銅六年(紀一、三三三)の記に始めて見えて居る、誌に依れば中古大内郡は四郷三十四村寒川郡は八郷二十七村であつた即ち左の通り。

大内郡 郷村名

郷名 引田 九村 村名 引田、坂本、馬宿、南野、黒羽、河股、吉田、小海、塩屋

白鳥 八村 村名 白鳥、歸來、三本松、湊、松原、伊坐、東山、西山

入野 十一村 村名 丹生山、大谷、參殿、町田、松崎、落合、小磯、馬篠、小砂

土居、中山

與田 六村 村名 與田山、水主、河東、中筋、西村、横内

寒川郡 郷村名

富田 六村 村名 富田西、富田中、富田東、田面、南川、五名

石田 二村 村名 石田西、石田東

長尾 五村 村名 長尾東、長尾西、名村、前山、奥山

造田 四村 村名 宮西、是弘、乙井、野間田

鶴羽 二村 村名 鶴羽、津田

鴨部 四村 村名 東山、中筋、下庄、小田

神崎 一村 村名 神崎

志度 三村 村名 志度、東末、西末

我國施政制度は遠く神武天皇の御代既に定まり祭事朝政は天種子命天富命掌り可美真手命

道臣命は物部、大伴部を率ひて皇宮の守護に任し地方には國造縣主などの官を置いて其地を治めしめた、孝徳天皇よりは漢土の制に倣ひ年號を立て朝廷に左右大臣、内臣を置き家長を戸主とし五家に保長を立て國司郡司を置き郡には大領、小領、判官、主政、主張の職制を設けた、奈良朝の初期に里を置き凡そ五十戸を以て一里とし里に里長一人を置いた、里長は郡司の下にあつて勸農、禁察、租課の催驅を掌り里の下に村を置いたが元正天皇の靈龜元年里を改め郷とした是れ我國に於ける郷の初まりで、郷の名稱は明治初年迄存続した、郷に郷長又は郷令あり他に郷刀禰、郷目代あり是等を總稱して郷司と云ふた、村は郷に屬し村長村刀禰があつた、郷村共永い年代の間に分合廢置改稱が多く殊に徳川時代に於ては村の行政を掌る者を庄屋、名主、年寄と稱し郡に屬する事務を掌る者を大庄屋と稱した、明治五年四月九日大庄屋を廢し本縣の行政區劃を八十八區に分ち區に戸長副戸長村に村役人を置き一區の下に一村又は十數村を屬せしめた、同七年二月十四日日本縣を十二大區に分ち大區の下に小區を置き大區に區長小區長に戸長一人副戸長及村長を置いたが村長は副戸長であつた、而して一區に一村又は十數村を屬せしめ一事務所を置き事務を執つた、此年小豆島を大區とし鹽飽七島を二十一區即ち那珂郡に編入した、同九年八月三日大小區を改正七大區とした即ち畧現在の一郡の區域を一大區とした、同十一年十二月十六日大小區を廢し郡に郡長、町村に戸長を置き一村又は數村に一戸長役場を置いた明治二十二年十二月縣令八十四號を以て左の通り。合併存置二十三年二月十五日より町村制を實施し又



(原野の田舎) 國 公 林 亭

三十二年七月一日より郡制を施行された、昔の郷と稱した時代の各村及大小區制當時の各村は新編制に依つて現在多く大字となつて居る、是等往昔よりの制度沿革を詳細に調査記述するは容易でなく且つ趣味はあつても實益がないから概略に止める（以上各都市に通ず）

新村名	舊村名	新村名	舊村名
相生村	坂本村、黒羽村、南野村、馬宿村、川股村、吉田村	小海村	小海村
引田町	引田村	白鳥本町	歸來村、伊座村、松原村
松尾村	富田東村、田面村	富田村	富田西村、富田中村、南川村
五名山村	五名山村	神前村	神前村
石田村	石田東村、石田西村	造田村	野間田村、乙井村、是弘村、宮西村
長尾村	長尾東村、長尾西村、名村、前山村	白鳥村	白鳥村、湊村
三本松町	三本松村	譽水村	永主村、中筋村、横四村、西村、川東村
福榮村	與田山村、入野山村、西山村、東山村	丹生村	丹生村
多和村	奥山村	志度町	志度村、末村
鴨庄村	下庄村	鴨部村	鴨部東山村、鴨部中筋村
小田村	小田村	津田町	津田村
鶴羽村	鶴羽村		

大内、寒川郡の統治は前記統治の沿革に述べた如く上古神櫛王以來其裔に依つて世襲的に統治せられ孝徳天皇以降國司郡司の制度時代更に頼朝時代の守護地頭職細川の管領政治時

代を経て其裔は豪族被官として權勢を保ち大なるは數郡小なるは一郷を領したが元龜天正の頃より細川の族安富民部、三好長治、長曾我部などの侵襲を受け次第に權勢を失ひ天正十五年生駒氏當國に封せらるゝに及んで影を失つた、次で寛永十九年松平頼重東讃に封せらるゝに及び大川郡は其治下に屬して經過明治に至つた。

【地勢】本郡は本縣の極東に位し東北は海に臨み斜に淡路島と相面し南は徳島縣板野郡及阿波郡に界し西は本縣木田郡に接す、地勢東西に長く郡内西長尾町より東相生村迄の里程七里二十六丁南多和村より小田村に達する里程七里九丁面積は十九方里六二管内第三位の面積を有する、山嶽は松尾村所屬の笠ヶ峯千五百尺五名山村所屬の大窪山などがあるが他に史蹟として見るべき虎丸山(譽水村)城山(同上)雨瀧山(富田村)茶白山(松尾村)などがある、河川は鴨部川流域五里十丁湊川流域四里二十丁津田川流域三里二十丁與田川流域三里などがあるが平素涸渇して灌田の用を爲さない。

【土地】本郡土質は阿讃國境の山嶽部は概ね和泉砂岩層で海に瀕する地方は概ね花崗岩を以て形成され、平野は砂礫壤土で地味肥沃穀菽よく實る、今本郡の地目段別を示すと次の通りである。

民有租地		民有免租地		官有地	
地目	段別	地目	段別	地目	段別
田	五、〇六九 <small>町</small> 五七 <small>畝</small>	保安林	二、一八五 <small>町</small> 五一 <small>畝</small>	河川	一、九五九 <small>町</small> 二七 <small>畝</small>
畑	一、四四五、八七	溜池	四九、三二	道路	一、二九八、〇四
宅地	五九四、三二	道路	四八、七〇	溝渠	三八二、七〇
鹽田	四、〇六	砂防地	八六七、八三	塘	一〇二、二一
池沼	一、六八	墳墓地	五六、〇八	社地	五八、二六
山林	一七、五三四、九七	塘	八九、三四	寺地	五、五六
原野	五三、三四	學校敷地	八、八〇	溜池	四七五、一五
雜種地	四、四五	其他	三、一九	其他	一七、六二
計	二四、七〇八、二六	計	三、二四一、七七	計	四、一九八、八一

【戸口】本郡大正十年末現在本籍人口は計十萬四千八十九人で内男五萬三千四十六人女五萬千四十三人現住人口は計七萬八千五百二人内男三萬九千四十二人女三萬九千四百六十六人で本籍人口に對し二萬五千五百八十七人の不足を示して居る、蓋し本籍人口に對する減少は本籍人口に於て若干の虚數を包含せるも其の大勢は入人員に比し出人員の多きを示せるもので本郡の如きは人口一方里の密度四千一人、一二にして本縣他郡に比し其稀薄なる

点に於て第一位で一面より觀察すれば他管への出員の最も多きを語るものである今本籍人口現住人口並に戸數を町村別に表示して見る。

本籍人口、現住人口戸數町村別(×印ハ町)

町村名	本籍人口		計	現住人口		計	現在戸數
	男	女		男	女		
相生	二、三七五	二、三六七	四、七四二	一、七二二	一、七三四	三、四四六	七三二
小海	八一七	七五五	一、五七二	六〇七	六一一	一、二一八	二二〇
×引田	三、〇二三	三、〇九三	六、一一六	二、二五七	二、四三二	四、六八九	一、一〇四
×白鳥本	二、〇一八	二、一二五	四、一四三	一、六五二	一、七一六	三、三六八	七七二
福榮	一、九八二	一、八三九	三、八二一	一、四六二	一、四九七	二、九五九	五八九
白鳥	一、九〇九	一、九〇八	三、八一七	一、三二九	一、四一六	二、七四五	五七七
×三本松	一、八五二	一、八三〇	三、六八二	一、七〇七	一、五四四	三、二五一	七二五
譽永	三、四〇七	三、一九八	六、六〇五	二、二一六	二、二一五	四、四三一	九〇〇
丹生	三、五二七	三、四四四	六、九七一	二、四九七	二、四八七	四、九八四	九七〇
松尾	一、五五四	一、五三五	三、〇八九	一、四二〇	一、四一五	二、八三五	五〇九
富田	三、五三四	三、二四五	六、七七九	二、五八〇	二、五三五	五、一一五	一、〇〇二

【交通】 本郡陸路の交通として國道一線縣道五線郡道七線の外里道延里數七十五里二十六丁共に郡内縦横に通じて田面峠の難を除く外坦々砥の如く交通至便である、今國縣郡道の概要起終点を示すと次の通りである。

計	鶴羽	×津田	小田	鴨部	鴨庄	×志度	多和	×長尾	造田	神前	石田	五名山	本籍人口		現住人口		現在戸數	
													男	女	男	女		
五三、〇四六	一、七二一	三、五九二	二、二一一	二、一八六	二、一三八	四、一七六	六六八	四、一七八	一、六六六	一、二三六	二、五〇四	七七一	五一、〇四二	四、一〇九	一、三二一	一、〇九一	二二六	
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六
五、〇四六	一、六四九	三、四八五	二、〇五七	二、〇一九	二、〇七五	四、一〇九	六四八	三、八五二	一、六五七	一、一九七	二、二七八	六七八	五、〇四二	八、二八五	三、〇五九	五四五	一、〇九一	二二六

国道 第二十二號線起點高松市玉藻町より大川郡志度町、丹生村を経て相生村大字坂元字大坂徳島縣界に至る線、主用延長十三里三丁。

縣道 長尾、三本松線 起點長尾町大字長尾西字仲より富田村松尾村（丹生村より三本松迄国道二十二號線重用）を経て三本松に至る四里五丁（国道重用線を含む）

志度、川島線 起點志度町大字志度字寺町より造田村神前村富田村譽水村福榮村（富田村より松尾村迄縣道長尾三本松線重用）を経て五名山村徳島縣界に至る七里三十一丁（縣道重用線を含む）

引田、川島線 起點引田町字塩屋より小海村、福榮村（引田町に於て国道二十二號線及福榮村より五名山迄縣道志度、川島線重用）五名山村徳島縣界に至る五里二丁（國縣道重用線を含む）

志度、脇町線 起點志度町大字志度より長尾町、多和村を経て木田郡奥鹿村大字奥山徳島縣界に至る五里三十一丁（縣道重用線を含む）

引田、撫養線 起點引田町より相生村に至る一里十丁。

長尾、坂出線 長尾町より平井、坂の上村、佛生山、一の宮、圓座、檜紙、上笠居村を経て坂出町に至る八里二十四丁（國縣道重用線を含む）

郡道 白鳥本町、三本松線 主用延長里程十四丁十五間。

白鳥本町、引田線 主用延長里程十一丁五間。

三本松、川島線 三本松町より五名山村に至る主用延長里程一里五丁十一間。

津田、川島線 津田町より五名山村に至る主用延長里程三十三丁十六間。

津田、脇町線 津田町より多和村に至る主用延長里程二里十丁四十二間。

小田、川島線 小田村より五名山村に至る主用延長二里十九丁十七間。

長尾、鴨庄線 主用延長里程一里二十二丁二十四間。

本郡水上交通としては定期汽船白鳥丸、加古川丸、勝海川丸の沿岸を航海するあつて左記の各港に寄港して貨客の輸送を爲して居る。

津田、三本松、白鳥本町、引田、（撫養）（福良）（兵庫）（大阪）

以上の外陸上交通用として長尾志度間四哩八分、長尾引田間十五哩、志度引田間十五哩、石田津田間三哩の乗合自動車の運轉許可線があつて定期に着發して居る。

【教育】 郡内小學校は合計三十校で内尋常小學校六校高等科を併置するもの二十二校同分教場二校學級尋常科二百三十九高等科三十二合計二百七十一尋常科の教授に従事する正教員男百十八名女三十九名高等科の教授に従事する男三十四名女一名尋常科專科正教員女十名同尋常科准教員男五名女二十九名代用教員男十二名女四十二名合計男百六十九名女百二十一名で大正十年三月一日現在本籍兒童は男六千三百三十一女五千八百三十六高等科男九百二十女三百三十一合計壹萬三千四百十八名である。
本郡内所在縣立學校としては三本松に大川中學校あり明治三十三年高松中學校の分校とし

て設置せられ勝覺寺を仮校舎として充用せられたが明治三十四年九月校舎建築に着手三十五年一部落成し三十六年四月全部完成同年同月獨立の中學校となり生徒定員四百名現在學級十、教員十七名本科生徒三百二十七名の在學者を有するが明治三十八年以後大正十年迄に七百七十二名の卒業者を出して居る。

大川高等女學校初め郡立實科高等女學校として大正四年四月一日石田村に設立せられ大正十年四月組織を改め校名を大川高等女學校に改め生徒定員を三百二十名に増加した現在職員十名學級數五在籍生徒二百一十一名大正四年より九年迄の卒業者二百二十五名で大正十一年度より縣立學校に移管された。

【財政】 本郡大正十年度歳入出原豫算は八萬五千五百九十九圓で内歳入は經常部七萬七千九百十圓臨時部三千四百四十九圓歳出は經常部五萬六千八百二十一圓臨時部二萬四千二百三十八圓である、歳入の内七萬三千三百六十九圓は町村分賦額で他の収入では授業料の三千五百七十五圓と縣費補助金三千四十九圓が主である又歳出の主なるものは高等女學校費教員養成所費及臨時部の教育費で合計二萬七千二百十圓次は土木費の經常臨時合計二萬五千五百七圓勸業費の一萬二千九百五十六圓等で勸業費の主はるものは勸業に關する職員費及米麥作病害調査費である。

【衛生】 本郡の治療機關としては開業せる醫師三十一名齒科醫師三名の外藥劑師十一名産婆二十名看護婦二十八名等であるが郡では大正十年度に於ては豫算八百七十六圓を以て

産婆看護婦の養生を行ひ一般的には衛生講習會を開催して思想の普及に努めて居る。

【金融、貯蓄】 本郡の金融機關としては志度町に東讀銀行三本松町に大内銀行があるが大體の成績は(四二頁)に記入したから省略する、本郡民の郵便貯金は大正十年三月末日現在人員二萬九千九百三十五人金額百四十一萬三千餘圓に達して居る。

【産業】 本郡産業機關として長尾町に大川郡一圓を地區とする大川郡糖業同業組合、同大川郡醬油釀造同業組合、同長尾町に香川縣莫大小同業組合、同大川郡蠶絲同業組合があり産業の助長金融の機關として産業組合法に依る信用組合其他合計二十二組合あり實業團體は近時著しく増加したが今資本金一萬圓以上の會社を掲げると次の通りである。

名	營業種類	地所在	資本金
株式會社網屋商店	醬油釀造業	三本松町	一〇〇、〇〇〇
帝國製藥株式會社	賣藥及酸素製造	同	一、〇〇〇、〇〇〇
東洋製藥株式會社	賣藥及部外品	同	二〇〇、〇〇〇
大東製藥株式會社	賣藥製造	同	一七〇、〇〇〇
日本製藥株式會社	自轉車及附屬品販賣	同	一五〇、〇〇〇
四國製輪株式會社	飴及砂糖製造	同	八〇、〇〇〇
大川製飴株式會社	砂糖製造米穀販賣	同	五〇、〇〇〇
丸一砂糖合資會社	漁獲業	同	一五、〇〇〇
引田漁業株式會社	靴製造販賣	引田町	一〇〇、〇〇〇
讚岐製靴株式會社		同	五〇、〇〇〇

讚岐製網株式會社	漁網各種販賣	同	五〇、〇〇〇
讚岐海運株式會社	貨物運輸	同	六〇、〇〇〇
大川電氣株式會社	電燈電力供給	同	五〇、〇〇〇
岡田醬油合資會社	醬油製造	同	四〇、〇〇〇
引田魚市合資會社	魚市場	同	一二、〇〇〇
讚岐酒類株式會社	酒類製造	同	二〇、〇〇〇
相生漁業株式會社	漁業	相生村	二〇、〇〇〇
讚岐ロープ株式會社	諸繩漁網製造漁具取扱	同	一五、〇〇〇
四國紡績株式會社	綿織物製造	同	五〇、〇〇〇
日本花蔴株式會社	花蔴製造販賣	譽水村	一、〇〇〇、〇〇〇
白鳥製藥株式會社	賣藥製造	白鳥本町	二〇〇、〇〇〇
大川製氷株式會社	製氷	同	二〇〇、〇〇〇
大川商事株式會社	露瀾ノ紹介乾瀾	白鳥村	二五〇、〇〇〇
東瀧以株式會社	筵吹製造	丹生村	七五、〇〇〇
大川製絲株式會社	製絲業	同	一〇〇、〇〇〇
株式會社丸松吳服店	吳服太物販賣	松尾村	二〇〇、〇〇〇
海南貨物自働車株式會社	貨物運搬業	同	五〇、〇〇〇
合資會社香川製陶所	陶磁器製造販賣	石田村	五〇、〇〇〇
讚岐種苗株式會社	種苗木炭肥料	富田村	六〇、〇〇〇
龜鶴醬油合資會社	醬油醸造	造田村	五〇、〇〇〇
		長尾町	二五、〇〇〇

市場

本郡下に於ける魚市場は合計九ヶ所で其名稱所在地賣買價額等は次の通りである。

設立年月	名	所在地	開市日數	賣買價額
大正五年八月	引田魚市場	引田町	三百六十日	六七、四一五
同	市場魚市場	白鳥本町	二百四十日	六、二〇〇
同	中石魚市場	三本松町	二百三十日	一五、八二四
大正四年七月	岩崎魚市場	鶴羽村	二百七十日	二、六五二
大正五年一月	丹生村魚市場	丹生村	二百三十八日	四、二六〇
大正五年二月	山石魚市場	小田村	百五十六日	五、六七九
大正五年八月	尾山魚市場	津田町	三百五十日	二四、五〇〇
同	小方魚市場	鴨庄村	三百五十四日	一三、八七五
同	志度魚市場	志度町	三百五十五日	三〇、七〇五

【工業】 本郡工業は歐州戰亂當時より長足の發展を爲し製藥、製綿、紡織、其他大小の工場三十餘工場あり是等郡内の工業生産額は總額六百十一萬餘圓に達して居る其主なるものは蠶絲の二十六萬圓莫大小二十一萬圓賣藥及藥品百六十三萬圓酒八十三萬圓酢六萬三千圓砂糖七十四萬九千圓麥粉九萬六千圓餡菓子類四十六萬圓莫蔴花蔴八十萬圓卸八萬圓麥稈真

田十五萬圓藁製品二十四萬圓などである。
次に大正十年末調査に係る本郡に於ける職工十人以上を使用する工場を示せば次の通りである。

工場名稱	製品種類	所在地	工場名稱	製品種類	所在地
井筒屋 大阪手袋株式会社 引田工場	醬油 手袋シャツ 漁網擦糸	引田町	四國紡績株式会社 多田工場	綿織物 アイボリナット鈕	譽水村 丹生村
讃岐製網株式会社 日本花建株式会社 合資會社大阪ベルベツト商會	花蒔 ベルベツト	同 白鳥本町 白鳥村	大川製絲株式会社 合資會社香川製陶所	生絲 陶磁器	松尾村 富田村
株式會社網屋商店 日本製藥株式会社 工場 日本救物株式会社 東謙工場	醬油 賣藥 敷物	三本松町	間島酒造場 玉木酒造場 佐藤織布工場	清酒 清酒 綿織物	長尾村 同 志度町
東洋製藥株式会社 大川製鉛株式会社 帝國製藥株式會社	賣藥 賣藥	同 同	林製絲場 四國製網會社工場 安田メリヤス工場 天賀商會工場	生絲 漁網擦糸 メリヤス 裏穴貝鈕	同 津田町 同 鶴羽村

【社寺】 郡内に現在する神社は縣社二、卿社十、村社六、無格社三百六十六合計三百八十四社で寺院は天台宗二、眞言宗三十九、淨土宗三、曹洞宗一、眞宗十九、日蓮宗一合計六十五寺で境外佛堂が三あるが神社に就ては村社以上を寺院に就ては著名のものを各所在町村の部に於て掲記することにする。

人物、名勝、史蹟、人物名勝史蹟に就ても著名のもの、みを所在町村の順に記載す。

【相生村】 本郡の最東に位置する村落で又本縣の極東を占めて居る、東南は徳島縣板野郡に隣接し北は瀬戸内海に蒞み西は引田町及小海村に界して居る、面積一方里八八五、舊引田郷に屬して居つた、明治二十二年縣令八十四號を以て坂本、黒羽、南野、馬宿川股、吉田の六村を合併二十三年二月十五日より町村制を施行された、大正十年末人口三千四百四十六、戸數七百三十二を有する役場は馬宿にあるが昔は驛宅又は馬宅ウマヤと稱した、壽永四年義經此地に宿し入馬を憩はしめたに依つて此名起つたと稱せられる。

社寺 西光寺(馬宿)眞宗、本願寺末湖耀山靈臺院と號す、此地永祿元年八月岩佐道顯三好義賢と戦ひ討死せし所で其後弟道明遁世道順と改め一字を創め脊戸坊と稱した元和三年十一月沙門正泉再營今の寺號に改めた。

東海寺 馬宿にあり眞言宗與田寺末由緒不詳。

人物 濱垣清之助、馬宿の船商、勘左衛門の第二子小壯船長となり諸國に行商財巨万を積むも其財を私せず藩費を助け荒地を開き池陂を修する等篤行多く後士籍に列せられ弘化四

年正月七十六歳で歿した。

【引田町】 東南相生村西南小海村西白鳥本町に接し北瀬戸内海に瀕して居る面積〇、方里四二八元引田卿九村の内引田、塩屋を獨立明治四十二年十月一日より町制を布いたもので大正十年末人口四、六八九、戸數一、一〇四阿波街道の要街で上古驛遞の一つであり馬四頭を出した、産物としては醤油を以て名高い。

社寺 譽田神社(卿社)祭神品陀和氣尊外二神で境内末社が六社ある創建承和八年古い由緒を有する。

萬生寺 利劍山菩提院と號す眞言宗虚空藏院末初め四宮上總介利之小堂を建て不動の像を安置したが后僧となり瑞也と號し文祿四年堂宇を此地に建てた。

積善坊 東面山寶船院西行寺と號す眞言宗京都仁和寺末天平年中行基の創立である。

人物 引田の人物としては書家神崎清常、同敬主あり學者として神崎敬止、畫家西竹坡事業家として梶原景山などがある。

古跡 引田城墟、城林寺東北海に臨む地にあり矢野駿河守三武の居城で遺址今尙存して居る。

【小海村】 引田町の西南に位し西北白鳥本町西白鳥村西南福榮村に接す面積〇、方里七四〇元引田卿中の一村であつたが獨立して一村となつた大正十年末人口千二百十八戸數二百

二十を有する本村は優良村として明治四十三年二月内務大臣より表彰された。

神社 成松神社(村社)祭神大己貴命外二神由緒不詳であるが天正年間兵火に罹り寛永二年三月再建したものである。

【白鳥本町】 東引田町西白鳥村南小海村に接し北は瀬戸内海に面する面積〇、方里五〇〇元白鳥卿の内であつた歸來、伊座、松原の三村を以て編制されたもので明治四十二年十月一日より従來の松原村を白鳥本町と改稱した大正十年末人口三千三百六十八戸數七百七十二を有する。

社寺 白鳥神社(縣社)祭神日本武尊外二神で由緒古く舊高松藩主の崇敬厚く祭田を給せられた。

觀音寺 眞言宗虚空藏院末文祿年中の再營。

教蓮寺 眞宗本願寺末天正五年赦念の創建する處である。

人物 猪熊夏樹 國學者で天保六年松原村に生れ明治四十五年八月七十八歳で歿した、森

權平の墓は伊座の路傍にあり天正十二年土佐兵稻吉新藏と馬上に戦ひ終に討たる年十八歳【福榮村】 東相生村及小海村西五名山村北白鳥及譽水村に接し南は徳島縣阿波郡に界する面積二、方里四〇八元與田卿 の與田山、丹生卿中の入野山、白鳥卿中の西山、東山の各村を合併一村を編制したもので大正十年末人口二千九百五十九、戸數五百八十九を有する社寺 別宮八幡神社(村社)祭神應神天皇由緒不詳。

與田神社(村社)大倭根子日子國玖琉命を祀る由緒不詳。

石清水八幡神社(村社)祭神譽田別命外二神由緒不詳。

寶光寺 禪宗高松見性寺末嘉吉元年一蘭和尚創建寛正年中細川勝元再興寛永十二年大谷三郎太夫修造。

正行寺 眞宗雲生山と號く興正寺末吉田左馬之助正武の建立する處である。
三寶寺 眞宗本願寺末龍王山と號す由緒不詳。

【白鳥村】 東白鳥本町東南小海村南福榮、西譽水三本松町に接し北は瀬戸内海に面して居る面積〇、方里四九四元白鳥卿の内白鳥、湊の二村を以て一村を編制したもので大正十年末人口二千七百四十五戸數五百七十七を有する。

寺院 千光寺 田中にあり惠日山金那院と號し眞言宗仁和寺末開基未詳元龜二年祐圓の再營である。

神護寺 字田中に在り天台宗園城寺末由緒不詳。

東照寺 字城泉にあり眞言宗與田寺末由緒不詳。

榮國寺 鶴内山心善院淨土宗智恩院末天平年中行基の開基天正年中兵火に罹り延寶四年源頼重の再建せしものである。

人物 向山周慶、本縣製糖の開祖で周慶の後裔は今尚湊村に存して居る、周慶の遠祖は備後三郎高德に出て醫を以て業とし傍ら製糖の方法甘蔗の栽培に苦心し遂に當時讃岐の殖産

公益事業の先驅をなし民を利した文政二年九月二十六日歿し題して義正院法山周慶居士と云ふ弘化三年周慶の遺潤を受けたる者一祠を建て號して砂糖神又向良明神と稱した蓋し周慶の事業を助けた薩人良助の良と向山の向とを取つて命したもので今は向山神社と稱して居る。

【三本松町】 東白鳥村西譽水村に接し北は内海に面して居る面積〇、方里〇七八本郡中最少の地域である元白鳥卿の内で後一村となり合併の際獨立一村としたもの明治三十一年二月十一日より町となつた大正十年末人口三千二百五十一、戸數七百二十五を有する、縣立大川中學校あり近時本郡工業の中心たる概がある。

社寺 勝覺寺 眞宗海境山と號し興正寺末明曆年中沙門正哲の創立せる所、鐘樓に蝙蝠の繁殖せる他に類なく頗る奇觀である。

人物 津田儉安、天明年間の人で其先伊勢の人酒造を業とし栗山の姻戚で學才あり詩書を能くした、白川星堂號星翁(詩文家)保井錦江(畫家)奈良象山(書畫)赤澤虫海(勝覺寺二十世の住持、中僧正にして博學者)など皆三本松の産である。

【譽水村】 南福榮村西松尾及丹生村東白鳥村に接し北は内海に臨んで居る元與田郷の内水主中筋、横内、西、川東の五ヶ村を以て編制されたもので面積一、方里二六九大正十年末人口四千四百三十一、戸數九百を算する。

社寺 譽田神社(郷社)祭神譽田別命外二神由緒は頗る古い様であるが判然して居ない。

大水主神社(縣社)祭神倭迹々日百襲姫命で由緒は區々で判明しないが仁明帝の承和三年既に祭祀せられてあつた事實より察すると餘程舊いものである、國寶に絹本着色地藏曼荼羅一幅、倭迹々日百襲姫命座像一軀、倭國香姫命座像一軀、大倭根子彦大瓊命一軀、狗犬一對、木造男神座像一軀などがある。

與田寺 眞言宗仁和寺末醫王山神宮寺虚空藏院と號す天平十一年僧行基の草創で由緒古く寺内に涅槃圖及地藏曼荼羅一幅の國寶がある。

弘海寺 眞言宗虚空藏院末舊淨土寺と稱した由緒不詳。

圓光寺 眞言宗虚空藏院末沙門良毫の草創である。

史蹟 虎丸城 字水主虎丸山上にあり元寒川丹後守元隣の要城であつたが後天正十年十河

民部大輔存保の居城となつた天正十二年土佐の長曾我部の麾下と仙石權兵衛秀久との古戰場で此役仙石權平(森權平)並に仙石勘解由は戦歿した。

梶原景辰墓、與田川下にあり天正十一年土佐軍來攻の時安富盛方と共に此處に戦て死し甲冑と共に此地に葬つたと云ふ、景辰は元播州高砂の城主であつた。

六車宗旦墓同所にあり安富盛方の老臣である。
【丹生村】 西鶴羽、松尾東及南譽水村に接し北は内海に瀆む元入野郷の内丹生山、中山、町田、馬篠、大谷、小砂、小磯、土居、落合、松崎、三殿の十一村を以て編制したもので面積〇、方里八六一大正十年末人口四千九百八十四、戸數九百七十を有す。

社寺 石清水神社(郷社)祭神譽田別尊外二神山域國久世郡石清水八幡宮の分靈であるが勸請年月不詳。

釋王寺 眞言宗延喜二十年弘法大師の草創天正年間兵火に罹り享保十八年再營した寺寶中に木造正觀音立像一軀あり。

顯法寺 補陀山蓮華寺と號す眞言宗釋王寺末天正年間兵火に罹り後再興した。

醫光寺 東明山昌林院と號す眞言宗釋王寺末。

脇屋義治墓 字土居にあり淨琳居士脇屋君墓と題す。

人物 久米通賢 榮左衛門と稱す本村の産、天文地理學に通し測量術に精しく後高松藩士に列せられ文政年間坂出の塩田を築造した天保十二年五月歿したが一器と號して墨竹を畫くに巧みであつた。

【松尾村】 東北丹生、鶴羽、東譽水、西富田、南五名山村に接す舊富田郷の内富田東、田面の二村を以て編制したもので面積一、方里一〇六大正十年末人口二千八百三十五、戸數五百九を有す。

社寺 阿彌陀寺 來迎山法壽院と號す眞言宗京都仁和寺末開基不祥天正十一年長曾我部元親阿波國より來り此處に陣し天皇の森を以て本陣と定め處々に放火す其時堂宇燒燼其後再建したものである。

香蓮寺 眞宗興正寺末由緒不詳。

西教寺 眞言宗與田寺末行基菩薩草創天正年中兵火に罹り其後沙門増立再興。
人物 多田霞岳 田面の人通稱八左衛門幽谷又は白牛と號す書を能くす慶應元年五月歿し
た年六十一。

【富田村】 東松尾村西石田村北神前、津田、南五名山村に接す元富田郷の内富田西、富田
中南川の三村を以て編制され面積一、方里一一二大正十年末人口五千百十五、戸數千二戸
を有す。

社寺 富田神社(郷社)祭神品陀和氣命外二神で貞觀年中富田彌三郎則朝觀請し永祿年中雨
龍城主安富又三郎の再營せしものである。

善樂寺 紅葉山と號す眞宗興正寺末享祿三年沙門善西の草創に關る。
養專寺 眞宗東光山と號し寛永二十年沙門玄誓の草創である。

史蹟 雨瀧城 雨龍山上にあり長祿の頃安富山城守盛長の築く所盛長の曾孫盛定に至り元
龜元年阿波篠原入道紫雲の女を娶り二國謀を合せ寒川氏の大内郡を奪ひ盛定大内郡に之き
此城を六車宗湛に成らしめたが天正十一年元親の爲め陥いつた。

西村城 富田西にあり安富左衛門時氏築き其子又八郎貞正之に居つた後元親木屋原若狹定
矩をして居らしめた。

徳武某、久森某及僧秋仙の碑、富田西大道平藏免にあり、土人尊稱して徳武神社、久森神
社と云ふ、此兩人は二百有年餘前高松藩主白鳥參詣の際減租嘆願を籠訴した爲め斬に處せ

られたものなりと云ふ又秋仙は兩人の赦免を請ひし爲め同類と見做され處刑されたもので
ある。

【石田村】 東富田村西長尾町南五名山村北神前及造田村に接す元石田郷石田西、石田東の
二村を合併編制したもので面積一、方里一三六大正十年末人口三千七百三十四、戸數七百
四十一を有す。

社寺 石田神社(郷社)祭神品陀和氣命外二神で應永十年八月國主細川家の勸請で永正五年
十二月寒川右馬充再興に關る。

光明寺 石田城趾にあり眞宗東光寺末明曆中沙門正覺の草創。

徳勝寺 眞宗本願寺末長祿二年沙門筑後高祐の草創する處初め天台宗であつた。

史蹟 國弘城 細川掃部助弘氏(石田の領主)應永年間之を築き世々之れに居つたところ
ある。

石田城 安富民部元綱の居城であつた天正十一年長曾我部元親之を陥れたが明曆年間其遺
跡に一字を建立し光明寺と云ふ。

十三塚 津田村川原村畑田村其他諸所にあり佛書に班足王十三子を殺せしと云ふ事あり是
等に依りて造つたものか或は近古佛を信じて冥福を祈る爲め父母の死より十三回忌迄法要
を行ふ度毎に一つづゝ塚を立てたものなるか明かでない。

人物 細川林谷 本村の産で有名なる篆刻家又書畫を能くしたが天保十三年六月東都下谷

三線堀の宅に歿した。

僧蕙岸、川西東原、藤田板屋など又本村の産で書畫を能くした。

【五名山村】 東福榮村南徳島縣阿波郡西多和村北松尾、富田、石田村に接す舊富田郷の一
村であつた面積一方里一六四大正十年末人口千百七、戸數二百十六を有す。

【神前村】 北鴨部村東北津田町西北志度町西造田南富田及石田村に接す舊神前郷の一
村であつた面積一方里三四三人口千八百十五、戸數三百六十九を有する
有たが獨立して村制を布いた面積〇、方里三四三人口千八百十五、戸數三百六十九を有する
社寺 男山神社(村社)祭神譽田別尊外二神延喜七年四月寶藏院沙門明印詔を奉して勸請せ
しものである。

神前神社(無格者)延喜式所載讚岐二十四座の一である祭神猿田彦の命と云ふ。

寶善寺 南流山利劔院と號す眞言宗寶藏院末延喜七年五月寶藏院明印法師の草創である。
繁昌院 醍醐三寶院末眞言宗寛永五年山口左近將監入道して大教院證雲と稱し之を草創し
た。

史蹟 神前城趾 宮内にあり神前出羽正之享祿三年此地に城を築き神前郷を領して居つた
が後長尾に移つたと云ふ。

【造田村】 東神前村北志度町南石田、長尾、西木田郡井戸村に接す舊造田郷に屬し後野間
田乙井、是弘、宮西の各村を合併して村制を布いたもので面積〇、方里四七五大正十年末
人口二千六百十三、戸數五百一を有す。

社寺 造田八幡宮(郷社)祭神少童外命四神仁和二年山城石清水より勸請したと云ふ。

願興寺 眞言宗施藥山悲田院と號し寶藏院末天長七年正月沙門徹圓の草創である。

圓光寺 珠鏡山觀性院と號し眞言宗寶藏院末慶長年中沙門増永堂宇を修造、舊今の地より
三町北にあたと云ふ。

右の外不動庵、輿院、花嚴庵などがある。

野間田池、志度町、造田村、神前村に跨る周圍一里三十二丁面積二十町歩。

【長尾町】 東石田村、北造田村、南多和村西、木田郡奥鹿、井戸に接して居る舊長尾郷の
内長尾東、同西、名村、前山の四村を合併したもので大正四年十一月十日町制を布いた面
積一方里三九八大正十年末人口六千七十八、戸數千三百九を有す大川郡の中心で最西端に
位し高松長尾間の電鐵終点で大川郡役所は此處にある。

社寺 宇佐八幡神社(郷社)祭神仲哀天皇外二神承平六年九月勸請寛永十二年舊殿を改修し
た。

寶藏院 眞言宗大覺寺末紫雲山極樂寺と號す天平年間行基菩薩寺を石田村に建て天長元年
四月弘法大師勅を奉し之を鴨部東山に移し延元年中今の地に遷した、元暦二年源判官大夫
黒の馬を此寺に贈り佐藤次信の爲めに追奠を爲したことがある、往昔當時の住僧に明印法
師なる者あり碩學の聞あり菅原道眞當國に守たる時此寺に遊び詩文の贈答があつた、國寶
として木造藥師如來一軀がある。

長尾寺 天臺宗山城實相院末補陀落山觀音院と號し天平十一年行基の草創後弘法大師修營し聖觀音像を造り安置した天正年中兵火に罹り慶長年間生駒氏弘に寄り復興した鐘樓二王門あり鎮守天滿宮は菅公の自畫である本寺は四國八十七番の靈場である。

西善寺 常持山是真院真宗三木郡常光寺末天長年中大師基跡に常持房なる者一字を建て光明寺と號したが後廢し年を経て佐々木高綱來り修補を加へ復舊した文安年中及天正年中兵火に罹り承應年中此地に移し造營したものである。

寶圓寺 真宗清水山と號す長亨二年沙門了圓草創傳西寺真宗瑞林山と號す大永年中沙門了圓弟澄性の草創。

秀圓寺 真宗常光寺末由緒不詳。

傳西寺 長尾東にあり真宗本願寺末大永二年沙門證性の開基である。

史跡 寒川長俊墓 尾崎にあり長俊世々本郡を領す因て寒川を氏とす文明十二年十一月十七日安富氏と此地に戰つて死した、長俊は寒川右馬允繼俊の父である。

淨慶墓 長尾驛道南田中にあり寒川丹後の弟光長薙髮入道して淨慶と云ひ正保二年十一月八十餘歳で死んだ。

晝寢城 字前山山上にあり元龜三年寒川元隣此城に移り世々此城に居つた其後寒川三河光

長之れに居つたが天正三年九月阿波海部左近此城を攻て遂に陥れた。

人物 白井芝石 名は昇長尾の人山水鳥花を畫くに巧みであつたが明治三十四年十一月五

十五歳で歿した。

名勝 龜鶴遊園地 長尾町の南五六町にあり眺望佳絶春秋の候清遊する者多い。

【多和村】 東五名山山村北長尾町西木田郡奥鹿村南德島縣美馬郡に接す舊長尾郷内に屬し後

獨立して一村となつた元奥山村と稱したが大正八年一月一日より多和村と改稱した面積〇

、方里八五四大正十年末人口千九十一、戸數二百三十三戸を有す。

社寺 多和神社(郷社)越窓にあり速秋津比賣命外五神を祀る由緒不詳。

大窪寺 眞言宗嵯峨大覺寺末天平勝寶中行基法師の草創四國最終八十八番の札所である由

緒古きも天正二年兵火に罹つた爲め名實烏有に歸した。

【志度町】 郡の西北隅に位し南造田村東鳴部東北鳴庄東南神前村西木田郡牟禮及平井町に

接して居る舊志度郷下に屬し後志度、末の二村を合して村制を布き明治三十一年二月十一

日町となつた面積〇、方里七一〇大正十年末人口六千八十九、戸數千三百九十七を有する

高松志度間電鐵の終点で德島縣に通する國道濱街道の要路である。

社寺 志度寺 仁和寺末眞言宗補陀落山清淨光院と號す四國八十六番の名刹で推古帝の時

建立せられ高松以東に於て最古の寺である、國寶に絹本着色志度寺緣起圖繪六幅、絹本着

色十一面觀音畫像一幅、木造十一面觀音兩脇士像三軀あり他に靈寶什物夥しい末寺に常樂

寺、金剛寺、地藏寺がある。

眞覺寺 眞宗阿波東光寺末此寺初め天台宗にて阿波にあり後大内郡及三木郡に移り新藏坊

と稱した其後此地に移り慶安四年寺號を改めた。
東林寺 惠遠山放光院と號し淨土宗京都智恩院末邦内淨土宗四箇寺の一延寶四年源頼常再興した。

靈芝寺 西末にあり東林山遍照光院と號す明曆三年僧眞政の建つる處である。

史蹟 平賀源内宅趾、志度町新町にあり源内の祖先是甲州武田家の臣で當國に移住し父は醫を業とした、源内幼より大志を抱き諸國を周遊し和漢洋の學を究め各種の發明を爲し名聲一時に揚つた惜哉其終りを全ふする能はず安永八年十二月江戸の獄中に歿した年四十八今源内の裔として熊太郎と稱する者あると云ふ。

人物 三谷林造 林叟と號す元志度の人で幼より製陶に熱中志度焼を改良工夫した後平木に移り又屋島山麓に移り屋島樂焼を造り又畫を能くした寶曆元年生れ嘉永元年八月九十八歳で歿した。

【鳴庄村】 東小田村及鴨部村南志度町に接し北及西は瀬戸内海に瀕す舊鴨部郷の下にあり後下の庄を以て一村を編制し鴨部下庄と稱したが大正五年一月一日より改稱した面積〇、方里六〇〇大正十年末人口三千二百四十五、戸數六百七十四を有する。

西方寺 東光山安養院と號し眞言宗寶藏院末承曆三年の草創である元中筋村より今の地に移つた。

【部村】 東津田町南神前西鴨庄志度に接し北瀬戸内海に面す舊鴨部郷の下東山、中筋村

を併合一村を編制したものの面積〇、方里七二八大正十年末人口三千四十八、戸數六百三十九を有す。

社寺 志太張神社(村社)祭神天下春命鴨部東山の南山にあり延喜式二十四座の一天長六年勸請し天正年中兵火に罹り其後再興したものである。

鴨部神社(郷社)祭神譽田別命外二神承平六年八月の創立で永正元年火災に罹り寒川右近光重再建寛永元年修築した。

蓮住寺 横超山と號し眞宗東光寺末天文元年金子十郎光盛入道して光善と改め草創したものである。

長福寺 眞言宗大覺寺末天長元年弘法大師勅に依り建立貞觀三年又勅を奉じて仁王會を修した爾後歷朝の勅願所であつたが天正年中鴨部の城主池田恒利寺領を寄進した、國寶として木造藥師如來坐像一軀ある。

【小田村】 南鴨部西鴨庄北瀬戸内海に面す舊鴨部郷の下四村の内小田を獨立したもので面積〇、方里四五九大正十年末人口二千五百六、戸數六百四十六を有して居る本村より毎年朝鮮方面へ出漁する者頗る多い。

【津田町】 東及北は瀬戸内海に面し小田、鴨部、神前、富田、松尾、鶴羽の諸村と界を接す舊鶴羽郷の下津田の一村を獨立したもので明治三十一年二月十一日より町制を布いた面積〇、方里五四四大正十年末人口五千七百五十三、戸數千三百四十を有して居る琴林公園

の所在地で夏期殊に清冽風趣に富んで居る。

社寺 八幡宮(郷社)津田松原にあり祭神譽田別命外二神承和年間社僧常樂坊の宇佐より勸請せしもの天正年中兵火に罹り文祿年中再興したものである。

光西寺 至心山と號す真宗興正寺末元當藏坊と云ひ鶴羽村にあり真言宗であつたが明應年中沙門了善今の宗に改め富田東村に移り又中村に移つた天正年中兵火に罹り寛永十九年寺號を改め正保六年今の地に遷つた。

法道寺 真言宗金剛峯寺末明治十二年三月大社勘七の寄進草創である。

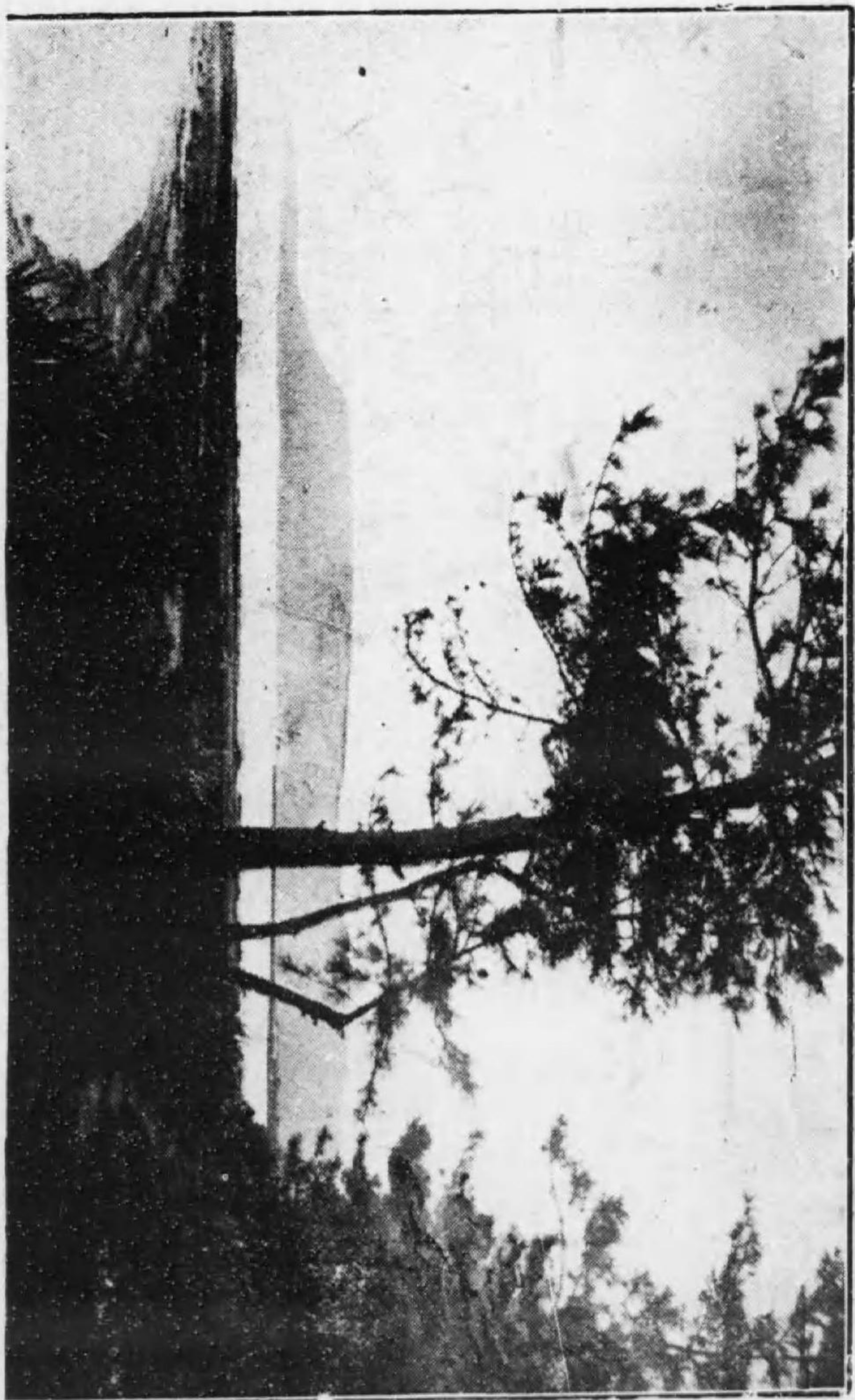
實相寺 自然山十輪院と號す真言宗京都大覺寺末天平五年三月行基の草創である天長六年九月真濟僧正再營して真言に改宗した。

等利寺 真言宗寶藏院末明醫山長壽院と號す承平六年九月同所最勝坊舊跡に再興したものである。

人物 安藝雲峯 榮柱の男畫を應舉に學び之を能くした寛政年間の人である。

【鶴羽村】 西津田、南松尾、東丹生村に界し北は瀬戸内海に面して居る舊鶴羽郷に屬し後鶴羽、津田の二村の内獨立一村を爲したもので面積〇、方里三二五大正十年末人口二千三百八十二、戸數五百十八を有する。

社寺 淨土寺 摩尼山寶樹院と號く真言宗虚空藏院末天正明暦年間の經營である。



徳 遠 山 景 園

木田郡

明治三十二年四月法律四十一號を以て舊三木、山田の二郡を併合改稱せらるゝに至つた、三木の起原は御木又は御城なりとし山田は春日山田皇女の御名よりとか又山の田多きより來れりと云ふ府志に依れば往時三木郡は八郷十六村山田郡は十二郷三十一村であつた、即ち左の通り。

三木郡		山田郡	
郷名	村名	郷名	村名
井戸	三村	井戸、奥山、鹿庭	原
高岡	二村	上高岡、下高岡	池戸
氷上	二村	氷上、小蓑	車禮、大町
田中	二村	田中、朝倉	原
井上	三村	井上、鹿伏、平木	山田郡
池戸	一村	池戸	郷村名
車禮	二村		
原	一村		

郷名

植田	三村	東植田、西植田、菅澤
池田	二村	池田、高野
坂本	一村	坂本
十川	三村	東十川、西十川、南龜田
三谷	一村	三谷
林	二村	上林、下林
田井	三村	上田井、下田井、六條
元山	四村	元山、山崎、春日、富岡
前田	四村	東前田、西前田、小村、北龜田
高松	三村	古高松、新田、東瀉元
木太	三村	木太、夷村、西瀉元
庵治	二村	陸村、濱村

以上の通りであつたが明治二十二年十二月縣令八十四號を以て左の通り合併存置二十三年二月十五日より町村制を施行された。(一六七頁沿革参照)

新村名	舊村名	新村名	舊村名
奥鹿村	奥山村、龜庭村	前田村	東前田村、西前田村、北龜田村

田中村	田中村、朝倉村、小養村	川添村	元山村、山崎村、下田井村
氷上村	氷上村、上高岡村	木太村	木太村
下高岡村	下高岡村	林村	下林村、上林村、六條村
井戸村	井戸村	三谷村	三谷村
平井町	池戸村、平木村、井上村、鹿伏村	川島町	坂本村、上田井村、高野村
牟禮村	牟禮村、大町村、原村	十河村	小村、南龜田村、東十川村、西十川村
庵治村	庵治村	東植田村	東植田村、菅澤村
古高松村	古高松村、春日村、新田村	西植田村	西植田村、池田村
屋島村	西瀉元村、東瀉元村、屋島村		

三木、山田郡の統治は大川郡の記述中に掲げた通りで中古迄神櫛王の裔に依り支配された其優なるものは植田、寒川、神内、三谷、十河など凡そ二十八族あつたと稱せられる、山田郡は白川帝及安徳帝の時御領とされたことがある。

本郡は東大川郡西香川郡南徳島縣美馬郡に接し北瀬戸内海に面して居る、地勢南北に長く南奥鹿村より北庵治村に至る里程七里二十二丁東井戸村より西三谷村に至る里程二里二十八丁面積十三方里〇五一管内第五位の面積を有する、山嶽として特記すべきものはないが牟禮村所屬の五劔山(千五百二十七尺)屋島山は史蹟名勝よりして名高い、(第一〇四頁参照)河川には春日川(流域四里十八町)新川(流域四里三十一丁)などあるが平素涸渇して居る

【土地】 本郡土質は大川郡の部に於て述べたると大差ない今本郡の地目段別を示すと次

の通りである。

地目	民有有租地		民有免租地		官有地	
	段	別	段	別	段	別
田	六、三三七 ^町 六二	保安林	三五九 ^町 五三 ^畝	河川	二七三 ^町 三一 ^畝	
畑	八八四、九〇	溜池	五八、一六	道路	三五一、七七	
宅地	五八八、六一	道路	二四、三四	溝渠	二四六、四〇	
鹽田	一三四、一〇	砂防地		堤塘	一四、〇九	
池沼	七、二七	墳墓地	四三、四二	社地	四七、六九	
山林	七、五六五、六六	堤塘	七六、七一	寺地	四、三三	
原野	七、〇八	學校敷地	八、一九	溜池	八三六、七七	
雜種地	三、四六	其他	八一、九三	其他	一八、〇八	
計	一五、五二八、七〇	計	六五二、二八	計	一、七九二、四四	

【戸口】 本郡大正十年末現在現住人口は計七萬四千三百五十人内男三萬六千九百五十人女三萬七千四百一人で本籍人口九萬一千九百七十七人に對し壹萬七千五百六十七人の不足を示して居る蓋し本籍人口中には若干の虚數を包含せるも要するに本郡入員に比し他への出員多きを示せるものである、されど一面より觀察するときは本郡一方里の人口密度五千六百九十七人三一で本縣他郡に比し其稠密せる點に於ては第三位にあり且つ全國一方里平均人口二千二百三十九人に對比すれば實に二倍半余に當り(總說二八頁參照)如何に天惠厚く又如何に集約的經濟的の農作に依るも其分配の年と共に遞減せるは論するの要なく殊に本郡の如き工業的生產の比較的發達せざる關係より觀るときは寧ろ他への出員の僅少なるを嘆すべしである今本籍人口現住人口並に戸數を町村別に表示して見る。

本籍人口、現住人口、戸數町村別

(×印は町)

町村名	本籍人口		現住人口		現住戸數
	男	女	男	女	
×平井	三、四八二	三、四八〇	三、一二七	三、一八二	一、一八三
奥鹿	一、二〇一	一、二三五	一、二〇一	一、二三五	四六二
田中	二、五五九	二、三三三	一、八六五	一、八五三	七三八
氷上	二、六七八	二、六〇五	二、〇〇九	二、〇四九	八四二
下高岡	一、二六一	一、二五八	八七〇	九八二	四〇五
井戸	二、五七五	二、三四九	一、八九八	二、〇一三	六九三
牟禮	四、一七〇	三、九四一	三、二七二	三、三〇七	一、一五五
庵治	三、三九九	三、四一五	三、一〇五	三、一一二	一、〇〇八
計	六、九六二	六、九六二	三、一二七	三、一八二	

古高松	二、五四三	二、五九二	五、一三五	二、一五三	二、〇四九	四、二〇二	八〇七
屋島	三、六九二	三、五九三	七、二八五	二、六九九	二、七八一	五、四八〇	一、一一三
前田	二、〇八四	二、〇一七	四、一〇一	一、四七八	一、六一二	三、〇九〇	五八一
川添	二、〇六八	一、九五九	四、〇二七	一、三六七	一、四二〇	二、七八七	五四九
木太	二、二一〇	二、一一六	四、三二六	一、六六八	一、五四八	三、二一六	六三六
林	二、三一四	二、一〇〇	四、四一四	一、七〇七	一、六四五	三、三五二	六〇四
三谷	一、八三三	一、七三八	三、五七一	一、三六一	一、三三五	二、六九六	五一〇
×川島	二、六五八	二、六二四	五、二八二	二、三七四	二、五六五	四、九三九	八三五
十河	二、一五二	二、〇四一	四、一九三	一、五九六	一、六二八	三、二二四	六一二
東植田	一、三七三	一、三五四	二、七二七	一、〇七九	一、〇七二	二、一五一	四〇〇
西植田	二、五二一	二、三五四	四、八七五	二、一一一	二、〇一三	四、一三四	八一七
計	四六、七七三	四五、一四四	九一、九一七	三六、九五〇	三七、四〇一	七四、三五一	一三、九五〇

【交通】 本郡陸路の交通として高松市玉藻町より大川郡に通ずる国道二十二號線の本郡木太村、古高松村及牟禮村を通ずるあり縣道塩の江、高松線にして古高松村より前田、十河、東植田村を通ずるもの同高松、脇町線にして奥鹿村を通ずるもの同高松、長尾線にして木太、川添、前田、平井、井戸村に通ずるもの長尾、坂出線にして三谷、坂の上、十河

平井、下高岡村(重用とも)に通ずるものあり郡道として左の十七線がある。

郡道 庵治線主要延長一里十八丁、屋島線同二十八丁、浦生線同二十七丁、八栗東線同三十一丁、八栗西線同二十二丁、佛生山線同三丁、田中線同一里十九丁、植田線同二里、川東線同二里三十一丁、鹿庭線同三里三十一丁、白山線同三十二丁、北山線同二里二十七丁、平井線同一里二十二丁、佛坂線同一里十一丁、林線同一里二十丁此の主要總延長二十三里四丁二十七間の外。

里道 延里數四十七里に達するが殊に本郡北部は高松より志度に通ずる電鐵中央部には高松より長尾に通ずる電車の運轉ありて他郡に比し最も交通の便が開けて居る。

【教育】 郡内小學校は合計二十七校で内尋常小學校二校高等科を併置するもの十九校分敷場六校學級尋常科二百二十七高等科三十一合計二百五十八又尋常科の教授に從事する正教員男百三十一名女六十七名高等科の教授に從事する男三十二名尋常科專科正教員男二名女十名同高等科女一名尋常科准教員男九名女十七名尋常科代用教員男十一名女十二名合計男百八十五名女百七十七名、在籍兒童は十年三月一日現在尋常科男五千八百七十七女五千六百八十四高等科男九百十女三百二十七合計壹萬二千七百九十八名である。

本郡内所在縣立學校として平井町に甲種程度の農林學校あり明治三十六年四月五日の開校で乙種程度の郡立學校であつた、明治三十八年五月組織を變更し香川縣木田郡立甲種農林學校と改稱し同三十九年四月より縣立に變更し香川縣立農林學校と改稱するに至つた、生

徒定員本科二百名養蠶別科生三十名、現在學級合計四職員十五名本科生徒百六十四名別科十名で三十九年度より大正九年度迄の卒業生本科五百十三名別科百七十名を出して居る。木田高等女學校 明治四十五年四月一日木田郡下高岡村外四箇村組合學校として設立せられ白山高等女學校と稱した、大正二年四月木田實科高等女學校と改め大正十年四月木田高等女學校と變更郡制廢止に伴ひ十一年度より縣立に移管された、生徒定員二百名職員十一名學級六在籍生徒二百二十四名明治四十三年度より大正九年度迄の卒業生四百八十名を出して居る。

【財政】 本郡大正十年年度歳入出原豫算は八萬二千六百二十五圓で内歳入は經常部七萬四千二百六圓臨時部八千四百十九圓、歳出は經常部四萬三千六百六十三圓臨時部三萬八千九百六十二圓である、歳入の内七萬六千三百三十三圓は町村分賦額で他の収入では授業料の三千八百八十四圓と縣費補助金七千二百七十七圓が主である又歳出の主なるものは高等女學校費及臨時部教育費に屬する合計二萬四千二百四十九圓次は土木費の經常臨時合計二萬九千九百六圓郡吏員費の一萬二千四百二十七圓勸業費の七千四百八十圓と云ふ順である。

【衛生】 本郡の治療機關として開業せる醫師二十二名齒科醫師一名の外産婆四十名看護婦五十名であるが本郡は前年度に於て産婆看護婦の養成を行ひ例年の一般的行事として衛生事務講習講話會及衛生思想を周知普及せしむる爲め例年郡費豫算を計上宣傳して居る。

【金融貯金】 本郡の金融機關としては獨立せる機關なく平井町に高松銀行の支店あるのみである、次に本郡民郵便貯金は大正十年三月末日現在人員二萬二千四百四十四人金額七十九萬八千四百四十六圓に達して居る。

【産業】 産業機關として平井町大字池戸に木田郡一圓を地區とする木田郡蚕絲業同業組合あり他に他郡市と共に本郡を區域とせるものに東讚醬油醸造同業組合、木田香川糖業同業組合、東讚肥料商同業組合、東讚糠田同業組合などがある又産業の助長金融の機關として産業組合法に依る信用組合其他合計十九組合がある、本郡の實業團體としては資本金一萬圓以上の會社を列記すると次の通りである。

名	營業種類	所在地	資本金
屋島醬油株式會社	醬油製造	屋島村	二五〇、〇〇〇
屋島製藥株式會社	實業製造販賣	同	二〇〇、〇〇〇
屋島鹽田株式會社	製鹽	同	一〇〇、〇〇〇
川島酒造株式會社	酒製造販賣	川島町	一〇〇、〇〇〇
讚岐織物株式會社	綿織物製造販賣	同	一一〇、〇〇〇
四國興産株式會社	麥稈及經木眞田製造販賣	川添村	三〇〇、〇〇〇
植田醬油株式會社	醬油醸造並酒類販賣	西植田村	一〇〇、〇〇〇
木太鹽田株式會社	製鹽	木太村	二六〇、〇〇〇
讚岐木材加工株式會社	薪炭賣買木材加工	牟禮村	一〇、〇〇〇
平井染織工業株式會社	木綿織物製造	平井町	六〇、〇〇〇

【工業】 最近の調査に依れば本郡の工産物總價額は三百四十三萬圓で其内主なるものは

蚕絲の二十二萬圓、炭十二萬圓、瓦四萬八千圓、賣藥八萬五千圓、酒七十七萬四千圓、醬油四十九萬五千圓、砂糖十六萬五千圓、麥粉十九萬圓、影拔細工四萬圓、麥稈真田八十萬圓、藥製品十二萬圓などである。

次に大正十年末調査に係る本郡に於ける職工十人以上を使用する工場は次の通りである。

工場名稱	製品種類	所在地	工場名稱	製品種類	所在地
屋島製藥株式會社	賣藥製造	屋島村	山田酒造工場	酒釀造	牟禮村
屋島醬油株式會社	醬油製造	同	宮崎酒造工場	同	川島村
工場	タオル製造	同	蟻塚酒造工場	同	木太村
屋島タオル工場	炭酸マゲネシヤ製造	同	山田製絲工場	製絲	前田村
富田製藥屋島工場	酒製造	同	松原海苔製造工場	海苔製造	木太村
山地酒造工場	酒製造工場	同	讀岐織物株式會社	木綿製造	川島町
木村酒造所	タオル製造	同	岡坂醬油製造工場	醬油製造	牟禮村
妻鹿タオル工場	酒製造	同	鈴木茂内醬油工場	同	川島町
寶美人醸造場	織物製造染色加工	平井町	川島酒造株式會社	酒製造	同
平井染織工業株式會社					

【社 寺】 郡内に現在する神社は縣社一、郷社九、村社二十、無格者四百三十三合計四百

六十三社で寺院は眞言宗十七、淨土宗四、眞宗三十二、日蓮宗一合計五十四ヶ寺で境外佛堂が一ある。神社に就ては村社以上、寺院に就ては著名のものを各所在町村の部に於て掲記することにする。

人物、名勝、史蹟 人物名勝史蹟に就ても比較的著名のもの、みを所在町村の部に掲記する【平井町】 東大川郡志度町及本郡井戸、下高岡村に接し南水上、田中、西前田、北牟禮村に界して居る面積〇、方里九〇三元池戸、平木、井上、鹿伏の各村を合併したもので大正八年四月一日町制を施行した、大正十年末人口六千三百九名、戸數千八百八十三木田郡役所は本町字池戸にある。

社寺 天野神社(村社)祭神丹生都比賣命外一神天正の頃松原五郎信義なる者河内の國より勸請したものである。

八幡神社(村社)池戸川北にあり祭神應神天皇、社僧惠徳院延喜十四年勸請したものである

法泉寺 平等山淨教院と號す眞宗興正寺末文明二年京都沙門宗次の草創。

常滿寺 一向宗氷上常光寺末寛正中沙門西正の草創。

妙徳寺 妙雲山と號し法華宗京都妙覺寺末貞治六年沙門同教の草創。

西徳寺 不遠山と號し眞宗常光寺末舊攝津國より天正年中沙門了願此地に移した。

觀音庵 字井上にあり眞言宗極樂寺末元慶年中聖寶僧正の草創。

史蹟 平木城、三木高長之に居り當郡を領した俗に平木殿と云ふ後安富筑前盛方之を居城

としたが後虎丸城に移つた。

池戸城 池戸宗戸にあり中城と云ふ初め安富氏はに居り後山地九郎左衛門居つた。

人物 奈良專二、池戸の農文政五年九月十三日生、幼時より農事に志し稻種の改良耕耘の方法を傳授した始め愛媛縣に奉職明治十八年千葉縣に奉職した明治二十五年五月三日綠綬褒章を賜ひ同月四日秋田縣花館村の旅寓に於て七十一歳で歿した。

【奥鹿村】 東大川郡長尾町及多和村、南徳島縣美馬郡西田中村北氷上及井戸村に接し面積一方里七二六舊井戸郷の内奥山、鹿庭村を改稱一村とせしもの大正十年末人口二千四百三十六、戸數四百六十三。

【田中村】 東奥鹿、氷上南香川郡塩江村西、東植田、北平井町に接して居る面積一方里二三八舊田中郷の田中、朝倉及氷上郷の小蓑を合併せしもの大正十年末人口三千七百十八、戸數七百三十八。

社寺 熊野神社(村社)祭神伊弉册命文治年中多田四郎と云ふ者阿波大瀧寺より勸請したものである。

雷八幡神社(村社)祭神仲哀天皇外二神承平六年八月の勸請である。

福住寺 眞宗常光寺末寛正年間沙門了圓の草創である。

信光寺 眞宗常光寺末文明年中沙門了信の草創。

史蹟 田中城 三木高長の居城で高長は三木郡を領した。

名勝 虹の瀑、字小蓑にあり雄瀧とも云ふ又上に瀧ありカモジガ瀧又雌瀧とも云ふ雄瀧高さ九間幅四間、雌瀧高八間幅三間あり。

【氷上村】 東南奥鹿、東井戸、西田中、北下高岡及平井町に接す舊高岡郷の上高岡、氷上郷の氷上村を合したもので面積〇、方里四九五、大正十年末人口四千五十八、戸數八百四十二社 寺 八幡神社(村社)祭神天照皇太神外二神承平六年八月の勸請である。

常光寺 眞宗京都興正寺末應安年中沙門淨泉の草創である。

蓮成寺 眞宗常光寺末明應年中沙門淨修の草創である。

長覺寺 同上始め古城趾で殿屋敷と稱した長祿年中高松重行法名圓實の草創で始め長福寺と稱した。

【下高岡村】 東井戸、南氷上、西及北平井町に界す舊高岡郷の下高岡村を一村としたもので面積〇、方里二五八、大正十年末人口千八百五十二、戸數四百五。

社寺 鰐河神社(郷社)祭神譽田別命外一神延喜式讚岐二十四社の一で延喜七年四月の勸請である。

願勝寺 眞宗塚脇山願乘院と號し東本願寺末元久年中佐々木高綱入道當地に來り静塚の脇に一字を建て静の菩提を吊ひ後願勝寺と名付けた。

史蹟 小添大添墓、白山にあり文祿元年高岡城左衛門宗弼生駒近正に隨ひ朝鮮陣に於て小添大添の官女二人を捉へ歸り豊太閤に奉り後生駒家に賜はり城左衛門に預けられ同家にて

終つたのである。

高岡城 三木紀伊守高長の塙で三木氏は郡の地頭であつた、三木氏歿後安富筑前守盛方の居城となつた。

朝鮮人墓(白山)高松内匠朝鮮より虜として歸つた朝鮮人三人後此里に居り死後此地に葬つた里人唐人塚と稱して居る。

人物 聖一國師、白山下の人五歳養辨法師に従ひ僧となり嘉禎元年宋に入り經山寺無準に衣鉢した、仁治二年歸朝同三年東福寺を創建弘安三年十月十五日寂したが正和元年聖一國師の號を諡られた。

【井戸村】 東大川郡長尾町及造田村、西下高岡及平井町に接す舊井戸郷下三村の内二村を獨立したもので面積〇、方里五二五大正十年末現在人口三千九百十一、戸數六百九十三を有す社寺 和爾加波神社(郷社)祭神豊玉比賣命外三神延喜式内讚岐二十四社の一つである。眞行寺 寶積山光正院と號し眞言宗長尾寶藏院末天長七年十月寶藏院徹圓法印の草創である。

淨土寺 高木山十樂院と號し眞言宗長尾寶藏院末承平六年九月明海法印の草創である。

專修寺 一心山稱光院と號し淨土宗智恩院末天文年中東光上人の草創。

宗壽院 三量山鬼骨寺と號し淨土宗專修寺末天正中讃譽上人の草創。

史蹟 井戸城 下井戸にあり紀伊守信親之に居つた時人井戸殿と稱した。二條城 柏木に

あり佐野久兵衛の居城であつた。

【牟禮村】 東志度灣に蒞み南平井町、西古高松、北庵治村に界す、舊牟禮、大町及原村を合併したもので面積一方里〇五三大正十年末人口六千五百七十九、戸數千百五十五。

社寺 八幡神社(村社)原にあり應神天皇を祀る由緒不詳。

白羽神社(郷社)祭神譽田別命外八神文明年中中村加賀守氏宗の勸請である。

松井神社(村社)祭神少名彥命外四神由緒不詳。

開法寺(大町)對潮山遍照院と號す眞言宗八栗寺末天正中兵火に罹り寶曆九年再興した。

州崎寺(牟禮)眺海山圓通院と號し眞言宗八栗寺末創建不詳であるが元暦の當時既に存在して居つた。

西林寺(牟禮)幽珠山慈雲院と號し眞言宗八栗寺末創建不詳。

六万寺(牟禮)眞言宗靈芝寺末聖武帝の時行基勅を奉し建立したものを壽永二年安徳帝一時行在所とせられしことあり。

八栗寺(第一)(五頁参照)。

史蹟 王墓 志度街道の南岡にあり大墓とも稱す神櫛王當國の國造に任せられ此所に宮居せられたが薨して此所に葬り奉つた明治三年五月松平頼聰四邊を修理し一大石碑を建立した。

佐藤嗣信及太夫黒墓、王墓の東にあり壽永四年三月十九日屋島の戰に能登守教經の爲めに

射られて死したるもの太夫黒は嗣信の乗馬で後に葬つたものである。
いのり岩、牟禮の海岸字砂子の路傍海中にあり、下野國住人奈須與市が扇を射るとき此石を神として祈念したと傳へられる。

駒立石 那須與市扇の的を射るとき馬を駐めし石である、玉蟲姫扇を持ち的と爲した扇面に日輪を畫く故に之を避けて其軸を射て斷つた扇面散つて日に映し波に飄ふさま龍田の紅葉の如かつた乃ち玉蟲姫歌で「時ならぬ花や紅葉を見つる哉、芳野初瀬の麓ならねど」。

幡羅城 同村原字宮の前八幡神社東の山上にあり此山を房前山と云ふ原采女之に居つた。人物 柴野栗山通稱彦輔栗山又古愚軒と號した元文元年本村字宗時に生れた、始め芝山に學び後京師に入り國學を高橋圖南に受け業成り阿波侯に聘せられ天明八年正月幕府の儒員に召され昌平校の教授となり後侍問儒員となり天下の學政を改革し文化四年十二月一日江戸駿臺の私邸に歿した享年七十二歳著書に雜字類編、國鑑、賢像圖考、資治格言、冠服考證、栗山文集等あり、明治四十四年六月一日從四位を贈られた。

栗山堂 栗山を祀る處堂は栗山の出生地なる宗時の舊趾にあり木像を安置し又圖書千餘冊を藏されて居る。

【庵治村】 南牟禮村に界し東北西の三面は瀬戸内海に臨む明治七年七月陸、濱の二村を合せ庵治村とし二十三年二月より村制を施行せしもの面積〇、方里九〇六大正十年末人口六千二百十七、戸數千八。

社寺 櫻八幡神社(郷社)祭神譽田別命外三神で承和七年沙門眞濟の勸請である。

願成寺 瑠璃山薬師院と號し眞言宗滿願寺末承和二年の草創である。

専休寺 庵治城趾にあり眞宗興正寺末初め眞言宗で無量壽寺と稱したが文明年中號を改め改宗した。

延長寺 庵治濱村にあり眞宗京都佛光寺末天正年中濱の坊正量なる者の草創である。

【古高松村】 東牟禮、南前田、川添、西木太、北屋島村に界して居る元高松と稱したのであるが天正年間生駒氏城を今の高松に築き後古高松と稱せしめた舊古高松、新田、東瀧元の三村を以て高松郷を爲して居つた面積〇、方里七三四大正十年末人口四千二百二、戸數八百七。

社寺 春日神社(村社)祭神天津兒屋根命外三神天平年中久米寺勸請。

妙覺寺 寶林山と號し眞宗東本願寺末永祿年中沙門教立の草創である。

延命寺 醫王山薬師院と號し眞言宗屋島寺末開基不詳行基作の薬師を安置してある。

喜岡寺 榮松山不二院と號し眞言宗屋島寺末喜岡城趾にあり寛喜元年沙門覺行の草創で元淨光院と稱し高松家の香華院であつた。

正蓮寺 新田に在り眞宗興正寺末由緒不詳。

史蹟 喜岡城 多田滿仲九世の孫土佐五郎光定の子高松三郎頼重及頼行世々之に居り左馬助頼邑に至つて香西氏に屬した附近に頼邑及忠臣片山志摩の墓がある。

人物 木内龍山順二 名は仲和龍山と號す文化八年十二月五日香川郡圓座小橋家に生れた詩書に通し勤王の大義を鼓吹し傍ら著書に従ひ著すところ數十種慶應三年十一月五十八歳で歿した。

【屋島村】 舊瀉元村と稱したが大正九年一月より改稱した東西瀉元村及屋島村を合せたもの面積〇、方里六七〇大正十年末人口五千八百四十、戸數千百十三。

社寺 八坂神社(村社)祭神速須佐男命由緒不詳。

屋島神社(縣社)東瀉元字山畑に在り祭神東照大神外一神松平頼重寛永年間宮脇村蓮門院境内に創建文化元年頼儀今の地に奉遷した。

八幡神社(郷社)祭神仲衷天皇外二神創建年月不詳。

地藏寺 西瀉元にあり眞言宗屋島寺末由緒不詳。

屋島寺 (總説名勝第一〇四頁参照)

史蹟 檀の浦源平古戰場 屋島山の東麓にあり海水灣をなし風光絶佳此所壽永の昔源平兩軍の奮闘したる古戰場で此邊を總稱して檀の浦と云ふ。

菊王丸墓 屋島山東麓にあり平家方能守教經の童子で源氏方佐藤嗣信を討たんとし四郎兵衛忠信の矢に倒れた。

加持水 屋島の山腹路傍に在り往昔弘法大師此水を誦呪加持して佛に供養したりと云ふより此の名あり。

不食梨 上り本道にあり往昔此處に梨の大樹あり多くの實を結ぶ持主來り其梨を採り居たるを空海會々來り樹下に憩ひ一顆を乞ひしに其人欺ひて曰く美味なる如きも苦澁食すべからずとて與へず其後多くの實を結ぶも食す可からざる梨となる依て不食の梨と云ふ。

壘石 不食の梨より少し上りたる處數十歩の間奇岩層々相重つて其狀恰も壘を積むに似たり依て此名あり(總説名勝第一〇四頁参照)。

平家蟹 屋島浦より産す其形ち甲に鬼面ありて怒るが如し。

屋島燒(第八七頁参照)。

【前田村】 東平井町、西十河、川添、北古高松村に界す、元東前田、西前田、北龜田村を合併せしもの面積〇、方里三七九大正十年末人口三千九十、戸數五百八十一。

社寺 八幡神社(郷社)祭神品陀和氣命外二神承平六年八月の勸請。

西光寺 西前田にあり眞宗興正寺末由緒不詳。

長妙寺 同上眞宗興正寺末文明年中沙門玄通の草創である。

史蹟 前田城 前田頼母助成光之に居る、後土佐元親の爲めに陥落せられ城壞今藥師堂となつて居る。

【川添村】 東前、田十河、南川島町、西林及木太、北古高松村に界す舊元山、山崎、下田井の三村を合併せしもの面積〇、方里二八五大正十年末人口二千七百八十七、戸數五百四十九社寺 八幡神社(村社)祭神品陀和氣命慶長四年新庄太郎兵衛長重の勸請せしものである。

石清水神社(村社)祭神品陀和氣命外二神久米寺貞觀元年の勸請。
西樂寺(下田井)一向宗興正寺末寛文中沙門教請の草創である。

【木太村】 東古高松、川添、南林、西香川郡太田村に界し北瀬戸内海に面す舊木太郷三村の内木太、夷の二村を合併せしもの面積〇、方里三五一大正十年末人口三千二百十六、戸數六百三十六。

社寺 八坂神社(郷社)祭神須佐男命由緒不詳。

善立寺 紫金山覺應院と號し一向宗高松安養末天文三年沙門實壽の草創である。

大超寺 今村に在り眞宗興正寺末天明三年僧正玄の草創である。

史蹟 神内城 木太に在り神内右京進景之及右京進清宅之に居る神内氏は三谷十河の長兄で神櫛王の苗裔である。

人物 増田太兵衛雅宅 増田忠次郎正宅の子で菊地八右衛門武賢の兄である、後休意叟と號し又禮林丈人と號し本村に住した、武信、正宅、休意の三代よりして讃岐の事蹟を記述し之を三代物語と稱す、菊地武賢之を訂正して翁嫗野話と名付けた、休意は九十一歳で延享の頃歿した。

【林 村】 東川添、南川島、三谷、西香川郡多肥、北木太村に界す舊林郷の上林、下林二村に田井郷の六條を合せて一村としたもの面積〇、方里三五一大正十年末人口三千三百五十二、戸數六百四。

社寺 岩田神社(村社)祭神應神天皇延喜十五年觀賢僧正の勸請せしものである。

拜師神社(村社)祭神天下明命永享二年上林城主岡因幡守重輯造營したことがあるが勸請年月は不詳。

鹿島神社(村社)六條にあり祭神健御雷之神勸請年月は明らかでない。

正大寺 慶花山法興院と號し眞言宗大覺寺末弘仁三年大師早瀬岡に草創仁治三年今の地に移つた。

長專寺(六條)行基山青樹院と號し元六條の城跡である眞宗佛光寺末天正年中沙門順誓の草創である。

善教寺 今森山と號し眞宗蓮勝寺末萬治年中沙門西正の草創である。

三谷村 東川島町、西植田、西香川郡淺野、多肥、北林村に界す元三谷村を獨立一村としたもの面積〇、方里五四九大正十年末人口二千六百九十六、戸數五百十。

社寺 八幡神社(郷社)祭神譽田別命始め三谷池の中に沙門堯村の勸請せしもの三谷景晴崇信厚く其後の地に移した社實に景晴の納めた矢鏃がある。

重蓮寺 中原に在り眞宗興正寺末開基不詳中興慶長十五年西念法師。

人物 藤川三溪名は忠猷字は伯孝求馬と稱し後能登と改む文政元年三谷村に生れ儒醫を以て鳴る夙に勤王の志を抱き志士と往來獄に繋がる獄中著すもの多く後獄を出で官軍に従ひ奥羽を跋渉後修史局に出仕晩年水産學校を興し捕鯨の事業を企圖した明治二十四年七月大

阪に於て七十四歳で歿した。

漆原本敬諱は本敬元八郎と稱し南陽と號した三谷村の人、流民を集め村内の荒地を開墾し公共の爲めに盡すところ多かつたが明治七年九月六十九歳で歿した。

【川島町】 東十河南及西東植田村、西三谷、北川添村に界して居る舊坂本郷及田井郷の上田井池田郷の高野を合したもので面積〇、方里六〇〇大正十年末人口四千九百三十九、戸數八百三十五元坂の上村と稱したが大正十一年四月一日より川島町と改め町制を布いた。社寺 清水神社(村社)祭神神櫛明神、景行天皇五十四年の勸請である。

松宇神社(村社)祭神譽田別命和銅年中の勸請である。

源勝寺 眞宗西本願寺末沙門源空の草創で始め十河村にあつたが寛永中今の地に移つた。

蓮勝寺(上田井)眞宗氷上常光寺末天文二十三年沙門正信の草創。

眞樂寺 眞宗始め阿波にあつたが慶長年中此地に移つた。

淨信寺 眞宗源勝寺末沙門教善の草創。

高運院

坂元に在り眞言宗金剛峯寺末明治二十七年の草創である。

蓮福寺

上田井に在り眞宗眞正寺末開基不詳慶長十年の中興である。

【十河村】

郡の中央に位し東前田、平井、田中、南東植田、西川島、川添に界して居る舊

十河郷の三村及前田郷の小村を合併したもので面積〇、方里三八九大正十年末人口三千二百二十四、戸數六百十二。

社寺 鯉宇神社(村社)祭神品陀和氣命大化年中森口帶刀なる者の勸請せしものである。

光清寺 眞宗眞正寺末文明年中沙門善良の草創するところである。

朔方寺 眞宗東本願寺末天文年中沙門定讚信州より此地に移したものである。

稱念寺 頓證山清光院と號し淨土宗智恩院末文祿元年讚譽上人の草創である。

人物 小村田之助(小村)山田郡小村の政所某の子寛永二十年の大旱に際し地租を代納せしは不遜なりとし正保元年四月二十五日死刑に處せられた、遠近其死を惜まざる者なかつた

【東植田村】 東田中村南香川郡塩江村西、西植田北十河村に界して居る舊植田郷三村の内

東植田、菅澤を合したもので面積〇、方里六七六大正十年末人口二千五百五十一、戸數四百。

社寺 能野神社(村社)祭神伊邪那岐命外二神由緒不詳。

八幡神社(村社)祭神譽田和氣命天正元年八月植田美濃守藤尾八幡を勸請したものである。

専福寺 岩瀧山と號し眞宗眞正寺末永祿元年淑弟の草創である。

起勝寺 松野に在り眞宗眞正寺末開基不詳明治十二年の中興である。

【西植田村】 東、東植田村南香川郡塩江、安原村西、川東村、北川島町、三谷村に界す舊植田郷三村の内を獨立せしもの面積一方里一八二大正十年末人口四千三百三十四、戸數八百十七社寺 合子神社(村社)祭神譽田和氣命勸請年月不詳。

藤尾八幡神社(郷社)祭神應神天皇天正二年の勸請である。

勝名寺 眞宗常光寺末寛永七年沙門妙玄の草創である。

史蹟 戸田山城（一名城山）岡の城とも云ふ元龜天正の頃植田美濃守安信、安信の子三郎景保、景保の子左衛門景興、景興の子兵衛景通相嗣で之に居つた。
 神内城 臺山の城と云ふ元暦年間植田の族神内岩見守廣忠の居城で後貞治の頃神内景成天文天正の頃神内右近進景之、右近進清定相次て之れに居つた。
 神内池 寛永十二年五月四日起工同九月八日成功した工事は生駒高俊の臣西島八兵衛の監するところ後承應三年及元祿八年に修築した周圍一里二十八町面積六十九町あり。
 人物 村尾篁山 名は景敦字は士厚本村の人詩文に達し書法に精し鐵筆を能くし餘技に蘭竹を畫いた、詩集數編の著あり明治二十二年三月六十七歳で歿した。

小 豆 郡

本郡は讃岐本土と其沿革同しからず上古備前附屬の一島であつたが貞治年間細川氏の管領所となりてより讃岐の屬島となつた、慶長年間豊臣氏の直轄地となり、徳川氏の時世に至り支配人を定め代官を置き統治した、天保九年草壁、福田、大部を徳川直轄とし池田、淵崎、土庄、上庄、肥土山、小海を津山領とした、維新後明治四年二月徳川の直轄地は倉敷縣、津山領は津山縣、又北條縣の管轄とし四年十一月香川縣、六年二月名東縣、同年九月又香川縣、九年八月愛媛縣、二十一年十二月更に香川縣の所轄となつた。
 本郡の郷村に就ても中古以來分合あり名稱にも異同があつた、今天保九年幕府及津山藩分



赤 雲 紅 溪 霞 壑

領當時に於ける郷村を掲げると次の通りである。

郷名	村名	名
草加部郷	十四村	西、上、下、片庄、木庄、安田、占江、堀越、田浦、橋、岩谷、當濱、苗羽、坂手
池田郷	十一村	濱、北地、迎地、上地、室生、二面、神之浦、蒲生、中山、吉野、蒲野
土庄郷	六村	土庄、鹿島、大木戸、唐櫃、家浦、甲
淵崎郷	五村	淵崎、赤穂屋、伊喜末、黒岩、小馬越
上庄郷	二村	上庄、北山
小海郷	七村	小海、見目、尾形崎、馬越、瀧宮、長濱、小江
肥土山郷	二村	肥土山、笠ヶ瀧
大部郷	三村	大部、田井、小部
福田郷	二村	福田、吉田

以上の如くであつたが爾後屢々分合あり明治五年より同十一年十二月迄大小區戸長制度に依り明治十二年以後は獨立又は組合村を組織し戸長制のもとに村治を執つたが明治二十二年十二月縣令八十四號を以て左の通り併合二十三年二月十五日町村制を施行された(詳細は大川郡の部(一六七頁沿革參照))

新村名	舊村名	新村名	舊村名
土庄町	土庄村	安田村	安田村、木庄村、橋村、岩ヶ谷村、當
淵崎村	淵崎村、上庄村	苗羽村	苗羽村、占江村、堀越村、田浦村
大鐸村	肥土山村、黒岩村、笠ヶ瀧村、小馬越村	坂手村	坂手村

池田村 蒲生村、中山村
 二生村 室生村、二面村
 三都村 吉野村、蒲野村、神浦村
 西村 西村
 草壁町 上村、下村、片城村

福田村 福田村、吉田村
 大部村 大部村、小部村
 北浦村 小海村、見日村、屋形崎村、馬越村
 四海村 伊喜末村、小江村、長瀬村、瀧宮村
 豊島村 家浦村、唐瀬村、甲生村

本郡は讃岐國東北の海上にある島郡で本島の外二十有餘の屬島がある、東海を隔て、播磨及淡路に接し南は本國大川、木田、香川の三郡に面し北は播備の諸山に對して居る、東西七里十二町南北三里二十六町周圍三十六里面積十方里八〇管内七郡中最小の面積を有する山嶽は安田、草壁町に屬する星ヶ城山(二千七百三十尺)草壁町所屬の寒霞溪山(千八百十八尺)などあり河川としては傳法川(流域三里五丁)などで長大なるものはないが他の小川も地勢傾斜の急なるに依り一時に汎濫田畑人畜に危害を興へた事も尠くない。

【土地】 本郡の地質は花崗岩類其の基礎を成し火山岩類之を被覆して居るが稍平坦なる部位は砂礫壤土を被覆して居る、今地目段別を不すと次の通り。

地目	民有租地		民有免租地		官有地
	段	別	段	別	
畑	五九四 ^町 八九 ^畝	保安林	三〇九 ^町 五九 ^畝	河川	七〇 ^町 八一 ^畝
田	二、〇八〇、八六	溜池	四八、〇〇	道	八四、八八

地目	民有租地		民有免租地		官有地
	段	別	段	別	
宅地	二七九、四九	道防路	三八、六九	溝渠	二四、六四
鹽田	四三、三一	砂防地	一七、三四	堤塘	一四、〇九
池沼	一、六三	墓墳地	四八	寺地	二八、一七
山林	九、九四二、七二	堤塘	四八	寺地	三、二九
山野	四、〇一	學校敷地	四、八〇	溜池	一、〇一
原野	一五、三五	其他	一、八五	其他	二、四四
雜種地	一二、九六二、二六	其他	四二〇、七五	其他	二二九、三三
計		計		計	

【戸口】 本郡大正十年末本籍人口は計五萬六千二百二十一人で内男二萬八千七百三十人女二萬七千四百九十一人現住人口は計四萬五千八百八十一人内男二萬三千二百二人女二萬二千七百七十九人で本籍人口に對し一萬三百四十人の不足を示して居る、蓋し本籍人口に對する現住人口の減少は究極する處入員出員を差引き尙は出員の多きを示せるもので本郡一方里の人口密度は四千二百四十八人であるから大川郡に次で密度稀薄で一面より觀察すれば他管への出員多きを語るものである今本籍人口現住人口並に戸數を町村別に表示して見る。

本籍人口、現住人口、戸數町村別

(×印は町)

町村名	本籍人口		現住人口		現住戸數
	男	女	男	女	
×土庄	三、六〇一	三、四六四	二、九四九	二、七九〇	一、一〇三
淵崎	二、二二〇	二、一〇七	一、四三四	一、五四三	七五五
大鐸	一、二六八	一、一四二	九一五	八八五	一、八〇〇
池田	三、五二四	三、三七〇	二、五一二	二、七五一	五、二六三
二生	一、一六九	一、〇六四	九四九	八九〇	一、八三九
三都	一、二五七	一、一四二	九五七	九三二	一、八八九
×西村	八〇四	八〇二	七〇四	七一〇	一、四一四
×草壁	一、九八六	一、九〇五	一、六九八	一、七〇三	三、四〇一
安田	一、九七八	一、八四〇	一、七三九	一、六四四	三、三八三
苗羽	一、六二六	一、五六八	一、六六六	一、四六八	三、一三四
坂手	六六九	五八五	七四二	六七二	一、四一四
福田	一、一一八	一、〇八六	一、一二六	一一六	二、二四二
大田	一、八三一	一、七五四	一、五九四	一、五三三	三、一二七
計	二八、七三〇	二七、四九一	二二、二二一	二一、七七一	九、七九九

北浦	四海	豊島	計
一、三九七	二、二九五	一、九八七	二八、七三〇
一、四八六	三、二九〇	一、八八六	二七、四九一
二、八八三	四、五八五	三、八七三	二二、二二一
九八七	一、七六八	一、三六二	二一、七七一
一、〇九九	一、六三七	一、四〇一	二一、七七一
二、〇八六	三、四〇五	一、七六八	四五、八八一
四九六	六八〇	七三一	九、七九九

【交通】 本郡陸路の交通として左の縣道高松土庄線及土庄坂手線の二線の外郡道十一線里道延里數三十三里交通機關として土庄坂手を運轉する乗合自働車がある。

縣道 高松土庄線起点高松市丸龜町より新湊町迄國道二十二號線重用、終点、土庄町

ク浦より字東元濱に至る二十町(國道重用線を含む)

土庄、坂手線 起点土庄町字東元濱より坂手村字東谷に至る 四里三十一町

郡道 佛崎道、主要延長五丁、豊島道同一里三十五丁、大鐸道同三十丁、福田道同五里十二丁、三都道同二里一丁、池田道同二里、蒲野道同一里二十四丁、神懸道同一里十四丁、安田道同七丁、東浦道同三里二十九丁、四海道同三里十七丁、計十一線二十二里三十四丁四十九間で里道延里數十五里餘である。

水上交通 水上の交通として本郡は島國の關係上古來其變遷歴史に富み記述すべき事項も少なくないが紙數の關係上省略して現在の狀況に就て概述する。

みくに丸(播州行)

高松、土庄、小江、(牛窓)(日生)(相生)(新濱)(那波)間航行
榮壽丸(内海行)

高松、蒲野、西村、下村、草壁、安田、苗羽、古江間航行
姫丸(福田行)

高松、土庄、北浦、大部、小部、吉田、福田間航行
八丸(岡山行)

高松、土庄、内海、(犬島)(九幡)間航行
八千代丸

土庄、(牛窓)(日生)間航行
きじ丸

高松、土庄、小江、北浦、大部、小部間航行

以上の外大阪商船及尼崎汽船の上下船舶にして本郡坂手港に寄港するものありて本國及播陽、阪神の交通共に至便である。

又通信としての海底電線は明治二十九年十二月木田郡庵治村大字武居より土庄町大字木香間に沈設せられ、海底電話線は明治四十二年十二月同上區間に沈設せられ本土及内地との通信に便して居る。

【教育】 郡内小學校は合計二十九校で内尋常小學校四校高等科を併置するもの十六校分

教場九校、學級尋常科百四十七、高等科二十二、合計百六十九、尋常科の教授に従事する正教員男七十二名女二十九名同高等科男二十二、尋常科專科正教員女七名高等科女一名尋常科准教員男十三名女十八名代用教員にして尋常科を教授するもの男七名女十九名合計男百十四名女七十四名又大正十年三月一日現在、在籍兒童尋常科男三千五百四十三名女三千三百十四名高等科男五百六十七、女二百九十六、合計七千七百二十名である。

小豆島高等女學校 大正九年六月一日の開校で元草壁外四ヶ村組合立であつたが、大正十一年度から縣立に移管された、生徒定員百七十名現在學級四、教員七名在籍生徒百十七名を有する。

【財政】 本郡大正十年年度歳入出原豫算は五萬八千二百二十一圓で内歳入經常部四萬三千九十三圓臨時部一萬五千二十八圓歳出は經常部一萬七千三百三十九圓臨時部四萬九百八十二圓である、歳入の内四萬二千二百五十二圓は町村分賦額で他の収入は臨時部に屬する縣庫補助金の七千八百二十二圓寄附金の六千九百五十六圓が主である、又歳出の主なるものは歳出臨時部に屬する土木費一萬九千八百四十圓經常部吏員費の七千二百七十九圓臨時部勸業補助費の四千三百三十圓教育費の三千二百五十三圓など又教育費の支出は教員養成所費土木費は郡道三線の改築費、勸業補助費は郡農會補助、素麵組合、醬油組合、畜産組合、漁業聯合會、養豚畜産組合の補助である。

【衛生】 本郡の治療機關としては開業せる醫師二十六名齒科醫師四名の外産婆十五名看

護婦十一名等であるが郡では大正十年度に於てトラホーム治療と衛生講習會を開催し又十一年度に於ては産婆看護婦の養成を行つた。

【金融貯蓄】 本郡の金融機關として土庄町に小豆島銀行あり同郡池田村に支店を有し又高松銀行支店は同郡安田村、高松百十四銀行出張所は苗羽村にあつて本郡の金融を調節して居るが大體の成績は(四二頁)にあるから省略する、本郡民の郵便貯金は大正十年三月末日現在人員二萬二千八百八十九人金額百四十五萬五千四十三圓に達し一戸當の貯金百四十圓餘に上り縣下に於ての成績は頗る良好である。

【産業】 本郡産業機關として安田村に小豆郡一圓を地區とする小豆島醬油製造同業組合同池田村に小豆島素麵業同業組合あり、産業の助長金融の機關として産業組合法に依る信用組合其他合計九組合あり、又實業團體は近時著しく増加したが今資本金一萬圓以上の會社を掲げると次の通りである。

名 稱	營業ノ種類	所在地	資 本 金
小豆島汽船株式會社	乗客荷物運輸業	土庄町	五〇、〇〇〇
小豆島醬油株式會社	醬油製造販賣	同	五〇、〇〇〇
株式會社小豆島銀行	普通銀行業	同	六〇、〇〇〇
坂手漁業株式會社	漁業	同	六五、〇〇〇
津田八商店	吳服洋反物小賣	同	一〇〇、〇〇〇
城山土地株式會社	土地賣買	池田村	一〇、〇〇〇

小豆島製箱株式會社	素麵箱製造	同	二〇、〇〇〇
中央運送株式會社	運送	同	二五、〇〇〇
丸島株式會社	手製素麵製造	同	二五〇、〇〇〇
鳥倉庫株式會社	倉庫業	草壁町	六〇、〇〇〇
丸島醬油株式會社	醬油製造販賣	同	三〇〇、〇〇〇
島電氣株式會社	電燈電力ノ供給	同	三五〇、〇〇〇
丸金醬油株式會社	醬油製造業	同	一、二五〇、〇〇〇
福田水産台名會社	鯖鱈船曳網	福田村	一〇、〇〇〇
小豆島運送株式會社	貨物運搬	安田村	六〇、〇〇〇
安田醬油株式會社	醬油製造販賣	同	二五〇、〇〇〇
内海醬油株式會社	同	苗羽村	二〇〇、〇〇〇
小豆島醬油株式會社	同	同	二〇〇、〇〇〇
船山醬油株式會社	同	同	三五〇、〇〇〇
株式會社多田商店	麥稈紙製造	淵崎村	一〇〇、〇〇〇
小豆島畜産株式會社	牛馬賣買	同	二〇〇、〇〇〇
豊島石材合資會社	石材販賣	豊島村	三二、〇〇〇
清水醬油株式會社	醬油製造販賣	西村	二〇〇、〇〇〇
小豆島馬越醬油合資會社	同	北浦村	五〇、〇〇〇
讃岐興業株式會社	炭團製造販賣	三都村	六〇、〇〇〇

【工業】 本郡の工業としては醬油及素麵が主で素麵は由來家内工業的小規模の生産であ

つたが近來製麵機の使用増加し産額益々増加しつつある（第八六頁参照）最近の調査に依れば本郡下工産總價額は七百十六萬圓で其内主なるものは酒九萬九千圓醬油五百五十萬圓麥粉三十七萬圓素麵五十五萬三千圓他の麵類十萬圓麥稈真田十一萬圓藁製品三萬七千圓等である。

次に大正十年末調査に係る本郡に於て職工十人以上を使用する工場を示せば次の通りである。

工場名稱	製品種類	所在地	工場名稱	製品種類	所在地
小豆島馬越醬油合資會社	醬油	北浦村	山吉醬油製造工場	醬油	苗羽村
水野邦次郎商店	同	西村	木下忠次郎工場	同	同
清水醬油株式會社	同	同	小豆島醬油株式會社	同	同
安田醬油株式會社	同	安田村	内海醬油株式會社	同	同
ヤマモ高橋醬油製造工場	同	同	中原精米所	肥料製造	同
高橋醬油醸造工場	同	同	丸島醬油株式會社	醬油	同
傘工場	同	同	島電氣株式會社	電燈、電力供給	草壁町
小沙商店	同	苗羽村	小豆島素麵株式會社	素麵	池田村

丸金醬油株式會社	同	同	讚岐興業株式會社	炭團製造	三都村
黒島醬油製造所	同	同	株式會社多田商店	麥稈紙製造	淵崎村
船山醬油株式會社	同	同			

【社 寺】 郡内に現在する神社は郷社六、村社七、無格者百四十二、合計百五十五社で寺院は眞言宗三十六、眞宗三、合計三十九ヶ寺で境外佛堂は二十四箇ある、神社に就ては村社以上を寺院に就ては著名のものを各所在町村の部に於て概記する。

人物、名勝、史蹟 人物名勝史蹟に就ても著名のもの、みを各所在町村の順に記載する。

【土庄町】 郡の西部に位置する一島で永代橋を以て淵崎村と界し西南は海を隔て、遙かに屋島五劍山を望み西は小豊島を狭んで豊島村に對す郡内第一の般賑地で一小市街を爲す郡役所、警察署、稅務署、區裁判所出張所、撫專賣局出張所等あり、本町棧橋より本郡各港高摩灣、岡山、播、松等を巡航する汽船あり内外の旅客にして郡外に出入する者殆んど此地に於て集散する（第二二頁參照）明治三十一年二月十一日より町制を施行し面積〇、方里五六二大正十年末人口五千七百三十九、戸數千百三を有する。

社寺 八幡神社（郷社）祭神應神天皇外二神應和二年の勸請である。

西光寺 王子山蓮華院と號し眞言宗嵯峨大覺寺派本郡寶生院末弘安年間増密法印、元鹿島に草創慶長年間龍弘法印此地に移した。

人物 大森辨藏 本町の豪家で家代々商賈、明治二十一年小豆島醬油製造株式會社を創立せしを始め多くの會社、銀行、組合等の主腦者たりし外縣會議長、郡會議長たりし事あり資性温厚頭腦明晰事を處する深重各般の職責擧らざるものなく益々老熟の望を屬されたが明治四十二年六月知命に達せずして病歿した。

【淵崎村】 東池田村、東北大鐸、西北四海村に接し西南土庄町に面す明治二十二年淵崎、上庄の二村を合併せしもの面積〇、方里三四九大正十年末の人口二千九百七十七、戸數七百五十五。

社寺 八幡神社(郷社)祭神應神天皇外二神延長四年九月山城國石清水八幡宮より勸請せしもの地は富岳應神天皇の御遊幸されし塩土山の勝地で眺望に富んで居る。

吉祥寺 皇跡山寶生院と號し眞言宗大覺寺派天平年間行基の草創である、當寺所在の柏樹は周圍四十七尺高六十尺樹齡二千餘年に及ぶ應神天皇の御手栽と傳へられる。

本覺寺 喜多山不動院と號し眞言宗本郡寶生院末開基は古いが詳かでない。

光現寺 眞宗本願寺末寛文元年二月因幡船岡光現寺了雲の開基で備前赤盤郡佐伯庄頭村より移轉したものである。

【大鐸村】 東大部南池田北、北浦、西四海、淵崎と界す本郡中海に面せざるもの本村のみである元肥土山、黒岩、笠ヶ瀧、小馬越の四箇村を合併したるもの面積〇、方里五三二大正十年末の人口千八百、戸數三百七十五。

社寺 離宮八幡神社(村社)祭神應神天皇外二神治承三年太田宗君の創建である。

多聞寺 護法山藥師院と號し眞言宗本郡寶生院末始め東林坊と稱し治承年間以前の創建である。

瀧湖寺 萬年山安養院と號し眞言宗寶生院末弘法大師の開基と稱せられる。

圓滿寺 千光山福壽院と號し眞言宗寶生院末治承年間の開基で始め慈音寺と稱し又福壽坊と改め元祿年間今の寺名に改めた。

名勝 銚子瀑 大字肥土山に在り山麓より二十町餘其源を蛭子池に發し瀑布の直下六十尺銚子の口より酒を瀝くが如し故に此名あり其水の清冽其石の美なる別天地を爲すの觀がある。

【池田村】 東草壁、西村東南二生、北大鐸西淵崎に界し南内海に面して居る舊池田郷下は十一村であつたが明治二十二年に池田、蒲生、中山の三村を併合池田村とした、本郡中の大村で面積一方里二四八大正十年末人口は五千二百六十三、戸數千七百七十四である。

社寺 龜山神社(郷社)祭神應神天皇外二神延長四年の創建で本郡五社の一である。

長勝寺 金陵山阿吽院と號し眞言宗御室仁和寺末草創不詳。

明王寺 洞雲山福生院と號し眞言宗仁和寺末正寶年間以前の草創である。

光明寺 隨雲山來迎院と號し眞言宗仁和寺末開基不詳。

保安寺 隨光山光明院と號し眞言宗仁和寺末正安二年法資善朝の開基である。

右の外中山に浄土寺地藏寺あり共に眞言宗仁和寺末開基不詳である。

人物 平井兵左衛門 諱は氏政世々池田村の大里正人となり沈毅剛膽能く其職務に精勵大に民望があつた嘗て漁場の侵害に際し高松藩と本村との間に葛藤を生じ之を幕府に訴へて本村の勝訴となり村民其堵に安んじた然るに翌寶永五年小豆島は高松藩の領となり島民快々として樂まず浮説偶語類々起り同七年按察使の巡廻に際し池田村彦兵衛與次左衛門等二十數名島民を代表し天正以後幕府の處置に對し島民怨嗟の聲あるを具狀したに就て代表者と共に幕府に召され不正の具陳を爲せしとの名の下に本村濱に於て斬刑に處せられた、是れ正徳二年三月十一日時に年三十六であつた文化八年百年忌に當り本村民其徳を表彰し八幡宮の御旅所に一字の祠を建て平禰靈神と號して祀り又明治四十五年二百年祭を舉行するに當り更に其祠を再建した、兵左衛門の墓は斬刑に處せられたる池田江尻の濱にある。

【二生村】 東西は内海に面し東北は西村南三都村北池田村に界す舊池田郷の下にあつたもので室生、二面の二村を明治二十二年に合併せしもの面積〇、方里四四七大正十年末の人口千八百三十九、戸數三百三十八である。

社寺 誓願寺 妙見山西蓮院と號し眞言宗仁和寺末開基不詳。

愛染寺 金寶山寶藏院と號し眞言宗仁和寺末開基不詳。

【三都村】 北二生村に界し他は内海に面す本郡中最南に位置し大川郡鴨庄、小田村と相對して居る舊池田郷に屬し後吉野、蒲野、神浦の三村を合併せしもの面積〇、方里四九〇大

正十年末の人口千八百八十九、戸數四百六を有する。

明治三十八年十二月十四日今上陛下皇太子に在らせらるゝとき吳軍港より御還啓の途本村海上に御假泊御微行で大字蒲野に御上陸王子神社に臨まれ次に藥師庵にて境内の老松を御賞覽且つ八木啓次の金柑數枝を御需の上御歸艦遊ばされたことがある。

社寺 法正寺 如意山安養院と號し眞言宗仁和寺末開基不詳である。

【西村】 東草壁町西二生西北池田村に界し南草壁灣に面して居る舊草壁郷中の一村であつたが後に獨立した面積〇、方里二九一本郡中最少の村で大正十年末人口は千四百十四、戸數二百六十五である。

社寺 安養寺 摩尼山音門院と號し眞言宗仁和寺末開基は詳かでない。

阿彌陀寺 影現山西明院と號し眞言宗仁和寺末元祿年間復興したが開基は詳かでない、明治三十九年四月今上陛下皇太子に在らせらるゝ時内海灣御假泊中本村竹生に御上陸御散策の折柄偶然本寺に御立寄遊ばされた光榮を有する。

【草壁町】 東安田村西池田、西村、北大部福田村に接し南草壁灣に蒞む舊草加部郷は十四村であつたが明治二十二年十二月上、下、片城の三村を合併草壁村を編制大正六年一月一日より町制を實施した面積〇、方里八二九大正十年末の人口三千四百一、戸數七百三十二で名勝神懸山を有し且つ郡内第二の殷賑地である。

社寺 天津神社(村社)祭神天御中主命勸請年月不詳。

八坂神社(村社)祭神素盞鳴命創立年月不詳。

極樂寺 來迎山密乘院と號し眞言宗仁和寺末弘仁六年弘法大師の開基である。

清見寺 寶界山遍照院と號し眞言宗仁和寺末天平年間行基菩薩の開基である。

人物 草壁の人物としては上村の人にして公益を圖りたる里正村上彦三郎片城の人にして醫道を行ひ詩畫に巧みであつた日下如平、上村の人にして醫術に長し且つ讃岐國に於ける種痘の創始者たる中桐文炳上村の産にして大學者たる中桐儉吉、醬油醸造家にして篤行家たりし長西英三郎氏などがある。

名勝 神懸山(寒霞溪)第九九頁参照

【安田村】 南苗羽村西草壁町北福田村に界し東瀬戸内海に面す舊草加部郷の内五箇村を以て編制されしもの面積一方里〇一六大正十年末人口三千三百八十三、戸數七百十三。

社寺 八坂神社(村社)祭神素盞鳴命外一神延徳年間赤松右兵衛介家吉播州より安田へ移住の時勸請せしもの。

榮光寺 清瀧山寶持院と號し眞言宗仁和寺末天平年間行基の開山である。

史蹟 星ヶ城 安田村及草壁町に跨る神懸山四望頂より東三十丁本郡第二の高峯で海拔二千七百三十尺曆應年間南朝の臣佐々木信胤の築くところ貞和三年信胤亡後四百六十七年文化三年其城趾に二祠を建て一を東峯神社と云ひ天御中主命外四神を祀り一は西峯神社と稱し大野手比賣命外一神を祀る。

人物 高橋龍藏 醫を以て業とし且つ經詩に通し文に長し書を能くした、白鶴樓詩集の遺著がある文政十年五十七歳で歿した。

【苗羽村】 南及東坂手村に接し西内海灣に面して突出し北安田村に界す舊草加部郷下に屬して居つたが明治二十二年苗羽、古江、堀越、田浦の四村を以て編制された面積〇、方里四五六大正十年末人口は三千百三十四、戸數五百九十三である、本村に縣立工業試験所あり醬油の生産地として知られて居る。

社寺 八幡神社(郷社)祭神應神天皇外二神、延長四年の創建で本島五社の一社殿巍々として内海灣に蔽み風光絶佳内海十勝の一である。

荒魂神社(村社)祭神興津比古命外一神創建年月不詳。

常光寺 瑠璃山醫王院と號す開基年代不詳。

眞光寺 東華山乘光院と號す眞宗西本願寺末開基不詳。

【坂手村】 南瀬戸内海に突出し北苗羽村に界す舊草加部郷中の一村であつたが獨立して一村を成した面積〇、方里二八七大正十年末人口は千四百十四、戸數二百八十五坂手港は上り阪神方面下り瀬戸内海各港及九州方面と本郡との直接交通の要津で現在商船會社及尼崎汽船の上下各一隻寄港し郡外との聯繫を取つて居る、最近本港より阪神及廣島方面へ移出せられたる醬油は三萬石價額九十萬圓、神戸播磨方面へ積出されたる薪は二十一萬貫價額七萬四千圓其他四萬六千餘圓合計百二萬餘圓で又九州方面より移入されたる大豆五千石價額

十四萬圓小麥三千五百石價額九萬四千五百圓其他貳萬九千五百圓合計二十六萬四千餘圓に及んで居る。

社寺 觀音寺 隼山自性院と號し眞言宗仁和寺末弘法大師の開基と傳へられる、觀音寺の奥の院たる隼山及隼山と碁石山との中間に洞雲山などの名勝がある。

【福田村】 本郡の東北隅に位し南安田村西大部村及草壁町に接し東方瀬戸内海に面す福田吉田の二村を合せ編制したもので面積〇、方里九一五大正十年末の人口二千二百四十二、戸數四百七十九である。

社寺 八幡神社(郷社)應神天皇外二神延長四年の創立で本郡五社の一である。

雲海寺 洞口山如意輪院と號し眞言宗嵯峨大覺寺派本郡寶生院末開基年月不詳。

史蹟 本村遠干濱に明治維新の志士田中綏猷、其子嘉猷父子の墓碑及哀悼碑あり、編者曰く碑文中「生三干但馬國出石郡香住村」とあるは誤ならん。

池田村事件に連座して高松藩獄中に於て毒殺された本村大里正港九左衛門宗正の墓は雲海寺に在り、附記九左衛門の一子百助は臥薪嘗膽四年の後父及平井兵左衛門(百助の伯父)の敵たる高松藩士某を江都吉原某樓に於て殺害した當時年漸く十八歳後常陸國筑波郡谷原下福田村名主吉葉藤三郎の養子となり明和五年八月歿した。

【大部村】 東福田村南草壁、大鐸村西北浦村に界し北は瀬戸内海に面す元大部小部二村を合併したるもの面積一方里一九四大正十年末の人口三千百二十七、戸數六百七十四である

社寺 觀音寺 海潮山福壽院と號し本郡寶生院末慶長十四年の創立である。

淨宗寺 惠門山と號し眞宗西本願寺派赤穂永應寺末寛政八年の創立である。

名勝 本村の名勝として大字小部に四門岳、大部に仙崖瀑、神功皇后の避難地たる蕪崎に琴塚などがある。

【北浦村】 東大部南大鐸西四海村に界し北瀬戸内海に面し遙かに備前邑久郡に相對す舊小海郷に屬し後、小海、見目、屋形崎、馬越の四村を合併村制を布いたもの面積〇、方里五五〇大正十年末人口は二千八十六、戸數四百九十六である。

社寺 大聖寺 巨海山金光院と號し眞言宗本郡寶生院末開基は不詳である。

金剛寺 北寶山明王院と號し眞言宗本郡寶生院末開基不詳である。

歡喜寺 帝應山普門院と號し眞言宗本郡寶生院末元寶治坊と稱し豊島より移して改稱し文祿年間復興したと傳へられる。

名勝 鳴瀧 大字小海に在り高四十尺巾六尺本郡三瀑布の一である。

【四海村】 郡の西端に位し東、北浦大鐸南、淵崎村に界し北及西は瀬戸内海に面す元伊喜末、小江、長濱、瀧宮の四村を合併したるもの面積〇、方里五八三大正十年末の人口三千四百五、戸數六百八十である。

社寺 八幡神社(村社)祭神應神天皇外二神創立延長四年で本郡五社の一である。

松林寺 南面山藥王院と號し本郡寶生院末天平十年僧行基の開基で始め長現寺と號し中頃

虎溪寺と稱し後今の名稱に改めた。

長勝寺 曜榮山持法院と號し本郡寶生院末元長濱小江の村境にあり其創建の年代不詳であるが元祿十五年大石良雄の舊宅を購ひ來り現在の地に建立したものである。

【豊島村】 小豆島の西方四湮を距る離島で東は四海村土庄町に相對し西は香川郡直島井島に面し南は同郡男木島に向ひ北は遙かに岡山縣邑久郡及び兒島郡を望む舊幕時代土庄郷下に屬し後家浦、唐櫃、甲生の三村を合併村制を施行したもので面積〇、方里九五一、大正十年末人口は二千七百六十八、戸數七百三十一である、本村は離島であるが日々土庄港に往復する巡航汽船の便がある。

社寺 八幡神社(村社)唐櫃にあり祭神應神天皇外二神創立年代不詳である。

八幡神社(郷社)家浦にあり祭神應神天皇外二神嘉曆二年の創建である。

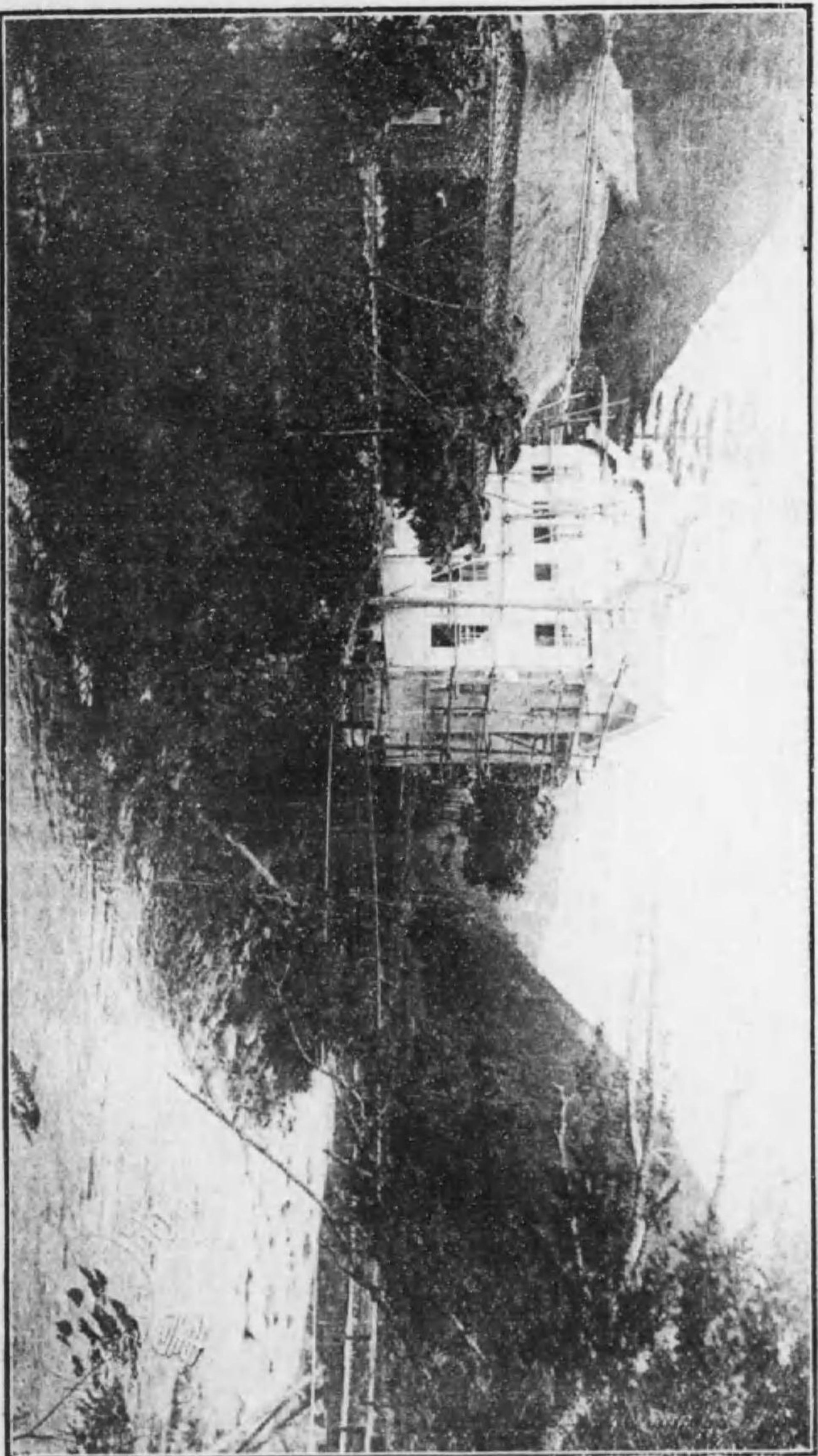
光明寺 金龜山舎那院と號し本郡眞言宗寶生院末開基年代不詳。

眼明寺 慈音山觀音院と號し本郡眞言宗寶生院末開基年代不詳。

十輪寺 大悲山寶珠院と號し本郡眞言宗寶生院末元寶泉坊と稱する堂庵であつたが元祿八年大覺寺より山院寺號を授けられた開基年代不詳。

香 川 郡

中古二郡に分ち香東郡、香西郡と稱した後香川郡東、香川郡西と改め天和四年更に香川東



泉 温 江 の 鹽

香川西と稱したが明治五年五月東西を合し一郡とした、香川郡名の起原は五十香河足彦命の後讚岐公たりしより其名起れりと又郡の山奥に樺河と稱する郷あり上古樺の古本ありて香氣芬々其樹下より出づる水薫りあり大河に灌ぎ郡の中央を流れて海に注ぐ郡中馥郁として匂ひ渡れり、因て香川郡の名起れりとある、香川郡東は往古七郷三十二村香川郡西は七郷十七村で外に現在本郡の屬島たる男木、女木、直島の三村があつた、即ち左の通り。

郷名

篋原郷

太田

多肥郷

百合郷

大野郷

由佐郷

安原郷

郷名

坂田郷

成合郷

川邊郷

七村

三村

二村

二村

六村

八村

四村

村

東濱、西濱、宮脇、上ノ村、中ノ村、今里、福岡

太田、松繩、伏石

上多肥、下多肥

百合(百相)出作

大野、鹿角、三名、一ノ宮、淺野、寺井

由佐、岡、吉光、池ノ内、西ノ庄、横井、川東上、川東下

安原上、安原下、川内原、東谷

名

香川東郷村名

香川西郷村名

村

坂田、勅使、馬場、沖、萬藏

成合(成相)

川邊(川部)

名

圓座郷	一村	圓座
中間郷	四村	中間、岡本、山崎、御殿
飯田郷	四村	飯田、鶴市、郷東、檀紙
笠居郷	一村	笠居

女木島、男木島、直島

以上の加くであつたが其後郷の分割村の分合改稱など屢々行はれ且つ明治二十三年市町村制實施に際し本郡の内五十九町及二村の内を採り高松市を置き從來の村を合併又は存置して左の二十五村を置いた即ち左の通り(詳細は大川郡の部一六七頁沿革参照)。

新村名	舊村名	新村名	舊村名
(栗林村)	中ノ村、藤塚町、上ノ村	(東濱村)	東村、福岡下村
太田村	太田村、松繩村、伏石村、今里村、福岡上村	鷺田村	坂田村、勅使村、馬場村、沖村、萬藏村
一宮村	一宮村、成合村、鹿角村、三名村	多肥村	出作村、上多肥村、下多肥村
佛生山町	百相村	大野村	寺井村、大野村
淺野村	淺野村	川東村	川東上村、川東下村、川内原村
安原村	原村、東谷村	磯江村	安原上村、安原上東村
安原上西村	安原上西村	池西村	池内村、横井村、西ノ庄村
由佐村	由佐村、吉光村、岡村	川岡村	川部村、岡本村
圓座村	圓座村、山崎村	檀紙村	御殿村、檀紙村、中間村
菟打村	鶴市村、飯田村、郷東村	土笠居村	上笠居村

香西町 中笠居村
雌雄島村 女木島、男木島

下笠居村 下笠居村
直島村 直島

本郡の統治は總説統治の沿革に述べた如く上古日本武尊の第五皇子武敏王以來其裔に依つて統治せられた殊に其裔貞宣の女は保元の頃中御門中納言藤原家成と結んで讃岐藤家の祖を爲し八世資村に至つて香西を姓とし勝賀城に據り後笠居村の藤尾城に移つた、當時資村は綾藤氏族六十三家の統領であつた其裔は元龜天正の頃迄勢威を振ひ本郡は其治下にあつた又男木、女木、直島の三島も香西氏の所領であつたが其後徳川時代は所謂天領であつた天正年間生駒氏、當國に封せられ續いて松平氏移封せられた松平氏移封後のことは重複に亘るから第一〇七頁を参照されたい。

本郡は讃岐の中央に位し北に屬島男木島女木島及直島を擁して瀬戸内海に蒞み南は徳島縣美馬郡に接し東木田郡西綾歌郡に界す、地勢南北に長く郡内南安原上西村より北下笠居村に至る里程八里二十九丁東太田村より西上笠居村迄の里程二里二十八丁面積十四方一八管内第四位の面積を有する、山嶽は安原上西村に屬して阿讃の界を爲す鷹山(三千九百五十尺)寒風山(三千八百五十尺)塩ノ江村に屬する大瀧山(三千七百五十尺)などがある、河川には木田郡奥鹿村に源を發し郡の中央を流れて瀬戸内海に注ぐ香東川(流域九里一丁)郡内由佐村に發源する本津川(流域四里二十一丁)などがある。

【土地】 本郡土質は他郡と略同しく即ち國境の山嶽部は概ね和泉砂岩層で海に瀕する地

方は花崗岩を形成され殊に屬島直島は花崗岩の産出に富み平野は砂礫壤土に屬する地質が多い、今本郡の地目段別を示すと次の通りである。

地目	民有有租地		民有免租地		官有地	
	段	別	段	別	段	別
田	五、五一〇、六〇 <small>町</small>	保安林	三二八、四一 <small>町</small>	河川	五、〇六八、四七 <small>町</small>	
畑	一、二五〇、九四	溜池	二五〇、九三	道	九三、九〇	
宅地	五三九、四八	道	三三三、二五	溝渠	一〇三、四四	
鹽田	七二、四四	砂防	三三、九二	堤塘	三五、四一	
池沼	二、九八	墳墓	六、七八	社地	三九、二九	
山林	七、八六八、五六	堤塘	八、三二	寺地	三、六一	
山野	一二、七四	學校敷地	三三、一五	溜池	二六〇、七三	
雜種地	一、四四	其他	六九四、七六	其他	一九、三〇	
計	一六、一五九、一八	計		計	五、六二四、一五	

【戸口】 本郡大正十年末現在本籍人口は計八萬三千九百六十一人で内男四萬二千六百六十四人女四萬千二百九十七人現住人口は計七萬七百七十九人内男三萬五千三百八十六人女

三萬五千三百九十三人で本籍人口に對し一萬三千百八十二人の減少を示して居る即ち此減少は他管よりの入員に比し出員の多きを示せるものであるが本郡の如きは一方里の人口密度五千十四人一五で他府縣平均密度二千二百三十九人に比し二倍一八に當り村落の状態は田園的と云はんより都會的である今本籍人口現在人口並に戸數を町村別に表示して見る。

本籍人口、現住人口、戸數町村別

(×印は町)

町村名	本籍人口		計	現住人口		現住戸數
	男	女		男	女	
×佛生山	一、九五二	二、〇七五	四、〇二六	一、七八一	一、八五六	八二一
×香西	二、〇八八	二、〇三二	四、一二〇	一、八四二	一、七六〇	七三四
太田	二、三〇二	二、三二四	四、六二六	一、九七三	三、九五八	七五四
鷺田	三、二〇一	二、九五二	六、一五三	三、〇一一	三、〇〇六	一、一八六
一宮	二、四三三	二、四八八	四、九二一	一、八七五	一、九二九	七三一
多肥	一、三六一	一、三五三	二、七一四	一、一二四	一、一〇〇	四〇二
大野	一、五四四	一、四九二	三、〇三六	一、一六九	一、一九九	四四五
淺野	一、七一九	一、六一二	三、三三一	一、二五七	一、三〇六	五〇五
川東	二、三五三	二、二四六	四、五九九	一、七四七	一、七五九	七二四

安原	二、三五八	二、〇九三	四、四五一	一、八五五	一、七三三	三、五八八	七〇〇
安原上西	一、四九〇	一、三二五	二、八一五	一、一四六	一、〇七三	二、二一九	四四八
鹽江	一、六二八	一、五四八	三、一七六	一、二三三	一、一八二	二、四一五	五一五
池西	一、四一〇	一、三七八	二、七八八	一、〇七九	一、〇八二	二、一六一	四三六
由佐	二、三五七	二、二八七	四、六四四	一、九八一	二、〇二四	四、〇〇五	七一六
川岡	一、三四二	一、四一二	二、七五四	一、三六八	一、四四六	二、八一四	五七六
圓座	二、〇三六	二、一二六	四、一六二	一、四七〇	一、五三六	三、〇〇六	六三〇
檀紙	二、六五五	二、四九九	五、一五四	二、〇七九	二、〇八〇	四、一五九	八五七
弦打	一、九〇六	一、七七三	三、六七九	一、五一四	一、五一八	三、〇三二	五七九
上笠居	一、七〇八	一、七二三	三、四三一	一、六三五	一、六六六	三、三〇一	五五〇
下笠居	二、五五九	二、三三六	四、八九五	一、九七四	一、九三〇	三、九〇四	六五一
雌雄島	一、〇三七	一、〇八七	二、一二四	六九一	八八二	一、五七三	三二五
直島	一、二二六	一、一三六	二、三六二	一、五八二	一、三四一	二、九二三	六七一
計	四二、六六四	四一、二九七	八三、九六一	三五、三八六	三五、三九三	七〇、七七九	一三、九五六

【交通】 本郡陸路の交通として国道二十三號線の高松より三豊郡財田村に通ずるもの郡内香西、弦打、上笠居を通ずるあり、他の道路として左の縣道二線郡道二十線の外里道延

里數合計八十六里共に縦横に通し交通機關として高松、塩江、穴吹間、高松、瀧宮、琴平間、高松、下笠居間の乗合自動車あり、運輸交通共に至便である。

縣道 塩ノ江、高松線 塩江村大字安原上東字北井より木田郡東植田、十河、前田、古高松村を経て高松に至る六里三十一丁(國縣道重用を含む)。

香西、坂出線 香西町字香西四百四十二番地先より上笠居村を経て綾歌郡坂出町に至る四里三十一丁(同上)。

郡道 東道線主用延長一里十九丁、由佐圓座線同二里五丁、千疋線同一里七丁、植田線同一里二十三丁、東谷線同一里二十一丁、佛生山畑田線同一里二十丁、太田線同二里十二丁相栗線同三里三丁、生島線同三里二丁、佛生山、東濱港線同一里十八丁、試験場線同一里三十七丁、鬼無畑田線同一里九丁、山崎線同一里三十一丁、西道線同四里十九丁、圓座線同二十九丁八王子線同十一丁、松繩線同一里五丁、北山線同三丁三十四間、香西港線同四丁三十間、佛生山、川島線同七丁、合計二十線三十里六間。

【教育】 郡内小學校は合計三十一校で内尋常小學校十三校高等科を併置するもの十四校高等小學校二校分教場二校學級尋常科二百三十八、高等科二十四、計二百六十二、尋常科の教授に従事する正教員男百三十四名女六十五名高等科の教授に従事する者男二十一名女一名尋常科專科正教員女十六名同高等科女一名尋常科准教員男四名女十六名代用教員尋常科男十名女三十二名高等科男三名女二名合計男百七十二名女百三十三名又大正十年三月一

日現在在籍兒童尋常科男六千三百九、女五千八百七十二、高等科男六百八十二、女三百六十二、合計一萬三千二百二十五名である。

郡内所在の縣立學校として香川農業學校(一宮村)がある、明治四十四年四月の開校で元香川實業學校と稱し乙種程度の郡立學校であつたが郡制廢止に伴ひ大正十一年度より縣立に移管された、現在職員十二名學級男三、女三、計六學級、在籍生徒男百七十一、女百七十七、計三百四十八名であるが定員は三百名である、明治四十四年度より大正十年度迄の卒業生男三百八、女三百三十九、計六百四十七名で外に研究生若干の卒業生がある。

【財政】 本郡大正十年度歳入出原豫算は七萬千七百七十五圓で内歳入は經常部六萬六百六十八圓同臨時部壹萬千六圓歳出は經常部四萬千五百七十五圓臨時部貳萬九千六百圓である、歳入の内五萬六千九百六圓は町村分賦額で他の歳入では縣補助金の六千五百八十一圓寄附金の參千參百五十圓授業料の貳千七百七十九圓が主である、歳出の主なるものは經常部に屬する香川實業學校費の壹萬五千二百二十二圓教員養成所費參千九百九十八圓臨時部に屬する教育補助金參千七百七十三圓同獎勵費二千二百一十一圓合計貳萬四千七百四圓が主で次は臨時部土木費道路改修費の壹萬七千百圓同經常部九千二百圓郡吏員費八千五百五十七圓勸業補助費三千百圓と云ふ順である。

【衛生】 本郡の治療機關としては開業せる醫師三十五名齒科醫師一名藥劑師八名の外産婆五十二名看護婦六十名である。

【金融】 本郡は高松市と交通至便の關係上商取引其他金融に關する事項は高松市に於て使せらるゝと一面郡内に般賑なる都會なきとの關係上郡内に獨立の金融機關なく僅かに高松百十四銀行出張所及琴平銀行出張所の共に圓座村にあるのみである、本郡民の郵便貯金は大正十年三月末現在人員參萬二千二百二十五、金額百三十九萬九千二百四十五圓で一戸の平均貯金百圓に達して居る。

【産業】 産業機關として元本郡栗林中野町に香川縣を地區とする讚岐製紙同業組合同中野町に香川郡を地區とする蠶絲同業組合があつたが現在は市の區域となつて居る、以上の外他の地區と共に本郡を區域とせる同業組合に讚岐漆器同業組合、高松酒商同業組合、高松傘同業組合、東讚醬油同業組合、糖業同業組合、肥料商同業組合、東讚摺田同業組合等がある又産業の助長金融機關として産業組合法に依る信用組合其他合計二十一組合ある。本郡の實業團體として資本金壹萬圓以上の會社を列記すると左の通りである。

名 稱	營業ノ種類	所在地	資 本 金
讚岐酒造株式會社	酒類製造	圓座村	一〇〇、〇〇〇
圓座酒造株式會社	同	同	二〇、〇〇〇
座醬油株式會社	醬油製造	同	一〇〇、〇〇〇
香川製絲株式會社	玉繭製絲	佛生山町	一〇〇、〇〇〇
香川産業株式會社	蠶種製造販賣	同	五〇、〇〇〇
香西酒造株式會社	清酒製造	香西町	七五、〇〇〇

香川土管株式會社
香川物産株式會社
三菱鑛業株式會社
土佐舍密株式會社

土管製造販賣
麥稈眞田ノ賣買
鑛業鑛物ノ賣買
漂白粉製造

同 二五、〇〇〇
鷺田村 二〇〇、〇〇〇
直島村 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
同 一七五、〇〇〇

二五〇

【工業】 本郡下最近の工業生産額は總額參百九十二萬圓で内主なるものは織物十一萬圓蠶絲六萬七千圓陶磁器十五萬三千圓瓦及土管九萬八千圓酒五十八萬八千圓醬油二十五萬六千圓麥粉二十八萬圓飴及菓子八萬圓素麵及麵類九萬圓麥稈眞田百二十萬圓菓製品五萬圓衡器十五萬八千圓などである。

次に大正十年末調査に係る本郡に於て職工十八人以上を使用せる工場を示せば左の通り。

工場名稱	製造種類	所在地	工場名稱	製品種類	所在地
香西酒造株式會社	清酒	香西町	小川製紙場	製紙	鷺田村
井筒屋醬油醸造所	醬油	同	林製紙場	同	同
圓座酒造株式會社	清酒	圓座村	高橋製紙場	同	同
讃岐酒造株式會社	同	同	山下製紙工場	同	同
土佐舍密株式會社	漂白粉製造	直島村	川野製紙場	同	同
香川土管株式會社	土管製造	下笠居村	山本製紙場	同	同

香川製絲株式會社	玉繭製絲	佛生山町	岡野製紙場	同	同
國宗清酒醸造場	清酒	鷺田村	丸日工場	製紙原料叩解	同
川野製紙場	製紙	同			

【社寺】 郡内に現在する神社は合計二百八十二社で内國幣中社一、縣社一、郷社十、村社二十一、無格社二百四十九である、又院寺は天臺宗六、眞言宗十八、淨土宗四、臨濟宗一、眞宗四十、日蓮宗一、合計七十ヶ寺で境外佛堂が五ある、神社に就ては村社以上を寺院に就ては著名のものを各所在町村の部に於て概記することとする。

人物、名所、史蹟 人物名所史蹟に就ても著名のものゝみを各所在町村の順に記載する。

【太田村】 香川郡の北部に位し東木田郡木太及林村に接し南本郡多肥西高松、鷺田、並に一宮村に界す元太田、松繩、伏石、今里、福岡上の五箇村を合併明治二十三年村制を實施したもので面積〇、方里三七九大正十年末の人口三千九百五十八、戸數七百五十四である

社寺 八幡神社(村社)祭神應神天皇外二神由緒不詳。
熊野神社(村社)松繩に在り祭神伊弉册命外二神由緒不詳。
伏石神社(村社)伏石に在り祭神應神天皇外二神由緒不詳。
平石井神社(村社)今里に在り祭神同上由緒不詳。
西法寺 字寺の元に在り眞宗本願寺末由緒不詳。

光臨寺 眞宗高松福善寺末元天臺宗であつたが大永年間今の宗に改めた。
【鷺田村】 東太田、南一宮、西弦打担紙、北高松に界す舊坂田郷下五村即ち坂田、勅使、馬場、沖、萬藏を後に合併せしもの中古鷺田と稱した面積〇、方里五二二大正十年末の人口六千十七、戸數千八百八十六である。

社寺 鶴尾八幡神社(郷社)坂田にあり祭神應神天皇外二神大同年中の創建で仁和中管原道眞公土井原に奉祀す故を以て土井の宮と稱したが天明五年今の地に移した。
觀興寺 悉地院と號し萬藏にあり眞言宗醍醐三寶院末觀賢僧正の草創である。
高善寺 寶照山と號す勅使にあり眞宗西本願寺末明應二年僧教善の草創である。
慈雲寺 馬場にあり空海の草創で心西坊と稱した元祿六年今の名稱に改めた。
明專寺 萬藏にあり攝津富田林眞宗本性寺末承應中僧心徳の草創である。
吟龍寺 勅使にあり眞宗本願寺末由緒不詳。

【一宮村】 東太田、佛生山町、南大野、西圓座、担紙、北鷺田村に界す、一宮、成合、鹿角、三名の四村を合併せしもので面積〇、方里三六三大正十年末人口は三千八百四、戸數七百三十一である。
社寺 一宮田村神社(國幣中社)祭神倭迹々日百襲姫命元明帝和銅二年の創建で延喜式讚岐二十四座の一である。
成合神社 字上所に在り村社にして天五田根外二神を祀る由緒不詳。

大寶院 一宮寺と名く眞言宗仁和寺末大寶年中義淵僧正の草創で四國八十三番の札所である。

大藏院 大字成合に在り天台宗園城寺末由緒不詳。
來光寺 三名にあり最勝福田山と號し眞宗西本願寺末和銅元年行基菩薩の開基で又弘法大師の駐錫した事がある元天台宗であつたが寛正三年今の宗に改めた。
美雲院 字新田に在り眞言宗金剛寺末明治十三年別所源藏の開立である。
法恩寺 字中川原に在り眞宗興正寺末永正元年三月淨願の開基である。
人物 孝子現七の墓 鹿角にあり、

固淨師 三名の人で來光寺第十代の住職了寂の嫡子幼より學を好み博く佛典を究め諸國を行脚し著書に山家集、増補註釋、古今狂歌、享和集、新撰百人一首外和歌に關する五六種の著述あり延享元年に生れ享和二年十二月五十九歳で寂威した。
【多肥村】 東木田郡林及三谷村に界し南香川郡淺野村西佛生山北太田村に接す元出作、上多肥、下多肥の三村を合併したるもの面積〇、方里二五二大正十年末人口二千二百二十四戸數四百二である。

社寺 熊野神社(村社)出作にあり祭神伊弉册命外二神由緒不詳。
櫻木神社 上多肥に在り郷社にして應神天皇外二神を祀る由緒不詳。
法恩寺 上多肥に在り眞宗永正元年三月僧淨願の開基である。

圓光寺 出作に在り眞宗高松安養寺末由緒不詳。

【佛生山町】 東多肥南淺野西大野北一宮太田村に界す舊百合郷(百相)百合出作二村の内百相村を分離獨立後明治三十一年二月十一日佛生山と改め町制を施行した面積〇、方里一八六六正十年末の人口三千六百三十七、戸數八百二十一。

社寺 藤神社(村社)祭神稚日女命治承二年平家池を築くに當り犠牲となりたる一婦人を祀れるなりと傳ふ。

百相神社(村社)祭神猿田彦命外四神創建年月不詳。

佛生山法然寺 來迎院と號す淨土宗建永二年法然上人當國に竄せられ那珂郡子松庄に寺を建て生福寺と云ふ後法然赦され京師に歸るに及んで衰頹し且つ天正の兵乱に佛閣僧舎佛像什物焼失したが獨り上人の作る禰院善導圓光の像のみ残つた寛文八年英公其本尊を茲に遷し更めて佛生山法然寺來迎院と號した寛文八年六月工を起し三年にして成つた英公以下皆此山に葬る來迎堂、三佛堂、二會堂其他建造物多く國寶には左の數点がある。

紙本着色觀世音功德圖(鶴州筆)、六曲屏三雙、二曲屏一雙、絹本着色十王像(陸信忠筆)、紙本着色源氏初音ノ卷、紅葉賀ノ卷(郡川筆)八曲屏一雙

觀音寺

專稱院

高德寺

大字百相に在り眞言宗隨願寺末寶永二年創立明治十二年の再興である。

大字百相に在り淨土宗法然寺末法然寺十世住職念譽寶曆十年の創立である。

良忠院

圓光寺

大字百相に在り淨土宗法然寺末法然寺八世住職貴譽忠學元文五年の草創。同上眞宗本願寺末天和三年六月の創立である。

人物 百合の人物として畫家瀧六左衛門(明和頃の人)、郡宰にして篤行家たる別所九兵衛包好(寶曆頃の人)、刀劔の名手多田甚作銘鷹成(寛政頃の人)、同眞鍋久左衛門、醫家にして書畫に巧みなる多田小筠(慶應前後の人)などがある。

【大野村】

東佛生山及淺野、南川東及由佐、西川岡、圓座、北一宮村に界し舊大野下にあつた六村の内大野、寺井の二村を後に至り更に合併編制したもの面積〇、方里二六八大正十年末人口は二千三百六十八、戸數四百四十五である。

社寺 石清水八幡神社(村社)祭神應神天皇青井信濃守の勸請であるが年月不詳。

禰讚寺

眞宗本願寺末天文中の草創である。

人物

岸田茂篤、字は竹潭、默翁と號す、大野村の人由良養的の第二子で由佐村岸田氏の養子となる、醫を業とし經義に通し和歌を能くしたが嘉永六年七月七十七歳で歿した。

【淺野村】

東木田郡三谷南川東、西大野、北佛生山に界す舊大野郷下の一村であつたが後獨立し更に明治二十三年より一村を爲した面積〇、方里三二七大正十年末人口二千五百六十三、戸數五百五である。

社寺

八幡神社(郷社)宮裡に在り祭神應神天皇由緒詳でないが元横岡にあり天正年中火災に罹り頽廢明治四年今の地に遷した。

實相寺 眞宗興正寺末元天台宗であつたが天正年間兵燹に罹り應長年間字上方塚に於て庵室を結び爾後轉々明治十五年現今の地に於て寺跡を再興した。

人物 向井舟臯名は賢字子才通稱又八郎淺野村の人古書畫の鑒識を善くし山水畫に巧みであつた明治二十五年七十三歳で歿した。

【川東村】 東木田郡西植田村、南安原西由佐、北淺野村に界す舊由佐郷の内一村安原郷の内村であつた川東上、川東下、川内原の三村を後に合併したもので面積〇、方里五八八大正十年末の人口三千五百六、戸數七百二十四である。

社寺 八幡神社(郷社)祭神應神天皇外二神勸請年月不詳康安元年細川頼之、淺野村より今の地に遷したものである。

天尾神社(村社)字鬼ヶ城に在り祭神天太玉命外十一神天正八年の勸請である。

立善寺 佛地院轉輪山と號し眞宗福善寺末舊天台宗で智證大師の草創である寺内に細川頼之の墓がある。

勝光寺 下村に在り眞宗興正寺末由緒不詳。

【安原村】 東木田郡西植田村、南塩江及安原上西村西綾歌郡粉所村、北川東及由佐村に界す明治二十三年安原村及東谷村を合併安原下村と稱したが明治二十三年六月安原村と改稱せしもの面積二方里一〇七大正十年末の人口三千五百八十八、戸數七百を算する。

社寺 西谷八幡神社(郷社)祭神應神天皇外二十一神建治年中宇都宮某の勸請するところで

ある。

天野神社(村社)祭神天兒屋根命外十一神仁壽三年九月村井民部の勸請せしものである。

平尾神社(村社)東谷に在り祭神應神天皇外十六神天養元年の勸請で縣下屈指の古社である徳玄寺眞宗岡村專妙寺末由緒不詳。

最明寺 眞言宗仁和寺末大寶元年行基菩薩の草創である。

教福寺 字上中徳に在り眞宗興正寺末由緒不詳。

専光寺 字東谷に在り眞宗佛光寺末。

【安原上西村】 東塩江村西綾歌郡美合村、北安原村南徳島縣美馬郡に界す面積一方里八〇六大正十年末人口二千二百十九、戸數四百四十八を有する。

社寺 龍神社(村社)上西字松尾に在り祭神高宗龍神外八神由緒不詳。

史蹟 内場城 越後の藤澤入道なる者嘉應承安の頃當地に來り築きたるもの其子道信文治元年二月源氏に屬し屋島に於て戦死した。

【塩江村】 東木田郡奥鹿、田中、東植田村に界し南徳島縣美馬郡、西安原上西、北安原村に接す元安原上東村と稱したが大正七年四月三日現在の名稱に改めた明治二十三年元安原上村と安原上東村とを合併したもので面積一方里八〇四大正十年末人口は二千四百十五、戸數五百十五を算す。

社寺 八幡神社(村社)祭神應神天皇外十八神文明十三年川田權兵衛の勸請せしものである

至徳寺、字塩江に在り眞宗佛光寺末由緒不詳。

塩の江鏡泉 道路より南の方溪川を隔て、篝山の麓にあり、靈泉に新舊二箇所あり蛙橋の畔にあるは舊泉で向纓の瀧の傍にあるは新泉である靈泉の發見は聖武天皇の天平年間僧行基の發見せしものと傳へられる近來自働車の便あり浴客逐年多きを加へつゝある附近岩部橋の西の畔に玉露崖と稱する懸崖及鏡岩などがある。

【池西村】 東及南由佐村、南綾歌郡千疋村、西同畑田村、北圓座村に界す舊由佐郷下に在つた後池内、横井、西ノ庄の三村を以て明治二十三年本村を編制した面積〇、方里三七八大正十年末人口千百六十一戸數四百三十六を算する。

社寺 井原神社 西庄に在り村社で祭神は國常立の尊を祀る由緒不詳。

史蹟 池内城 池内に在り十河十郎吉保の第三子池内孫五郎高教の居城であつた。

横井城 池内に在り横井丹波之に居つた。

藤原盛兼墓 横井に在り盛兼は井原の莊司で元暦二年二月十八日屋島戦に戦死したと云ふ人物 中山城山 横井の人で中山准大臣藤原孝親の裔古學を以て著はる天保八年四月七十五歳で歿した、碑は綾歌郡高屋通照院に在る。

【由佐村】 東川東南安原西綾歌郡千疋、北池西川岡村に界す舊由佐郷八村の内由佐、吉光岡の三村を以て後に合併一村を編制せしもの面積〇、方里五四九大正十年末の人口四千五百戸數七百十六を算する。

社 冠纓神社寺 由佐に在り縣社で祭神仲哀天皇外二神延文二年細川頼之由佐館に在るの時石清水八幡の冠纓を乞ふて勸請せしものである。

西光寺 眞宗西本願寺末永正年中僧正賢の草創で正賢は小比賀五郎四郎の子で幼名を桃千代と稱した。

西光寺 字楠に在り眞宗本願寺末由緒不詳。

妙光寺 字市谷に在り眞宗專妙寺末僧了玄の開基である。

利劔寺 元屋島山上に創立し南泉寺と號した、寶曆元年再建して文政二年今の寺號に改め明治二十四年今の地に遷つた。

專妙寺 岡にあり眞宗高松安養寺末、岡行業の裔某僧となり明光坊と云ひ延徳中草創せしものである。

天福寺 岡字西原に在り眞言宗仁和寺末天平中行基の草創で元清性寺と稱したが天福元年改稱した朝廷及領主の崇信篤く由緒に富んで居る。

史蹟 由佐城 俵藤太秀郷の裔彌次郎秀助の築くところ細川氏に屬し子秀行、秀政、助盛秀盛、秀武相嗣いで居つた所である。

人物 澄心阿闍黎 本村の産で父を原文左衛門と云ひ元祿年中東長尾神正院で大蛇を屠殺した人である。

菊池武矩 有名なる學者で本村高州の産、初め由佐氏、後加藤氏に改め其後高松藩士菊池

徐風の 子となり文化五年六十二歳で歿した。

右の外加藤粟洞(俳人)加藤義毅(文武兩道)友安良介(學者)加藤有隣(博學者)岸田亮仲(博學者)岸田月窓(詩文家)三枝保年(畫家)など本村の人であつた。

【川岡村】 東大野村南由佐、池西、西綾歌郡畑田、山内、北檀紙村に界す明治二十三年川部岡本の二村を合併せしもの面積〇、方里三四八大正十年末人口二千八百十四、戸數五百七十六である。

社寺 八幡神社(村社)祭神應神天皇建立年月不詳。

長福寺 字諏訪に在り泉涌寺末正和元年京都今川に創立し延享四年之を泉涌寺内に遷し明治二十七年長福寺と稱する古寺を再興し此地に遷した。

教圓寺 眞宗、往古天臺宗で寶幢山龍嚴寺と號した中古退轉し堂宇のみ存したが明治六年修理今の寺號に改めた。

大龍院 天台宗明德三年三月の創立文政十一年十月火災に罹つた由緒不詳。

正音寺 字諏訪に在り眞宗興正寺末由緒不詳。

史蹟 川部に中田井民部の居城であつた中田井城、小野權左衛門景光の居つた河邊城の遺趾がある。

【圓座村】 東一ノ宮、大野、南川岡、西綾歌郡山内、北檀紙村に界す、明治二十三年圓座山崎の二村を合併せしもの面積〇、方里三一八大正十年末人口三千六、戸數六百三十、圓

座の名は菅を以て圓座を作る工此地にあり因て此名を得たりと傳へられる。

社寺 廣旗神社(郷社)祭神應神天皇文祿年間北原與次右衛門の勸請せしものである。

八幡神社(郷社)祭神應神天皇由緒不詳。

本堯寺 圓座に在り日蓮宗本能寺末永祿二年羽庄下村に於て羽床伊豆守の室建立元祿十六年山崎某今の地に遷した境内に松平頼該公の墓がある。

教法寺 上圓座に在り眞宗西本願寺末元和六年僧正圓之を創め後教圓坊と號したが元祿四年寺號を建てた。

正華寺 山崎にあり鶴山清光院と號す眞言宗仁和寺末久利又四郎の草創である(一説天平中行基中間郷に創建松慶寺と號した)

教正寺 山崎に在り眞宗本願寺末寛永中の開基である。

史蹟 中井城 中井民部の居城で元中田井と稱したが圓座に移り中井と稱した。

北岡城 山崎に在り久利長門守の居城であつた、久利氏は昔暫く菅家に事へた秦久利の裔で長門守の二子又四郎、彦四郎は天正中十河城に於て長曾我部と戦ひ戦歿した。

人物 本村の人物として小橋安藏(勤王家)小橋多助(學者)安藏の弟にして詩文を能くした小橋友之輔(勤王家にして學者)などがある。

【檀紙村】 東鷺田、一ノ宮、南圓座、西綾歌郡山内、端岡、北上笠居村に界す明治二十二年、中間、御殿、檀紙の三村を併合せしもの面積〇、方里四九六大正十年末の人口四千百

五十九、戸數八百五十七を算する。

社寺 皇太神社(村社)祭神天照太神由緒不詳。

光專寺 眞宗本願寺末寛永十一年攝津平野郷に開基後松山市に遷り明治三十二年現地に移つた。

専光寺

御厩に在り明治四十三年大和北葛城郡磐城村より遷る眞宗興正寺末寺。

金乗寺

眞宗本願末寛永十九年の開基。

史蹟

中間城 中村市正光重の居城であつたが後生駒氏に仕へ朝鮮の役に戦死した。

孝子

善次郎之碑 御厩字落合にあり繼母に事へ至孝藩主より賞を受け文政九年八十歳で歿した。

御厩焼の起原

享保年間彦四郎と云ふ者尾張焼に倣ひて割窯を築き素焼陶器を製せしに始まる、焼方に黒焼と赤焼の二種あり近來赤焼の外釉薬を用ひ樂焼の製造を始めた現今斯業者百七十戸年産額十五萬圓餘是れ彦四郎の賜である、彦四郎は木田郡元山の農徳左衛門の子で享保三年に生れた。

【弦打村】

東高松、鷺田、南檀紙、西上笠居に界し北瀬戸内海に面す舊飯田郷下に屬した四村の内飯田、鶴市、郷東の三村を以て現在弦打村を爲して居る面積〇、方里四二七大正十年末人口三千三十二、戸數五百七十九である。

社寺

岩田神社(郷社)祭神應神天皇外二神正應年中の勸請で應仁年間兵火に罹り天正以降

再興したものである。

光明寺

飯田に在り眞宗興正寺末寺由緒不詳。

徳榮寺

鶴市に在り眞宗興正寺末大永元年僧明榮の草創である。

【上笠居村】

東弦打、南檀紙及綾歌郡端岡村、西下笠居、北香西町に界す笠居は元一村であつたが明治十二年上中下の三村に分ち中笠居は更に香西町と改稱された、本村面積〇、方里四五一、大正十年末の人口三千三百一、戸數五百五十を算する。

社寺

薬師寺 字是竹に在り天臺宗根香寺末城石山と號す延寶年間天臺宗最勝院の弟子七

位坊の創建で本尊薬師如來は行基の作である。

養福寺

眞宗高松安養寺末天正中藤尾合戦の時近藤藤右衛門宮武六衛門苦戦して死し近藤

の子此の坊に入て沙門となり教順と號し宮武氏の女教順の妻となり後寺號を立てたと云ふ

寺は香西五郎の菩提寺である。

圓藏院

眞言宗醍醐派明治三十五年米澤より移したものである。

人物

香西成資 植松資茂の裔佐料邑植松吉兵衛時信の子で武兵衛と稱し寛永九年佐料に

生れた幼より兵學を修め天和二年筑前黒田忠之に仕へ後致仕して本立軒常山と號し寛文三

年南海治乱記十七冊享保年中南海通記二十冊を著した。

高橋南程

上笠居の人名は巖字は少弼通稱周輔又は侗齋と號す菅茶山の門人で經史に通し

繪畫を能くしたが安政四年六十六歳で歿した。

那須資哲 本村の人醫を業とし學を好み書畫俳歌を能くしたが明治十五年六十八歳で歿した。

鬼無甚三郎 天保五年十一月本村に生れ夙に志を殖産公益に竭し明治三十年縣知事より功勞を賞して木杯を賜つた餘技に詩畫を能くしたが明治四十年一月歿した。

【香西町】 東及南は上笠居、西下笠居に界し北瀬戸内海に瀕す元中笠居村と稱したが大正四年二月十一日町制を布き香西町と改稱した面積〇、方里二四八大正十年末の人口三千六百二、戸數七百三十四を有する。

社寺 宇佐神社(郷社)祭神仲哀天皇外二神嘉祿年中に香西資村豊前より勸請せしもの始め上笠居山口邑藤尾ノ原に祀り後藤尾山に遷し後五十餘年天正七年佳清の時に是竹山に遷し慶長年中藤尾山の舊地に奉遷した明治十六年四月社殿及神庫焼失其後營築したものである西光寺 眞言宗大覺寺末海珠山慈眼院と號し開基不詳、本尊は行基作の觀音像である。長安寺 眞宗興正寺末元正宗坊を改めて寺號を建てたもの創建年月不詳。

常善寺 眞宗福善寺末甲陽山と號す大永中釋教圓の草創教圓は信州諏訪部氏の後裔である廣嚴寺 眞言宗香西寺末瑠璃山と號す本尊は藥師如來で行基の作である開基年月不詳。

萬徳寺 眞言宗大覺寺末吉祥山と號す本尊は多聞天王で聖徳大師の作開基年月明かでない國清寺 光明山淨業院と號し淨土宗四箇寺の一で智恩院末寺元安原村に在り極樂寺と稱したが延寶中今の地に遷り改稱した。

香西寺 寶幢山地藏院と號し眞言宗大覺寺末寺往古七談議所の一で生駒時代十五箇院の一現在十箇寺の一である天平年中行基菩薩の創立で天長年中弘法大師更に修築眞言と爲した寺は始め勝賀山に在り勝賀寺と稱し貞應元仁の頃香西資村此山の北麓に遷し香西寺と號し後香西元資本津村に移し地福寺と改め天正中火災に罹り慶長中牛駒近規修理高福寺と改め万治中又火災に罹り寛文九年源英公今の地に移し又改めて香西寺と號した。

史蹟 勝賀城趾 勝賀山巔に在り資光の子資村承久の乱に功あり香川の郡司に補せられ勝賀山に築いたものである。

藤尾城趾 天正三年香西清佳八幡祠を山上に遷して此地に營築同十年八月五日長曾我部元親攻め來り城將に陥らんとし和講後十三年豊臣氏四國を征するに及んで廢去した。

人物 新居直矩 香流軒又壽硯齋と號す香西藤尾山下の人寛政四年七十二歳で香西記を著はした。

後藤香浦 香西の人、植松文昌に學び繪畫及俳歌を能くした明治十七年六月歿した。

香西製陶業 約七十年前觀音寺の遠藤庄助始めて製陶に従ひ泉川喜助練習を受け製造を始めたるに起原する。

【下笠居村】 東香西、上笠居南綾歌郡端岡、松山村西同郡王越村に界し北瀬戸内海に面す舊笠居郷の下明治十二年分つて一村とした面積一方里二二大正十年末人口三千九百四、戸數六百五十一。

社寺 加茂神社(村社)龜水に在り祭神別雷神外六神勸請年月不詳なれど大永七年の棟札あるに察すれば其頃建立せしものならんか。

根香寺 青峯山千手院と號し天臺宗聖護院末四國八十二番の札所で國內天臺宗四箇寺の一空海の草創である天正十三年三月火災に罹り寶物焼失したが現存するものに空海作の不動像其他珍寶が多い、一説に本寺は天長中智證大師の開基とある。

妙樂寺 眞宗興正寺末明治三十一年大和國山邊郡朝和村より移轉したものである。

【雌雄島村】 高松の北一里の海上にあり明治二十三年男木女木の二島を併せ雌雄島村と稱するに至つた女木は島廻り一里三十丁男木は一里二丁あり中古香西氏の所領であつたが永正の頃より維新前迄は天領であつた面積〇、方里二五四大正十年末の人口千五百七十三、戸數百二十五を有する。

社寺 八幡神社(村社)女木に在り仲哀天皇外二神を祀る由緒不詳。
豊玉姫神社(村社)男木に在り豊玉姫命を祀る由緒不詳。

【直島村】 男木島の西北に位し岡山縣兒島郡に近接し高松を距る四里の海上に在り約二十の島嶼より成る面積〇、方里八九六大正十年末の人口二千九百二十三、戸數六百七十一を算する此地花崗石の産多く年産額三萬五千圓に達し多く阪神方面に搬出せられる。

社寺 八幡神社(郷社)高田浦に在り祭神仲哀天皇外二神由緒は明かでないが慶長年中本島の領主高原佐助造營した事實あり大永年中火災に罹り古來の舊記並崇徳院の御令旨、院宣

等焼失した。

極樂寺 高田浦に在り八幡山長壽院と號す眞言宗仁和寺末貞觀年中僧聖實の建立である。

圓明院 高田浦に在り瑠璃山高原寺と號し眞言宗仁和寺末貞觀年中聖實尊師の開基で當寺は高原氏の菩提所であつた。

地藏寺 高田浦に在り眞言宗廣居山觀音院と號し貞觀年中聖實尊師の開基である。

綾 歌 郡

明治三十二年四月法律四十一號を以て阿野、鵜足の二郡を合併改稱せしもので、阿野郡は上古綾郡と稱せしもの、如く中古府中以南を綾南條と云ひ鴨以北を綾北條と稱し二郡に分つた貞享元年(紀二、三四四)以降阿野南、阿野北と稱したが明治五年舊稱に復し南北を併せ阿野郡とした、鵜足郡は宇多利、鵜垂、雨多など、書かれた、塩飽七郷は中古以來此郡に屬して居つたが維新後仲多度郡の所屬に移つた、阿野郡の名は郡中加茂の東の山に綾織塚あり延喜式讚岐國調物に種々の紋綾あり皆此郡中の土人織り出せしより此名起つたと稱せられる、鵜足郡名の起原は鵜足明神より起れりと、阿野郡は往古九郷三十六村鵜足郡は九郷三十村であつた即ち左の通り。

阿野郡 郷村名

(以下四郷阿野南と稱した)

郷名	村	名
山田郷	九村	山田上、山田下、牛川、東分、西分、千疋、粉所東、粉所西、川東
羽床郷	六村	上羽床、下羽床、小野、北村、瀧宮、萱原
府中郷	三村	府中、陶、畑田
新居郷	五村	新居、柏原、國分、新名、福家
鴨郷	一村	鴨 (以下五郷を阿野北と稱した)
氏部郷		氏部
松山郷	三村	高屋、神谷、青海
林田郷	三村	林田、乃生、木澤
西ノ庄郷	五村	西ノ庄、江尻、福江、坂出、御供所

鵜足郡郷村名

郷名	村	名
長尾郷	六村	長尾、東炭所、西炭所、造田、中通、勝浦
栗熊郷	三村	栗熊東、栗熊西、富熊
岡田郷	四村	上岡田、下岡田、東岡田、西岡田
井上郷	二村	上法軍寺、下法軍寺
小川郷	二村	東小川、西小川
坂元郷	四村	東坂元、西坂元、川原、眞時
二村郷	三村	東二村、西二村、西分
川津郷	二村	東川津、西川津

津野郷 四村 東分、宇多津、土器、土居

以上の通りであつたが明治二十二年十二月縣令八十四號を以て左の通り合併存置二十三年二月十五日より町村制を施行された(詳細は頁沿革参照)。

新村名	舊村名	新村名	舊村名
坂出町	坂出村	宇多津町	宇多津村
金山村	福江村、江尻村	川津村	川津村
西庄村	西庄村	土器村	土器村
林田村	林田村	川西村	西二村、西小川村
松山村	青海村、高屋村、神谷村	飯野村	東分村、西分村、東二村
王越村	乃生村、木澤村	坂本村	東坂本村、川原村、眞時村、西坂本村
加茂村	鴨村、氏部村	法勤寺村	上法軍寺村、下法軍寺村、東小川村
府中村	府中村	富熊村	富熊村
端岡村	新居村、國分村	栗熊村	栗熊東村、栗熊西村
山内村	福家村、新名村、柏原村	岡田村	岡田上村、岡田下村、岡田東村、岡田西村
陶村	陶村	長炭村	長尾村、炭所東村、炭所西村
畑田村	畑田村	造田村	造田村
瀧宮村	瀧宮村、北村、萱原村	美合村	川東村、中通村、勝浦村
羽床上村	牛川村、羽床上村		(以上鵜足郡)
羽床村	羽床下村、小野村		
山田村	山田上村、山田下村、東分村		

粉所村 粉所東村、粉所西村
 西分村 西分村
 千疋村 千疋村
 (以上阿野郡)

阿野鵜足の統治は總説統治の沿革に概説した如く上古日本武尊の第五皇子武敏王の裔によりて統治せられ殊に日向王に至り始めて綾の大領を賜はり以後十七世貞宣の裔は讃岐藤家の祖を爲し其支末は六十三族に及んだと云はれ當國內外に顯はれて居るが時と共に興廢變轉常なく或は頼朝に屬し北條に黨し細川に據り仙石に従ふなどよく順應して居る、細川時代に於ける本郡の支配者としては香西元資、香川民部、長尾高晴、羽床章隆(奈良元安)などよく顯はれて居る降て天正年間以後仙石、尾藤、生駒、松平の所領となつて來た。本郡は讃岐國の中央より稍西に偏し東香川郡西仲多度南は徳島縣三好郡に接し北は瀬戸内海に面して居る、他勢南北に長く南美合村より北王越村に至る里程九里三十一丁東端岡村より西土器村に至る里程四里十四丁面積二十五方里六五管内第一位の面積を有する、山嶽には王越村に屬する大越山(二千八百八十尺)美合村に屬する大川山(三千百尺)などあるが坂本村に屬する飯の山(二千四百四十尺)は形狀眺望の點より松山村に屬する白峯山は史蹟に依り名高い、河川には美合村に發源する土器川(流域九里五丁)粉所村に發源する綾川(流域八里十六丁)岡田村に發源する大東川(流域三里十四丁)などがある。

【土地】 本郡土質は香川郡と略同しく説明を略する今本郡の地目段別を示すと次の通りである。

民有有租地		民有免租地		官有地	
地目	段別	地目	段別	地目	段別
田	八、六九二、七九 ^町 九 ^畝	河川	七九二、〇六 ^町 六 ^畝	田	七七四、一六 ^町 一六 ^畝
畑	一、六五七、六四	溜池	一〇一、〇一	畑	三一八、一八
宅地	九一七、〇三	道路	六一、五一	宅地	二三三、六二
鹽田	三八六、三六	砂防地	七〇、二四	鹽田	八五、〇九
池沼	六、九三	墳墓地	五一、六一	池沼	九八、八五
山林	一五、六一〇、〇一	堤塘	三九、六一	山林	三四、二三
原野	一二〇、三三	學校數地	一九、四六	原野	九六〇、八二
雜種地	五、〇二	其他	一四、五九	雜種地	一六、三〇
計	一七、三九六、一一	計	一、二五〇、〇九	計	二、五二一、二五

【戸口】 本郡大正十年未現在本籍人口は計十三萬九千九十五人で内男七萬千四百二十六人女六萬七千六百六十九人現住人口は計十一萬五千六百十八人内男五萬七千六百三人女五萬

八千七人で本籍人口に對し貳萬三千四百八十五人の減少を示して居る即ち此減少は他管よりの入員に比し出員の多きを示せるものであるが本郡一方里の人口密度は四千五百七人二一で本縣に於ける密度の順位は第五位であるが他府縣平均密度二千二百三十九人に比し尙二倍〇一に當り頗る過剰と云はざるを得ない、種々の事情で一概には論せられぬが他府縣との均衡を保つ迄には本郡のみにて尙五萬人の出員能力があるものと云へる、今本郡の本籍人口現住人口並に戸數を町村別に表示して見る。

本籍人口、現住人口、戸數町村別

(×印は町)

町村名	本籍人口		計	現住人口		計	現住戸數
	男	女		男	女		
×坂出	八、九九九	八、六四四	一七、六二三	八、〇九〇	八、八四二	一六、九三二	三、七九五
金山	一、八二一	一、三六八	三、一八九	一、三七三	一、四〇三	二、七七六	五七八
西庄	一、一〇一	一、一四八	二、二四九	七五六	八二七	一、五八三	三一二
林田	二、七六七	二、六一五	五、三八二	二、三七七	二、二八九	四、六六六	九九八
松山	二、七六五	二、五二五	五、二九〇	二、〇五九	一、九八九	四、〇四八	八七四
王越	一、四八一	一、四三〇	二、九一一	一、一三六	一、二一七	二、三五三	五二一

町村名	本籍人口		計	現住人口		計	現住戸數
	男	女		男	女		
加茂	一、四一八	一、三四四	二、七六二	一、〇四三	一、〇八一	二、一一四	四一〇
府中	一、九四一	一、九二一	三、八六二	一、八三三	一、六四〇	三、四七三	六六五
端岡	二、七九九	二、五六一	五、三六〇	二、〇九〇	二、一四〇	四、二三〇	八五六
山内	二、四〇一	二、二八八	四、六八九	一、七九七	一、八三五	三、六三二	六八五
畑田	一、二六七	一、二〇七	二、四七四	一、〇一一	一、〇二三	二、〇三四	三九六
陶宮	二、四七二	二、三〇六	四、七七八	二、〇二八	一、九八三	四、〇一一	七六八
瀧宮	二、〇八七	二、一一九	四、二〇六	一、六四八	一、七一	三、三五九	七〇四
羽床	一、二三〇	一、一三一	二、三六一	九五四	九三一	一、八八五	四〇〇
羽床上	一、三五四	一、二七六	二、六三〇	一、〇六一	一、〇二四	二、〇八五	四五〇
西分	一、〇〇四	九四一	一、九四五	七四四	七六七	一、五一	三〇九
山田	二、七九一	二、五八三	五、三七四	二、三九六	二、二五九	四、六五五	八六五
千疋	八五三	八四七	一、七〇〇	六九〇	七〇一	一、三九一	二六八
粉所	一、四六二	一、四四八	二、八一〇	一、〇九六	一、一三四	二、二三四	四三八
×宇多津	三、七八〇	三、六三九	七、四一九	二、九八六	二、九二五	五、九一一	一、四七四
川津	二、五五八	二、三九三	四、九五一	一、九八二	一、九六五	三、九四七	八一四
土器	一、九八〇	一、九二四	三、九〇四	一、七二六	一、六七八	三、四〇四	六七四

川西	一、六七四	一、五七三	三、二四七	一、三二六	一、二八四	二、六一〇	四八六
飯野	一、五八四	一、六三三	三、二一七	一、六七一	一、六九八	三、三六九	六四九
坂本	三、〇〇四	二、七三一	五、七三五	二、三二八	二、三三二	四、六六〇	九二〇
法動寺	二、二〇五	二、一九二	四、三九七	一、七四四	一、八〇一	三、五四五	七二〇
富熊	一、五一一	一、三四〇	二、八五一	一、一七五	一、〇六〇	二、二三五	四三九
栗熊	一、八四七	一、七一二	三、五五九	一、三七三	一、四四一	二、八一四	六一九
岡田	二、九二七	二、七九六	五、七二三	二、二九一	二、二七〇	四、五六一	九六三
長炭	二、六七七	二、五一六	五、一九三	一、九二〇	一、九二七	三、八四七	八一二
造田	一、四四〇	一、一一〇	二、二五〇	八八〇	八六五	一、七四五	三六八
美合	二、五四六	二、五〇八	五、〇五四	二、〇一九	一、九六五	三、九八四	七八九
計	七一、四二六	六七、六六九	三九、〇五五	五七、六〇三	五八、〇〇七	二一五、六一〇	二四、〇一九

【交通】 本郡陸路の交通として國道二十三號線の高松より三豊郡財田村に通ずるもの郡内端岡、府中、加茂、西庄、金山、坂出、宇多津、土器の各町村を通ずるあり他の路線として左の縣道三線郡道二十四線の外里道延里數五十六里共に縱横に通し交通機關として坂出、栗熊、岡田間及高松、瀧宮、琴平間の乗合自動車あり、又讚岐鐵道は郡内北部を横貫し運輸交通共に至便である。

本郡王越村乃生崎より岡山縣兒島郡日比村大字濫川に至る海底電線は明治十三年一月沈設せられ又電話は四十一年一月沈設せられ本州との通信を爲し得ることになつた。

縣道 坂出、貞光線 綾歌郡坂出町より川津、法動寺、岡田村を経て美合村大字勝浦徳島縣界に至る九里十四丁(重用線を含む)。

坂出停車場線 坂出町字濱田三、七九〇番地先より(坂出町字西新開より濱田迄國道二十三號重用)坂出町字濱田三、七八七番地先に至る五丁五十間。

坂出港線 坂出町字西新開一、八三五番地先より文明町明神町を経て字西新開一、六九二番地先に至る四丁四十五間(同上)。

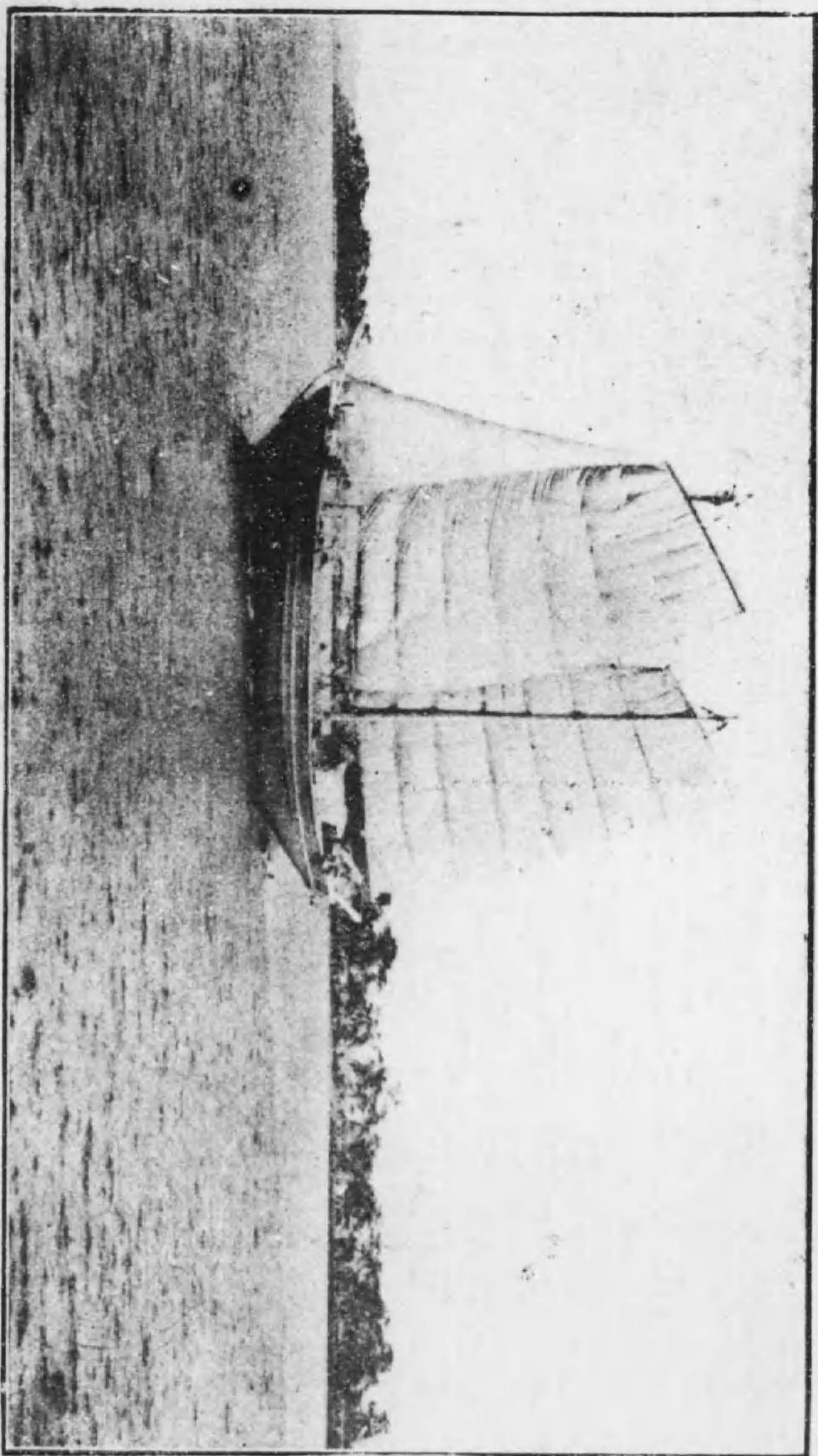
郡道 坂出西庄線主用延長十一丁、王越坂出線同四里二十五丁、大簾坂出線同里十四丁、鴨川林田線同里、鴨川御陵線一里二十三丁、國府圓座線同三十三丁、端岡圓座線同四丁、端岡瀧宮線同二里、瀧宮千疋線同里四丁、西分端岡線同二里三十五丁、西分府中線同三里十二丁、美合貞光線同里二十五丁、造田瀧宮線同三里七丁、瑞岡粉所線同里八丁、美合山内線同二里十三丁、法動寺瀧宮線同里二十四丁、常包琴平線同十三丁五十二間、瀧宮善通寺線同二十五丁、國分金藏寺線同二里二十六丁、土器坂出線同里十五丁、岡田宇多津線同三里二丁、飯野丸龜線同二十八丁、川西丸龜線同里二十四丁合計二十四線四十一里二十六丁。

【教育】 郡内小學校は合計四十校で内尋常小學校九校高等科を併置するもの二十九校分

教場二校學級尋常科三百五十、高等科四十六、合計三百九十七、尋常科の教授に従事する正教員男百八十八名女百六名高等科の教授に従事する男四十三名女三名尋常科專科正教員男一名女二十六名高等科男一名女一名尋常科准教員男九名女三十一名高等科男二名尋常科代用教員男二十一名女三十名合計男二百六十五、女百九十七名又大正十年三月一日現在在籍兒童は尋常科男九千百、女八千五百九十九、高等科男千七百七十七、女五百三十六、合計壹萬九千四百十二名である。

縣立女子師範學校、師範學校男子部に於て述べた如く(第一二三頁高松の部)嚙矢は明治二十三年一月であるが明治四十四年十二月迄は男子部と同校であつた翌四十五年一月宮脇村に分離獨立することに決定同年四月五日分離したが同大正元年八月本校の位置を綾歌郡坂出町に變更大正二年四月一日移轉し同町所在の商業學校々舎を仮用した又附屬小學校として第二坂出小學校の一部を代用した同年四月二十五日新校舍改築成り開校授業した大正四年二月學則の一部を改正本科二部生の定員を減し一學級とした同年四月一日附屬小學校新築落成從來の代用附屬小學校は廢止せられた現在職員十六學級一部四、二部二、生徒定員一部百六十名二部八十名在籍生徒數一部百六十名二部生四十二名大正元年より十年迄の卒業者兩部合計五百八十一名に達して居る。

縣立坂出高等女學校 大正六年四月女子師範學校に併置開校したもので現在職員八名(内七名女師より兼務)生徒定員二百五十名在籍生徒二百十二名學級數五、大正九年度に於て



山嶽の嶺より沖出坂

初めて卒業者二十九名を出して居る。

縣立坂出商業學校(坂出町)大正三年四月の開校で元郡立綾歌商業學校と稱し乙種程度の學校であつたが大正七年四月より甲種程度に變更豫科二年本科三ヶ年とした、大正十一年度より縣立に移管改稱するに至つた、現在職員十五名生徒定員五百名在籍生徒四百二十六名學級數九、大正三年度より同九年度迄の卒業者本科百七十六名專修科四十三名を出して居る。

縣立主基農業學校(瀧宮村)大正四年四月の開校で元郡立主基農林學校と稱し乙種程度である、本郡大嘗祭主基齋田の紀念として設立されたものである、郡制廢止に伴ひ十一年度より縣立に移管改稱された、現在生徒定員は男女合計三百名在籍生徒數男百六十一女百五十三、合計三百十四名學級數三、大正五年度より同九年度迄の卒業者男女合計三百名で職員十一名である。

縣立飯山農業學校(法勤寺村)大正三年四月の開校乙種程度の郡立學校で修業年限は三ヶ年である元綾歌農業學校と稱したが大正十一年度より改稱縣立に移された現在職員十一名生徒定員三百名在籍生徒男百五十六、女百七十八、計三百三十四名學級三、大正五年より大正十年度迄の卒業者男二百七十、女二百十九、計四百八十九名である。

【財政】本郡大正十年度歳入出原豫算は十五萬八千八百六十八圓で内歳入は經常部十三萬七千三百三圓臨時部貳萬千七百六十五圓歳出は經常部八萬七千四百四十四圓臨時部七萬千七

百二十四圓である、歳入の内十二萬九百三圓は町村分賦額で他の収入では縣補助金の壹萬九千四百十二圓授業料の壹萬四千九百五圓が主である、又歳出の主なるものは三郡立學校費の經常歳出五萬二千二十三圓臨時部に屬する教育費九千四百四十九圓計六萬千四百七十二圓で土木費に屬する經常臨時歳出五萬二千三百十五圓郡吏員費壹萬七千四百十九圓勸業費壹萬五千百十圓と云ふ順である、次に土木費の内主なるものは王越坂出線改修費壹萬一千圓、土器坂出線改修費壹萬三千四百六十圓外四線の改修費で勸業費支出の主なるものは郡農會補助費の八千二百五十圓及び畜産組合、蠶絲業同業組合補助、農具展覽會費などである。

【衛生】 本郡の治療機關として開業せる醫師五十四名齒科醫師十三名藥劑師八名の外産婆九十五名看護婦八十八名である。

【金融】 本郡の金融機關として郡内に本店を有するもの又は支店出張所を開設せるものは左の通りで其成績に就ては第四二頁を参照されたい。

郡内に本店を有するもの

- 株式会社 坂出銀行 (坂出町) 出張所 山田村、栗熊村、法勤寺村、端岡村、飯野村
- 株式会社 綾歌銀行 (同) 出張所 中通町
- 株式会社 坂出同盟銀行 (同) 出張所 林田村
- 合資會社 松山銀行 (松山村) 出張所 林田村
- 株式会社 宇多津銀行 (宇多津町)

郡外に本店を有するもの

- 株式会社 高松銀行 (高松市) 支店 坂出町
- 株式会社 讃岐銀行 (琴平町) 支店 坂出町 出張所 飯野村
- 株式会社 琴平銀行 (同) 支店 龍宮村 出張所 岡田村
- 株式会社 二十二銀行 (東京) 支店 坂出町

本郡民の郵便貯金は大正十年三月末現在人員四萬四百八十二、金額百三十八萬八千二百三十二圓で一戸の平均貯金額五十七圓八十錢である。

【産業】 本郡の産業機關として坂出町に綾歌郡を地區とする蠶絲業同業組合及以同業組合がある又他郡市と共に本郡を地區とする中讃醬油醸造同業組合、西讃塩田同業組合、などで産業の助長金融機關として産業組合法に依る組合は合計二十五組合ある。

本郡の實業團體として資本金壹萬圓以上の會社を示すと左の通りである。

名	種	營業ノ種類	所在地	資本金
平和サイダ株式会社	サイダ製造販賣	坂出町	五〇、〇〇〇	
坂出製材株式会社	製材	坂出町	五〇、〇〇〇	
綾歌印刷株式会社	活版印刷	同	一、二〇、〇〇〇	
謙田産業株式会社	農林業ノ經營	同	一、五〇〇、〇〇〇	
坂出繩吹株式会社	繩吹ノ賣買	同	二〇〇、〇〇〇	
讃岐製粉株式会社	小麥粉製造	同	一、〇〇〇、〇〇〇	
坂出舍密株式会社	苦汁製藥	同	三〇、〇〇〇	

株式會社坂出商會	有價證券賣買仲介	同	一〇〇、〇〇〇
株式會社航運組	運送業	同	一〇〇、〇〇〇
肅岐石炭株式會社	石炭賣買仲立	同	五〇、〇〇〇
坂出商船株式會社	海陸運送取扱、金錢貸付	同	二〇、〇〇〇
株式會社坂出魚菜市場	魚菜類賣買	同	一五〇、〇〇〇
株式會社平和券	藝妓取扱	同	六〇、〇〇〇
西讚石炭株式會社	石炭問屋業	同	六〇、〇〇〇
株式會社油屋商店	諸油及醬油製造	同	三〇、〇〇〇
木田醬油株式會社	醬油製造販賣	同	二〇〇、〇〇〇
坂出新炭株式會社	薪炭竹材販賣	同	一〇〇、〇〇〇
株式會社津島商會	肥料賣買問屋	同	五〇、〇〇〇
綾歌眞田株式會社	眞田及原料、賣買	同	二〇〇、〇〇〇
金山鹽田株式會社	製鹽	同	一〇〇、〇〇〇
金山商事株式會社	肥料並吹、賣買	同	三〇、〇〇〇
讚岐精麥株式會社	精穀、穀物仲介等	同	一〇〇、〇〇〇
坂出ラムネ製造株式會社	清涼飲料水製造	同	五〇〇、〇〇〇
林田酒造株式會社	酒類製造	同	五〇、〇〇〇
林田鹽產株式會社	鹽製造	林田村	一〇〇、〇〇〇
林田倉庫株式會社	金錢貸付、肥料賣買	同	一〇八、〇〇〇
海南物產株式會社	諸商品賣買紹介	同	四〇、〇〇〇

總社鹽產株式會社	食鹽製造	同	一二〇、〇〇〇
林田商事株式會社	繩吹麥稈其他ノ賣買仲介	同	一〇〇、〇〇〇
林田醬油株式會社	醬油釀造販賣	同	一〇〇、〇〇〇
松山養魚株式會社	魚類養殖並食鹽製造	同	一〇〇、〇〇〇
大藪製鹽株式會社	製鹽業	松山村	一五、〇〇〇
綾川酒造株式會社	清酒製造	同	七五、〇〇〇
四國眞田株式會社	眞田及原料ノ賣買	加茂村	二五、〇〇〇
綾歌製絲株式會社	生絲製造	同	一〇〇、〇〇〇
不動產業株式會社	動不動産ノ賣買仲介	府中村	一三〇、〇〇〇
國分倉庫株式會社	金錢貸借、肥料穀物販賣	同	一六、〇〇〇
讚岐畜積株式會社	土地建物有價證券賣買等	端岡村	三〇、〇〇〇
瀧宮酒造株式會社	清酒釀造	陶村	五五、〇〇〇
羽床產業株式會社	肥料賣買金錢貸借	瀧宮村	五〇、〇〇〇
羽床倉庫株式會社	金錢貸借肥料賣買	同	一〇、〇〇〇
綾南產業株式會社	金錢貸付、物品販賣	羽床上村	二〇、〇〇〇
宇多津製鹽株式會社	製鹽業	宇多津町	八〇、〇〇〇
宇多津鹽田株式會社	同	同	二〇、〇〇〇
宇多津東鹽田株式會社	同	同	五五、〇〇〇
宇多津大東鹽田株式會社	同	同	七四、〇〇〇
宇多津化學工業株式會社	苦汁製藥	同	五〇、〇〇〇

上器鹽田株式會社	鹽田貸付	土器村	八〇、〇〇〇
坂本產業株式會社	金錢貸借肥料販賣	坂本村	二〇、〇〇〇
栗能產業株式會社	同	栗能村	一〇、〇〇〇
岡田信託株式會社	同	岡田村	三〇、〇〇〇
中讀製絲株式會社	蠶絲蠶種製造	同	五〇、〇〇〇
長炭產業株式會社	肥料販賣	長炭村	一〇、〇〇〇
乃生鹽產株式會社	製鹽業	王越村	四八、〇〇〇
合資會社坂出特許麥製造所	糯米麥及穀物賣買	坂出町	二〇、〇〇〇
鹽產合資會社	鹽石炭問屋	同	一〇、〇〇〇
合資會社美登利商會	有價證券賣買	同	二〇、〇〇〇
龜井鹽田合資會社	製鹽業	同	八〇、〇〇〇
坂出鹽元賣捌合資會社	食鹽賣買	同	一〇、〇〇〇
鎌田宗族合資會社	動產有價證券ノ所有等	同	五〇〇、〇〇〇
鴨川倉庫合資會社	金錢貸付業	府中村	五〇、〇〇〇
長尾合資會社	肥料販賣	宇多津町	二〇、〇〇〇
岡田酒造合名會社	酒類製造販賣	岡田村	一六、〇〇〇
松永酒造合資會社	清酒製造	飯野村	一〇〇、〇〇〇

【工業】 最近の調査に依れば本郡下工業物總價額は九百八十二萬圓で内主なるものは蠶絲二十八萬圓綿絲紡績三百九十二萬圓瓦十萬圓工業藥品九萬五千圓肥料五萬圓酒百三十三

萬五千圓醬油七十四萬三千圓麥粉七十一萬四千圓素麵及麵類五萬五千圓麥稈真田百五十七萬圓以及蕪製品五十萬圓などである。次に本郡大正十年末調査に係る職工十人以上を使用せる工場を示せば左の如くである。

工場名稱	製品種類	所在地	工場名稱	製品種類	所在地
坂出舍密株式會社	ブローム、鹽化加里	坂出町	坂出ラムネ製造株式會社	ラムネ、ミカン水	坂出町
鎌田商會	醬油	同	林田酒造株式會社	清酒	林田村
横笹醬油醸造所	同	同	鈴木製藥所	炭酸マグネツシヤ	同
會敷紡績株式會社	綿絲	同	小原酒醬油製造場	清酒、醬油	同
坂出工場	同	同	綾歌製絲株式會社	製絲	府中村
中川酒造場	清酒	同	瀧宮酒造株式會社	清酒	龍宮村
鎌田酒造場	同	同	宇多津化學工業株式會社	ブローム、鹽化加里其他	宇多津町
永尾醬油店	醬油	同	大阪硬煉瓦株式會社	硬煉瓦	同
讀岐製粉株式會社	小麥粉	同	會社宇多津工場	清酒	同
綾歌印刷株式會社	印刷業	同	宮武茂三郎酒造店	製絲	岡田村
和泉製綿工場	製綿	同	中讀製絲株式會社	製絲	同
西川製麥所	精麥	同			

【社寺】 本郡内に現在する神社は合計五百三十七社で内縣社四、郷社十四、村社五十八無格社四百六十一社である、又寺院は天臺宗三、眞言宗二十五、淨土宗二、臨濟宗一、曹洞宗一、眞宗四十五、日蓮宗二、時宗一、合計八十箇寺で境外佛堂は十五あるが神社に就ては村社以上を寺院に就ては著名のものを各所在町村の部に於て概記することとする。人物、名所、史蹟 人物名所史蹟に就ても著名のもの、みを各所在町村の順に記載する。【坂出町】 東及南金山村西宇多津町に界し北瀬戸内海に莅み正北に瀬居島北西に沙彌島を望む、舊西ノ庄郷下五村の一で明治二十三年二月御供所を合せ同月町村制實施と共に町制を施行した面積〇、方里三六〇大正十年末人口一萬六千九百三十二戸數二千七百九十五を算す綾歌郡役所の所在地で大工場としては倉敷紡績分工場あり又附近は塩田多く近來商工業益々發達し市街般盛況を呈し坂出港よりの移出は年額八百三十萬圓餘移入は五百四十六萬九千餘圓を示して居る今最近同港よりの移出入品數量價額を示せば左の通りである。

移出			移入		
品名	數量	價額	品名	數量	價額
白米	一、四六四石	六一〇、〇九六	小麥	二、九五二石	二九〇、〇三〇
支米	一六、一〇六石	七五、五九四	麥	二、三三四石	三七四、三二一
大豆					
食鹽					
製麥					
小麥粉					
醬油					
吹					
其他					
計			計		

移出			移入		
品名	數量	價額	品名	數量	價額
麥	四、二四四石	一三四、九三三	大豆	五、五〇九	一四六、九六元
食鹽			食鹽	六、四〇五、六〇〇斤	一八三、五九三
製麥	二七、四二二石	七五五、八三六	石炭	二二、六六一	一九一、八七六
小麥粉	一四〇、五三六	二二二、三三九	綿類	五九五、九四二	二、九三二、五〇二
醬油	一、九七九	六四、四六五	植物肥料	五八、六七六	一八五、六三〇
吹	五五九、二三〇	九三、一三九	海産肥料	一九三、五六六	七八、一四四
其他			其他		
計			計		

社寺 八幡神社(村社)祭神譽田天皇永祿年中細川頼之宇多津に在陣の頃宇佐八幡宮より勸請せしものと云ふ。 教專寺 新濱町に在り眞宗西本願寺末由緒不詳。 清道寺 眞言宗金剛峯寺末由緒不詳。 定光院 眞言宗金剛三昧院末由緒不詳。 【金山村】 東西庄村南川津西宇多津町北坂出町に接し一部は瀬戸内海に臨む舊西ノ庄郷下に在つた江尻、福江の二村を後に至り併せたるもの面積〇、方里三四七七大正十年末人口二千七百七十六、戸數五百七十八を算す。

社寺 吉祥寺 江尻に在り眞言宗仁和寺末大永中僧阿坊の建立である。

【西庄村】 東加茂村東南府中、北林田、西南川津、西金山村に界す舊西ノ庄郷下の一村であつた又明治初年より二十三年一月迄は福江、江尻、西庄聯合で役場を江尻に置かれたが同年二月獨立村となつた、面積〇、方里三一七 大正十年末の人口千五百八十三、戸數三百十三である。

社寺 白峯宮(縣社)彌蘇場に在り崇徳天皇を祀る長寛二年の創建である。

高照院 眞言宗仁和寺末舊林田村に在つたが明治に至り現在の地即ち舊摩尼珠院の跡に移つた。

金堂 西庄に在り本尊十一面觀音は弘法大師の作本堂は四國七十九番の札所である。

人物 本莊助三郎慶長年間西庄村字原に生る頗る馬術に長ず、私財を投し綾川より井口を開鑿し綾川の水を西庄村に溉灌せしめ水利の便を計つた西庄村字原に約方二間の古塚あるは助三郎を祀れるのである。

本莊秀經 通稱和太右衛門字子正、蘇山と號す寛政四年西庄村に生れた、家世々綾北の名家で劔法に達し遂に大里正となつた、本條新田は氏の私財を投して築造したもの後其功に依り士籍に列せられ安政五年八月八十一歳で歿した。

【林田村】 東松山村南加茂村西、西庄、金山村に界し北瀬戸内海に面す面積〇、方里三八 二大正十年末の人口四千六百六十六、戸數九百九十八を算する。

社寺 總社神社(郷社)祭神伊弉諾尊外二神由緒不詳。

總倉神社(村社)祭神須佐之男命外二神由緒不詳。

藥師院 眞言宗仁和寺末午頭山惣藏寺と號す天平年間に建立したものである。

西根寺 光瑞山と號し眞宗西本願寺末天正中僧道腸の創立である。

寶性院 眞言宗醍醐派寶徳年間の創立である。

人物 中條勝次郎 諱は澄友字は思行龍山と號す學者にして劔柔道に達した弘化三年四十七歳で歿した。

富家五十鈴 諱は高幹、松浦と號す經史に通じ和歌を能くし又書道に達した慶應元年六十七歳で歿した。

【松山村】 東香川郡下笠居村南端岡、加茂、西、林田村及瀬戸内海に面し北王越村に接す元青海、高屋、神谷の三村を合併せしもの面積一方里一八二 大正十年末人口は四千四十八戸數八百七十四を算する。

社寺 高家神社(村社)祭神崇徳天皇外十四神長寛二年八月崇徳天皇奉葬の時觀興休止の所に御興休めの石あり後人茲に祠を立て祀つた。

神谷神社(郷社)祭神奥津彦命外十一神白峯山の西麓にあり延喜式内讃岐二十四社の一で弘仁三年阿刀大足の勸請である、本社本殿は特別保護建造物に指定されてある。

青海神社(村社)祭神顯仁尊外九神。

崇徳天皇白峯宮 白峯山の頂御陵の南にあり長寛二年八月二十六日崩御九月十八日此峯に茶毘した高倉帝の安元三年七月二十九日崇徳院と奉諭し神殿を營み大権現と奉號した。白峯寺 綾松山洞林院と號し眞言宗仁和寺末四國八十一番の靈場で大同年間弘法智澄大師の創立と云ふ結構壯大寺寶多く由緒に富んで居る。

遍照院 高屋に在り眞言宗白峯寺末慈氏山松浦寺と號す弘法大師修業の時暫く寓居せられたことがある、寺内に中山城山の碑がある。

清立寺 神谷に在り影向山と號し眞宗西本願寺末香川信景の家臣香川山城守と云ふ人の開基と云ふ。

【王越村】 東香川郡下笠居村南松山村に接し北瀬戸内海に瀕す舊林田郷の下にあつた乃生木澤の二村を明治二十三年合併したもので面積〇、方里六二六大正十年末の人口二千三百五十三、戸數五百二十一を算する本村乃生崎より岡山縣兒島郡日比村大字澁川に至る海底電線は明治十三年一月沈設せられ電話は四十年一月沈布本州との通信を爲し得るに至つた社寺 梅宮八幡神社(村社)祭神市杵島姫命外四神、神功皇后三韓征伐の途御船此山下に泊し此山上に上り玉ひ御産家を建てし故産女宮と云ひしを後梅の宮と云ひ後祠を建てたものであると傳へられる。

喜佐波神社(村社)祭神伊弉諾尊外二神由緒不詳。

常光寺 乃生に在り眞言宗仁和寺末由緒不詳。

慈雲院 木澤に在り眞言宗藥師院末由緒不詳。

【加茂村】 東端岡村南府中村西、西庄、北、林田及松山村に界す明治二十三年鴨、氏部の二村を併せ加茂村とせしもの面積〇、方里三四四大正十年末の人口二千二百二十四、戸數四百十である。

社寺 八銚神社(村社)氏部に在り祭神須佐男命平城天皇の大同二年の頃奇瑞あり後郷人祀りしものである。

鴨神社(村社)鴨に在り祭神別雷神天平四年行基の建立と傳へられる、延喜式讚岐二十四社の一である。

松尾神社(村社)祭神大山咋命外一神由緒不詳。

鴨神社(村社)祭神言主命外一神弘仁年間阿刀大足の勸請なりと傳へられる。

正蓮寺 綾坤山と號し眞宗福善寺末天文年中、中野太夫高遠の末瀧某の開基である。

【府中村】 東山内村南、陶、瀧宮、西坂本、川津、西庄、北加茂村に界す往古府中郷の時代府中、陶、畑田の三村であつたが明治二十三年村制實施當時府中一村を以て獨立した面積一方里〇六四大正十年末の人口三千四百七十三、戸數六百六十五である。

社寺 城山神社(縣社)北谷に在り祭神神櫛別命社殿は上古頂上にあつたと傳へらる創建年月明かでない。

万燈神社(村社)新居に在り火迦其土命を祀る。

鼓岡神社(村社)木丸殿車返御所と云ふ崇徳帝の行宮であつた今崇徳天皇外一神を祀る。

西山神社(村社)南谷に在り大己貴命を祀る。

八幡神社(村社)綾坂に在り足仲彦天皇外二神を祀る。

天満神社(村社)石井に在り菅原道真公を祀る。

史蹟 讃岐國廳趾 府中鼓岡の東南に在り孝徳天皇大化革政の際創設せられ紀夏井菅原道真等の各國司在任せし所である。

國分石 府中石井にあり往古讃岐國廳所在地で東西より國廳に至る道程均しき所なるを表する爲め石を建て標示した其石今猶路傍の田間に存す。

人物 佐野數二 綾坂の人元宇多津町に生れ二十七歳佐野氏を繼ぎ戸長村長の職に就き在職中公益事業に盡瘁明治三十四年五月藍綬褒章を下賜せられたが明治三十四年八月五十六歳で歿した。

【端岡村】 東香川郡上笠居及檀紙村南同郡山内村西、加茂村北松山及香川郡下笠居村に界す明治二十三年新居、國分の二村を併せ村制を施行せしもの面積〇、九五一方里大正十年末の人口四千二百三十、戸數八百五十六である。

社寺 八幡神社(村社)國分に在り譽田天皇を祀る。

楠尾神社(郷社)新居に在り玉依姫命外三神を祀る。

眞教寺 眞宗法恩寺末天正中僧了圓の創立。

萬燈寺 新居萬燈山に在り天臺宗天平年間僧行基の草創である。

大善寺 眞宗東本願寺末天正中僧賢智の建立

國分寺 國分に在り白牛山千手院と號し眞言宗

大覺寺末四國八十番の靈場草創明かでないが由緒古く國寶寺寶など多い。

寶林寺 國分に在り眞言宗國分寺末。

蓮光寺 國分に在り眞宗常光寺末永祿中沙門行清坊の創立である。

徳清寺 同眞宗高善寺末。

【山内村】 東香川郡檀紙及圓座村南本郡畑田、陶、西府中、北端岡村に接す明治二十三年福家、新名、柏原の三村を併せ村制を施行せしもの面積〇、方里七四六大正十年末の人口三千六百三十二、戸數六百八十五である。

社寺 日抱神社(村社)福家に在り祭神手力雄命外五神由緒不詳。

春日神社(村社)新名に在り天兒屋根命を祀る。

宇佐八幡神社(村社)柏原に在り應神天皇外二神を祀る。

長然寺 福家に在り龍花山と號し眞宗本願寺末。

滿善寺(新名)眞宗高松福善寺末。

鷲峯寺 天臺宗聖護院末天平勝寶年間鑑眞の草創。

【陶村】 東畑田、南山田、西瀧宮、北山内及府中村に接す舊府中郷の一村であつた明治二十三年陶一村を以て獨立村制を布いた面積〇、方里七一七、大正十年末の人口四千十一、戸數七百六十八を算する上古陶師の住みしより此の名起つたと稱せられる。
社寺 五社八幡神社(村社)天照皇大神外四神を祀る。
八幡宮(郷社)宮前に在り譽田天皇を祀る元猿尾に在つたが天文年間福家七郎今の地に遷した。

長樂寺 眞宗阿波安樂寺末福家七郎子孫の創立なりと云ふ。

【畑田村】 東香川郡川岡、池西村に接し南千疋、西陶、北山内村に界す舊府中郷下の一村であつた明治二十三年畑田一村を以て獨立村制を布いた面積〇、方里二七〇、大正十年末の人口二千三十四、戸數三百九十六である。

社寺 八幡神社(郷社)本村に在り應神天皇外四神を祀る仁和年間の請勸である。

【瀧宮村】 東陶、山田、南羽床上、西羽床、北府中村に界し舊羽床郷下にあつたが後明治二十三年瀧宮、北村、萱原の三村を併せ村制を布いた面積〇、五七二方里、大正十年末の人口三千三百五十九、戸數七百二を數へる。

社寺 八坂神社(村社)萱原に在り須佐男命を祀る仁和年間の勸請である。
御山八幡神社(郷社)北に在り譽田天皇を祀る。

天満神社(縣社)萱原道眞公を祀る天曆二年二月。

瀧宮神社(村社)祭神須佐男命和銅二年六月勸請せしものと傳へらる。

龍燈院 住僧空澄菅公の恩遇に感し一社を此地に建て公東帶の上衣及自畫の肖像とを安置したが其後天正年間兵火に罹り明治六年西讃暴動の際復た焼失した今の社殿は其後建築されたもの明治九年二月縣社に列せられた。

菅公 仁和二年正月十六日(公時に年四十二)讃岐守の命を奉し同年四月當國に來らるゝや瀧宮に官舎を定め人民を撫育せられ其の在任六年の間學校を興し釋奠を行ひ給ひ事績頗る擧つた。

光貴寺 眞言宗仁和寺末天平中行基の開基で弘仁中空海修造せしところ古へ大寺であつた

妙延寺 菅原に在り天文中沙門治部郷なる者の建立である。

常善寺 眞宗本願寺末應永中瀧宮馬場行實の草創。

史蹟 綾川 又瀧川と云ふ清流にして幽邃の趣あり昔崇徳院此勝を愛給ひ玉趾を留め給ふた、百人一首中の

瀧をはやみ、岩にせかるゝ瀧川の

われども末は逢はむとぞ思ふ

右は崇徳院が瀧川の深潭清流巨巖に激する風趣を詠まれたもので此外菅公、西行法師、藤原高善、飛鳥井宋雅など此川に就て詠んだもの數種あるが略する。
念佛踊 菅公在任の當時仁和四年夏大旱にて里民大に苦む公疾苦を憐み曠山に祈雨せられ

直ちに大雨あり時の土民悦びに堪へず一種の舞踊を爲した此の故事に倣ひ今に七月二十五日を以て恒例として行はれる、尙天満神社の西に龍燈院の舊趾、有岡には菅公の館趾、天満宮の地に瀧宮城趾(瀧宮彌十郎の居城)榎木城趾(瀧宮豊後安資の居城)などがある。人物 久保太郎右衛門 萱原の人延寶四年二月生る氏は大羽茂池に至る水道を開いて公益を圖り正徳元年七月歿した、里民一小祠を建て靈を祀つて居る。

【羽床村】 通稱全吾小野村の人詩文繪畫を能くした明治三十四年八月六十九歳で歿した。せたもので面積〇、方里四二四大正十年末の人口千八百八十五、戸數四百を有する。社寺 松谷神社(村社)小野に在り天常立尊を祀る。

淨覺寺 眞宗西本願寺末天文元年長尾大隅守平正家足之介出家淨覺と稱し小野に建立寛永元年下村に移轉した。

本法寺 日蓮蓮妙蓮寺末羽床伊豆守の室本法院妙隆日榮天正年中草創。
眞行寺 眞宗興正寺末由緒不詳。

【羽床上村】 東山田、西分南長炭西羽床、北瀧宮村に界す元牛川、羽床上の二村を合せたもの面積〇、方里五六一大正十年末の人口二千八十五、戸數四百五十を算する。

社寺 藥師堂 牛川にあり眞言宗高貴寺末本尊は行基菩薩の作延寶八年の創建なりと云ふ
【山田村】 東千疋、東及南粉所西、西分、羽床上北陶村に界す明治二十三年山田上、山田

下及東分の三村を合併村制を實施したもので舊山田郷下九村の内である面積は一方里〇二二大正十年末の人口四千六百五十、五戸數八百六十五を有する、本村は優良村として明治四十四年十一月内務大臣より表彰せられ又大字山田上字田頃岩瀬辰三郎は大正三年三月主基齊田奉仕者たりし名譽を有する又本村の名譽である。

社寺 福ノ宮神社(村社)東分に在り應神天皇を祀る。
長柄神社(村社)同上國常立尊を祀る元正天皇の御宇勤請せしものである。

松熊八幡社(村社)山田下に在り譽田天皇を祀る。
本念寺 眞宗東本願寺末永正年間念西坊なる者の創建。

法道寺 眞言宗金剛峯寺末由緒不詳。
法專寺 眞宗興正寺末壽永の昔小松少將有盛屋島の戰場を脱れ閑居して一字を建て法專坊と稱し後寺號を建てた。

永覺寺 眞宗東本願寺末應永中僧覺了の草創である。

【西分村】 東山田粉所南美合西造田長炭北羽床上村に界す舊山田郷下の一村であつたが明治二十三年獨立の一村として村制を布いた面積〇、方里九七九大正十年末人口は千五百十一、戸數三百九である。

社寺 稚尾八幡神社(村社)應神天皇を祀る由緒不詳。
曲木神社(村社)天照太神外二神を祀る永正年間の勸請である。

善福寺

眞宗氷上常光寺末應安中修驗了順坊なる者の草創である。

【千疋村】 東香川郡由佐池西村に界し南本郡粉所西山田、北畑田、陶村に接す舊山田郷下の一村であつたが明治二十三年獨立の一村として村制を布いた面積〇、方里四九七大正十年末の人口千三百九十一、戸數二百六十八。

社寺 春日神社(村社)藏下に在り天兒屋根命を祀る。

八幡神社(村社)上千疋に在り神功皇后外一神を祀る。

粉所村 東香川郡安原村南本郡美合西、西分北千疋、山田村に界す舊山田郷下の二村であつた粉所西、粉所東の二村を明治二十三年合併村制を實施せしもの面積二方里〇五三大正十年末の人口二千二百三十、戸數四百三十八である。

社寺 猿養神社(村社)粉所東に在り天御中主命を祀る。

川上神社(郷社)同上水速賣命を祀る。

西明寺 眞宗本願寺末正嘉年中鎌倉西明寺時頼入道の建立である。

【宇多津町】 東坂出南川津、飯野、西土器村に界し北瀬戸内海に面す往古仙石生駒氏の居城せし處で殷盛の地たりし如く現在製鹽の本場として附近に鹽田多く宇多津鹽田會社、宇多津製鹽、宇多津東鹽田、大東鹽田、化學工業會社等あり明治二十三年村制を實施同三十一年三月町制を施行した大正十年末の人口五千九百十一、戸數千四百七十四面積は〇、方里四〇八である。

社寺 宇夫階神社(縣社)大巳貴命を祀る寶龜十年の勸請なりと傳へられる明治二十七年六月縣社に列せられた。

聖通寺 寶光院と號し眞言宗聖和寺末貞觀十年聖寶尊師の開基である。

圓通寺 眞言宗聖通寺末永仁中宥弘法師の創造である。

本妙寺 法華宗本能寺末嘉吉年間の創立其後頽廢弘治年間再興した。

西光寺 眞宗西本願寺末永祿年中泉州の人住谷某の創建である。

郷照寺 時宗、佛光山廣徳院と號し四國七十八番の靈場である初め天臺宗であつたが正應元年今の宗に改めた。

多聞寺 眞言宗聖通寺末正安年中僧良照の創立せしものである。

南隆寺 惠日山と號し彈宗高松見性寺末天文年間の創立である。

聖徳院 眞言宗聖通寺末正慶年中良翁法師の草創である。

淨泉寺 淨土宗長惠山と號し高松淨願末寺。

史蹟 宇多津城趾 聖通寺山にあり初め應仁の頃奈良太郎左衛門の經營する處奈良氏亡ぶ

に及んで後天正十三年仙石氏同十五年尾藤氏、生駒近規等茲に居つた。

人物 本町の人物として阿比野安太郎(勤王家)原夢江(學者)三郎兵尉業宗(鍛工)などがある

【川津村】 東西庄、南坂本、西飯野北金山宇多津に界す舊川津郷下東川津西川津の二村であつた面積〇、方里五七八大正十年末人口は二千九百四十七、戸數八百十四である。

社寺 春日神社(郷社)春日に在り武甕槌命外三神を祀る。
八幡神社(郷社)息長帯比賣命外二神を祀る。

安養寺 眞言宗聖通寺末天平年中行基の開基と傳へらる。

人物 鶴遊女史 宮崎巴陸の女畫を達鳳山に學ひで能くした天保年間の人。
宮本綾浦 通稱直一郎畫を黒田綾山に學び能くした天保年間の人。

【土器村】 東宇多津、南飯野郡家、西丸龜及南村に接し北瀬戸内海に臨む舊淺野郷四村中の一村であつたが明治二十三年獨立して村制を布いた面積〇、方里三五九大正十年末の人口三千四百四、戸數六百七十四を算する。

社寺 田潮八幡神社(郷社)譽田別の命を祀る創建年月不詳。

香古寺 天臺宗金倉寺末延命院と號し弘仁中の草創である。

寶光寺 眞言宗善通寺末創建年月不詳。

【川西村】 東飯野坂本法勤寺 西郡家村、北土器村に界す明治二十三年二月西二、西小川の二村を併せて村制を布いたもの面積〇、方里二七九大正十年末人口二千六百十、戸數四百八十六である。

社寺 春日神社(村社)西二にあり天兒屋根命外五神を祀る康保元年の勸請と傳へられる。
東光寺 眞宗西本願寺末天文年間沙門誓立の建立である。

人物 溝口萬年 通稱要藏西二の人大原東 の高弟で畫を能くした明治十二年六月七十一

歳で歿した。

【飯野村】 東川津南坂本西川西、土器、北宇多津に界す明治二十三年二月東分、西分及東二の三村を併せ村制を施行せしもの面積〇、方里三五七大正十年末人口は三千三百六十九戸數六百四十九である。

社寺 吉岡神社(村社)山下に在り行方親王を祀る由緒不詳。

飯神社(縣社)東二に在り飯依比古命外三神を祀る本社は延喜式讚岐二十四社の一であるが中古火災に罹り舊記の見るべきものがない。

【坂本村】 東府中南富熊、法勤寺、西川西、北川津、飯野の各村に界し面積〇、八六八方里明治二十三年東坂本、西坂本、川原、眞時の四村を併せ村制を實施せしもの大正十年末の人口四千六百六十戸數九百二十を有する。

社寺 日吉神社(村社)川原に在り大物主神外一神を祀る。

下阪神社(村社)川原に在り大氣都比賣神を祀る。

三谷神社(村社)東坂本に在り神櫛王外一神を祀る。

龜山神社(村社)東坂本に在り帯比賣尊外二神を祀る。

坂元神社(村社)西坂本に在り鷲住王外四神を祀る。

西光寺 眞宗興正寺末創立年月不詳。

三谷寺 東坂元に在り世尊院と號し一に長谷寺と云ふ眞言宗大覺寺末天平二年行基聖武帝

の詔を奉し堂塔伽藍を經始した後山門殿閣山火に燼し空海繼で經營したことがある今に於て讚の巨刹である。

安樂寺 東坂元に在り眞言宗三谷寺末。

極樂寺 同上。

人物 三谷石門名は遷字于喬通稱清平如牛又は恒心山人、城山樞夫、安々主人、三桃亭主人等の號あり、坂本村三谷瓦山の人貫名海屋に書を學び又詩書を善くした明治二十七年一月五十三歳で歿した。

【法勤寺村】 東富熊、栗熊、南岡田、西垂水、北坂本村に界す明治二十三年上、下法軍寺及東小川村を併合一村を編制せしもの面積〇、四二七方里大正十年末の人口三千五百四十五、戸數七百二十である。

社寺 八坂神社(郷社)下法軍に在り素盞鳴命外七神を祀る。

八幡神社(村社)同上足仲彦天皇外四神を祀る。

島田寺 下法軍に在り眞言宗高松弘憲寺末仁弘中弘法大師の創造で中古類廢天正後再興した。

西蓮寺 東小川に在り眞言京都興正寺末。

【富熊村】 東瀧宮羽床、南栗熊、西法勤寺、北坂本村に界す明治二十三年本村一村を以て獨立村制を布いた面積〇、方里四六八大正十年末の人口二千三百二十五、戸數四百三十九

である。

社寺 富隈神社(村社)本村に在り國狹土命を祀る。

八幡神社(村社)宮前に在り讚留靈王四世の裔綾益甲の勸請であると云ふ。

萬福寺 眞宗西本願寺末應永中沙門了圓の創立である。

吉祥寺 眞言宗大覺寺末寺本尊彌勒菩薩像は明治四十年六月德島縣勝浦郡小松島村より奉迎した。

【栗熊村】 東羽床、南長炭、西岡田、北富熊及法勤寺村に界す明治二十三年栗熊東、栗熊西の二村を併せ編制せしもの面積〇、方里五七四大正十年末の人口二千八百十四、戸數六百十九である。

社寺 住吉神社(村社)栗熊東に在り表筒男の命外三神を祀る。

字閑神社(村社)栗熊西に在り鶴羽葺不合尊を祀る延喜式讚岐二十四座の一で酒部益甲黒鷹の勸請であると云ふ。

福成寺 眞宗西本願寺末長尾大隅の族田村上野介の裔天正の末邑を失ひ僧となり草創した

勝福寺 東栗隈にあり眞宗西本願寺末寺。

専立寺 眞宗阿波安樂寺末明應年間僧了仁の創立である。

史蹟 栗隈城 湯船山上に在り長尾元高の四男田村上野守親光の居城であつた。

【岡田村】 東栗熊、南長炭、西仲多度郡高篠垂水、北法勤寺村に界す明治二十三年岡田上、

岡田下、岡田東、岡田西の四村を合せたもので面積〇、方里七三〇大正十年末の人口四千五百六十一、戸數九百六十三である。

社寺 八坂神社(村社)岡田上に在り素盞鳴命外一神を祀る。

宇弼神社(郷社)岡田下に在り武内宿禰外一神を祀る延喜式讚岐二十四座の一履中天皇の御宇に勧請されたと傳ふ。

椎尾神社(村社)椎尾に在り天ノ御中主神を祀る。

岡田神社(村社)岡田西に在り天津彦穗瓊々杵命を祀る大治中の勧請と傳ふ。

西覺寺 眞宗興正寺末天文元年僧宗圓の草創である。

慈光寺 岡田下に在り眞宗興正寺末永正中僧玉泉の建立と云ふ。

人物 草薙琴水名は源興通稱勘三郎岡田村の人岸俗を師とし龍虎を畫くに巧みであつた明治二十八年十二月六十八歳で歿した。

【長炭村】 東羽床上、西分、南造田、西仲多度郡吉野、北岡田、栗熊、羽床の各村に界す明治二十三年長尾、炭所東、炭所西の三村を合併村制を布いたもの面積一方里八四五大正十年末の人口三千八百四十七、戸數八百七十二である。

社寺 金山神社(村社)天御中主命を祀る天正八年長尾備中守の勧請である。

八幡神社(村社)應神天皇外一神を祀る文明三年の勧請である。

大井神社(村社)水波能賣神を祀る大永五年の勧請。

鳩峯八幡神社(村社)應神天皇外八神を祀る天平八年の勧請。

三島神社(村社)大山祇命外二神を祀る應安年中久米盛重の勧請である。

金剛寺 眞宗興正寺末寺由緒不詳。

尊光寺 眞宗興正寺末明應年中沙門少將の建立で天正中玄正入道(炭所城主長尾孫七郎)居つたことがある。

善性寺 眞宗阿波安樂寺末永正中沙門西了の建立である。

超勝寺 眞宗興正寺末永正中僧了玄の創立である。

慈泉寺 眞宗興正寺末大永中長尾大隅守族僧祐善なる者の建立である。

史蹟 長尾城趾 橘公忠の裔海崎元高の築く所初め三野郡宮の御崎に居り海崎豊後守元村と稱した、元村の子元高大隅守と稱し慶安元年正月西長尾の城に移り氏を長尾と改め以後六世天正十二年迄居つた。

大谷城趾 炭所東に在り大谷川左近大夫橘光兼父子の居城であつた。

金山城趾 炭所東に在り小龜城太郎の要城であつた。

【造田村】 東西分美合、南徳島縣三好郡西及北長炭村に界す舊長尾郷に屬し明治十八年、中通村、勝浦村との聯合役場を中通村に置いたが二十三年二月獨立して一村となつた面積〇、方里九三六大正十年末の人口千七百四十五、戸數三百六十八である。

社寺 天川神社(郷社)興臺産靈命外二神を祀る。

梶州神社(村社)瀬織津姫命外二神を祀る。
 稱名寺 眞宗本願寺末寺文明三年僧惠忠の開基。
 長光寺 眞宗興正寺末寺應永元年僧良信の開基。
 吉田寺 眞言宗三谷寺末天平年間行基の開基。

【美合村】 東香川郡安原上西村、南徳島縣三好郡、阿造田村、北粉所、西分村に界す明治二十三年川東、中通、勝浦の三村を合併村制を施行せしもの面積四方里四二〇大正十年末の人口三千九百八十四、戸數七百八十九である。

社寺 大川神社(郷社)中通に在り木華咲耶姫命外三神を祀る。

八幡神社(村社)同上姫大神外十神を祀る。

勝浦神社(村社)勝浦に在り小高命を祀る。

落合神社(村社)勝浦に在り瀬織比賣神外八神を祀る。

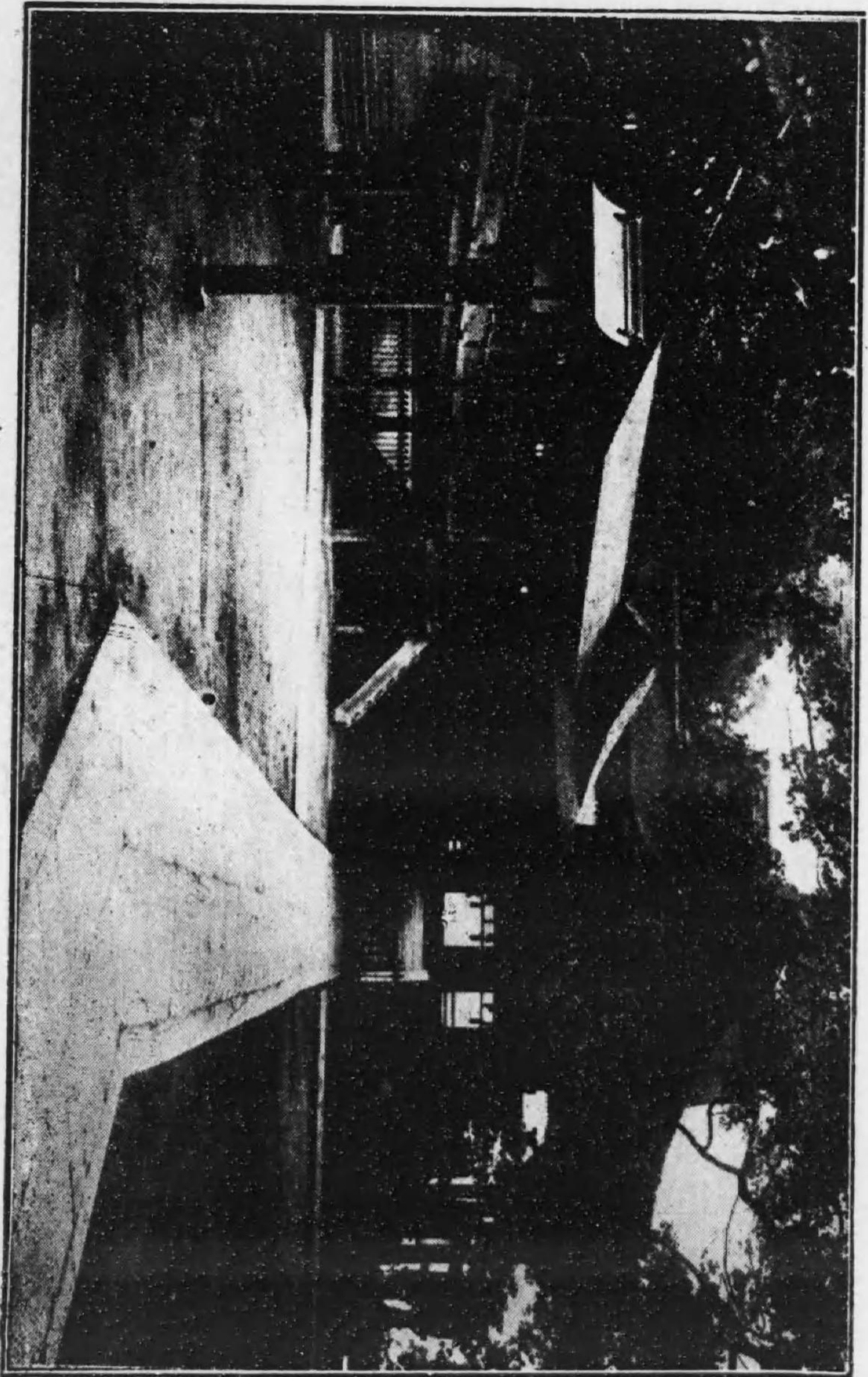
山熊神社(村社)川東に在り木花咲耶姫命外一神を祀る。

八幡神社(村社)川東に在り應神天皇外一神を祀る。

長善寺 勝浦に在り眞宗本願寺末沙門應正天和三年の草創。

圓勝寺 川東に在り眞宗西分善福寺末寺天文年間の草創。

妙覺寺 川東に在り眞宗善福寺末永祿中高尾五郎兵衛の建立である。



梶州神社

仲多度郡

明治三十二年法律四十一號を以て那珂、多度の二郡を合併改稱したもので那珂は奈加、中など、書かれ國の中央なるよりとか又中なる里名より起ると傳へられ又多度郡の名稱は田莊なりとも又多度津より出でしもの即ち往昔諸國より多く渡り來る津なるを以て多度津と云ひ郡名之より起つたとも稱せられる。

那珂郡は往古十郷三十五村多度郡は七郷二十四村であつた即ち左の通り。

郷名	村名	郷名	村名
眞野郷	四村	眞野、岸上、十郷、七箇	
吉野郷	二村	吉野上、吉野下	
小松郷	六村	苗田、金毘羅、榎井、五條、四條、佐文	
高篠郷	二村	高篠東、高篠西	
櫛無郷	二村	櫛無上、櫛無下	
垂水郷	二村	垂水、公文	
木徳郷	五村	三條、原田、金藏寺、與北、木	
郡家郷	一村	郡家	
柞原郷	九村	柞原、田村、山北、地方、新田、中府、津森、今津、鹽屋	
金倉郷	二村	上金倉、下金倉	

多度郡郷村名

郷名	村	名
生野郷	二村	生野、大麻
吉田郷	三村	上吉田、下吉田、稻木
葛原郷	六	葛原、南鴨、北鴨、堀江、道福寺、新町
中村郷	二村	中村、善通寺
吉原郷	三村	吉原、碑殿、山階
弘田郷	一村	弘田
三井郷	七村	三井、青木、庄村、東白方、西白方、奥白方、多度津

以上の通りであつたが明治二十二年十二月縣令八十四號を以て左の通り合併存置二十三年二月十五日より町村制を施行された郷村より現在市町村制の沿革は大川郡の部沿革參照)

新村名	舊村名	新村名	舊村名
(丸龜町)	明治二十三年中府、地方、土居村及津森の内を合併	多度津町	多度津村、新町村
(六郷村)	明治三十二年四月より町を市とす	白方村	西白方村、東白方村、奥白方村
	今津村、上金倉村、新田村、鹽屋村	四箇村	山階村、庄村、三井村、青木村
	下金倉村、津森村の一部(大正六年六月一日丸龜市に合併)	吉原村	吉原村、碑殿村
		垂水村	垂水村
		高篠村	東高篠村、西高篠村、公文村

南村	田村、杵原村、山北村	象郷村	上櫛無村、下櫛無村、苗田村
郡家村	郡家村、三條村	琴平町	琴平村
龍川村	原田村、金藏寺村、木徳村	櫻井村	櫻井村
與北村	與北村	神野村	五條村、岸上村、眞野村、東七箇村
十郷村	十郷村、佐文村	吉野村	吉野上村
七箇村	七箇村、鹽入村	四條村	四條村、吉野下村
與島村	與島、岩黒島、櫃石島、瀬居島、砂彌島	筆岡村	中村、弘田村
本島村	本島、牛島	善通寺町	善通寺村、麻野村、吉田村
廣島村	廣島、手島	豊原村	南鴨村、北鴨村、堀江村、道福寺村、葛原村
佐柳島村	佐柳島		
高見島村	高見島		

(以上多度郡)

(以上那珂郡)

那珂多度の統治は總説統治の沿革及び阿野鷲足に於て述べた如く上古日本武尊の第五皇子武敏王の裔に依りて統治せられしもの、如く後國司郡司の時代主護、地頭の制度を経て細川氏の管領當時那珂郡は奈良元安、多度は香川景則之を領した後永祿中、三好、天正年中仙石、以後尾藤、生駒、山崎、京極の所領となつて明治に移つた。

本郡は東綾歌郡西三豊郡南徳島縣三好郡に接し北は瀬戸内海に面し所謂塩飽七島を抱擁す地勢南北に長く本土の南七箇村より北多度津に至る里程五里三十丁東郡家村より西白方村に至る里程二里二十九丁面積十二方里五六管内七郡の内第六位の面積を有する、山嶽には

七箇村に屬する塩入山(二千二百五十尺)及多治川山(千九百四十尺)善通寺町に屬する大麻山(千三百尺)などあるが琴平山(象頭山)は金刀比羅宮に依て名高い、本郡所屬の河川には大なるはなく七箇村に發源して丸龜市下金倉に灌く金倉川(流域六里十六丁)と善通寺町に發源する弘田川(流域三里)あるのみである。

【土地】 本郡土質は綾歌郡と略同じく説明を略する今本郡の地目段別を示すと次の通りである。

地目	民有有租地		民有免租地		官有地	
	段	別	段	別	段	別
田	五、一二〇、四二	町	八、一四、三八	町	二、二四、六九	町
畑	九三四、〇八	敷	三六、二九	道	二六七、五六	路
宅地	六四九、三七	道	四〇、四二	溝	二一九、九三	渠
鹽田	二〇、九三	砂防	九五、五七	堤	二六、六一	塘
池沼	四、〇四	墳墓	三二、三〇	社	一三七、九九	地
山林	八、二四三、三六	堤塘	五、八一	寺	三二、四八	地
原野	二六、七七	學校敷地	六、一六	溜池	四一二、六二	地
雜種地	六、六五	其他	二、七二	其他	二〇、一〇	地
計	一五、〇〇五、六二	計	一、〇三三、六五	計	一、三四一、九八	

【戸口】 本郡大正十年末現在本籍人口は計十萬九百七十五人で内男五萬千七百一十一人女四萬九千二百六十四人現住人口は計九萬四千七百五十九人内男四萬九千三百六十八人女四萬五千三百九十一人で本籍人口に比し六千二百十六人の減少を示して居る、本郡の人員中には軍隊人員三千四百五十人を包含して居るが一方里の人口七千五百四十四人五に當り其密度は七郡中の最高位を示し他府縣平均一方里人口二千二百三十九人に比し實に三倍三七に當り田園的よりは都會的の密度を示して居る勿論本郡は琴平、善通寺、多度津の如き小都會多く且つ善通寺に軍隊ありて然らしむるのであるが村落部に於ても平坦部多く比較的他の郡に比し普遍的に稠密して居るからである、今本郡の本籍人口現住人口並に戸數を町村別に表示して見る。

本籍人口、現住人口、戸數町村別

(×印は町)

町村名	本籍人口		計	現住人口		計	現住戸數
	男	女		男	女		
南	一、一六二	一、一五七	二、三一九	一、一七七	一、一六一	二、三三八	四五九
郡	一、六三二	一、七〇六	三、三三八	一、七〇七	一、七九七	三、五〇四	六九二

龍川	與北	垂水	高篠	象郷	榎井	四條	神野	吉野	七箇	十郷	×琴平	×善通寺	筆岡	吉原	四箇
二、三八六	一、六二八	一、二一七	一、七九五	一、五九七	一、七五六	一、三六一	一、四九五	一、三八一	一、五六五	一、八八三	三、六三四	七、一〇〇	一、七八一	一、六七〇	二、一五八
二、四六九	一、五二〇	一、一九七	一、七七六	一、五九〇	一、七九二	一、三二七	一、四二八	一、三五六	一、四四九	一、七五六	三、七四一	五、五四一	一、六二七	一、四八五	二、〇二〇
四、八五五	三、一四八	二、三一四	三、五七一	三、一八七	三、五四八	二、六八八	二、九二三	二、七三七	三、〇一四	三、六三九	七、三七五	一、二、六四一	三、四〇八	三、一五五	四、一七八
一、八四三	一、三一一	一、一二七	一、三六五	一、一七五	一、二八九	一、一二五	一、六三九	一、四五四	一、二〇一	一、七三四	二、九五五	一、一、八九八	一、三三四	一、二四〇	一、六五八
一、九三〇	一、二四七	一、二一八	一、三四四	一、一六五	一、三二九	一、一五九	一、六〇〇	一、四二三	一、一一二	一、六五八	三、二五七	七、三一〇	一、三九三	一、一四九	一、六七九
三、七七三	二、五五八	二、三四五	二、七〇九	二、三四〇	二、六一八	二、二八四	三、二三九	二、八七七	二、三一一	三、三九二	六、二二二	一九、二〇八	二、七二七	二、三八九	三、三三七
七五五	四六二	四〇八	四八五	四六四	六〇九	四四五	六一三	五三八	四一五	五九三	一、三五七	三、二二〇	五七六	四九〇	六〇三

白方	×多度津	豐原	與島	本島	廣島	高見島	佐卯島	計
一、五一六	三、八四七	一、九〇四	一、六九二	二、六九二	一、六九二	六六一	六五一	五、七一一
一、三二二	三、八九〇	一、七七八	一、六三一	二、五五五	一、六八五	六六八	七九八	四九、二六四
二、八三八	七、七三三	三、六八二	三、三二三	五、二四七	三、三七七	一、二八四	一、四四九	四九、二〇〇
一、五〇七	三、八一五	一、三五四	一、六五九	一、四三一	一、四三七	二、三六	六九七	四九、三六八
一、四一七	三、八一〇	一、四一三	一、五五五	一、五七八	一、四二三	四四九	八一五	四五、三九一
二、九二四	七、六二五	二、七六七	三、二一四	三、〇〇九	二、八六〇	六八五	一、五一二	九四、七五九
五九九	一、九四四	五一一	五四三	七四二	六八〇	一八六	三八七	一八、七七八

【交通】 本郡陸路の交通として國道二十三號線の高松より丸龜を経て本郡南、龍川、筆岡、吉原の各村を通するあり、他の路線として左の國道一線縣道十一線郡道二十五線の外里道延里數六十八里共に縦横に通じ交通機關として琴平、四條、美合村間多度津、琴平間多度津港、多度津驛間を運轉する乗合自動車あり、又讚岐鐵道は郡内北部を通じ多度津より分岐して伊豫三芳に通じ本線は郡の中央を琴平町に至る、目下工事中の土讚鐵道完成せんか多度津は海陸共に樞要の地たるべく、又目下工事に着手せんとする善通寺、多度津間の電鐵完成せんか西讚の交通愈々至便である（海路多度津町記事参照）

國道 二十四號線龍川村大字金藏寺字本村千二百十二番地先より三豊郡和田村大字箕浦字鳥越乙一番地先に至る主用延長七里三十三丁。

縣道 多度津、丸龜線多度津町大字多度津字須賀甲千二十番地先より（丸龜市本町に於て縣道丸龜停車場線重用）仲多度郡豊原村を經て丸龜市本町十九番地先に至る一里十丁（重用線を含む）。

多度津停車場線 多度津町大字新町字西水戸三百十九番地先より（多度津字須賀より大字新町字西水戸迄縣道多度津丸龜線重用）同町字鶴ヶ落甲四十一番地先に至る五丁二十六間（同上）。

多度津港線 多度津字須賀甲千二十番地先より字西組旅客待合所前に至る七丁四十一間（同上）。

多度津琴平線 多度津町字北組二百六十六番地先より金藏寺字本村を經て琴平町字川西に至る二里三十五丁（同上）。

多度津豐濱線 多度津西組乙百五十九番地先より（多度津町字須賀より字東濱町迄縣道多度津港線、吉原村より豐濱町大字和田濱迄國道二十三號線重用）吉原村字吉原字上官坊十番地先に至る七里六丁（同上）。

善通寺脇町線 善通寺字本村道上三百四十九番地先より與北、垂水、栗熊、山田、粉所、安原、奥鹿を經て木田郡奥鹿村大字奥山徳島縣界に至る十里八丁（同上）。

善通寺豐濱線 善通寺字本村道上より三豊郡笠田村大字笠岡字原谷に至る六里一丁（同上）
善通寺停車場線 善通寺字本村道上より（縣道善通寺豐濱線重用）停車場（大字上吉田字中筋五百九十七番地先）に至る九丁（同上）。

善通寺莊内線 善通寺字本村道上より仲多度郡筆岡村吉原村三豊郡大見村詫間村を經て莊内村大字大濱字船越に至る四里二十丁（同上）。
多度津詫間線 多度津字西組乙より白方、大見村を經て三豊郡詫間村大字杉崎字濱に至る二里三十丁（同上）。

琴平豐濱線 琴平町字川西より三豊郡神田、栗井、大野原村を經て豊濱町大字姫濱字上林に至る六里三丁（同上）。

合計十一線四十一里二十七丁。

郡道 廣島道重用延長十五丁、本島道同十五丁、中央道同二十四丁、大麻道同一里二十丁
生野道同九丁、額坂道同三十三丁、中筋道同二里十五丁、海岸寺驛道同一町五十四間、豊津西道同三丁二十五間、豊津東道同四丁三十四間、木崎道同一里三十五丁、多治川道同二十丁、佐文道同二十九丁、善通寺道同一里十四丁、鴨道同一里二十丁、金倉道同十九丁、摺入道同四里二十八丁、垂水道同一里三十一丁、中通道同十七丁、生間道同一里二丁、大口道同二里二丁、新目道同一里三丁、吉野道同二十七丁、白方道同二十五丁五十六間、垂水東道同七丁三十一間。

合計二十五線二十六里三十四間。

【教 育】 郡内小學校は合計三十九校で内尋常小學校七校高等科を併置するもの二十七校分教場尋常科一校高等科を併置するもの四校學級尋常科二百六十七高等科四十三合計三百十、尋常科の教授に従事する正教員男百五十名女五十九名高等科の教授に従事する男三十四名女四名尋常科專科正教員女二十四名尋常科准教員男十八名女三十名代用教員尋常科男七名女二十名合計男二百九名女百三十七名又大正十年三月一日現在在籍兒童は尋常科男六千八百六十四名女六千六百六十一名高等科男九百八十四名女五百五十六名合計一萬五千六十五名である。

郡内所在の私立中等學校は左の二校で從來多度津に在つた、工業學校は十一年度より縣立工藝學校に合併し更に中學校を設置された。

盡誠中學校(善通寺町)明治二十八年三月舎長大久保彦三郎四條村に私立盡誠舎を建て普通科を教育した之れ本校の前身で明治四十三年四月より中學校に則り改稱した現在職員二十學級數十、生徒定員六百名在籍生徒數四百四十二名明治四十四年度より大正九年度迄の卒業生百七十七名で本縣唯一の私立中學校である。

善通寺高等女學校 明治三十九年六月私立靜修裁縫女學校を設立されたのが前身で同四十年四月私立靜修女學校と改稱本科三年專修科二年とした同四十三年本科の修業年限を四ヶ年に延長同四十四年四月私立善通寺實科高等女學校と改稱大正九年四月より善通寺高等女

學校と改稱本科四ヶ年實科二ヶ年とした、現在職員十六名生徒定員本科四百名實科百名在籍生徒數四百一名學級數八、大正元年度より同十年度迄の卒業生四百五十二名である。

【財 政】 本郡大正十年度歳入出原豫算は七萬八千九百二十一圓で内歳入は經常部七萬千四百二圓臨時部七千五百十九圓歳出は經常部貳萬八千三百四十四圓臨時部五萬五千七百七十七圓である、歳入の内七萬七千五百五十三圓は町村分賦額で他の収入では縣補助金の六千五百三十四圓土木費寄附金の五百圓が主である、又歳出の主なるものは土木費の經常臨時合計貳萬九千九百六十一圓教育補助金及教員養成所費の壹萬三千七百四十圓勸業費の壹萬三千五百七十一圓郡吏員費壹萬二千十一圓と云ふ順で土木費の内主なる支出は鴨道外四線の郡道改修費、教育費は私立學校、實業補習學校、教育部會の補助、勸業費には農事獎勵費、産業獎勵費、養蠶傳習所費、品評會費などである。

【衛 生】 本郡の治療機關として開業せる醫師四十八名齒科醫十三名藥劑師十名の外産婆七十九名看護婦六十一名である郡では十年度に於て産婆看護婦の養成をなし機關の整頓充實を圖り衛生展覽會を開催して思想の普及向上に勗めた。

【金 融】 本郡の金融機關として郡内に本店を有するもの又は支店出張所を開設せるものは左の通りで其成績に就ては第四二頁を参照されたい。

郡内に本店を有するもの

株式會社

讀岐銀行

(多度津町) 支店

坂出町

出張所

飯野村

株式會社 明正銀行 (善通寺町) 支店 上高瀬村
 株式會社 琴平銀行 (琴平町) 支店 龍宮村、多度津町、吉津村 出張所 岡田村、善通寺町
 株式會社 多度津銀行 (多度津町) 出張所 琴平町
 郡外に本店を有するもの
 株式會社 高松百十四銀行(高松市) 支店 善通寺町
 株式會社 綾歌銀行 (坂出町) 支店 琴平町
 株式會社 合同貯蓄銀行 (岡山) 支店 善通寺町

本郡民の郵便貯金は、大正十年三月末現在人員五萬六千二百五十八人金額二百五十三萬七千三百三十三圓で、一戸の平均貯金額百三十四圓八十錢に達して居る。

【産業】 本郡産業機關として善通寺町に本郡及丸龜市を地區とする仲多度郡同業組合、あり他郡市と共に本郡を地域とする丸龜團扇同業組合、中讃醬油同業組合、西讃塩田同業組合などがある。又産業の助長金融機關として産業組合法に依る組合は合計二十二組合ある。本郡の實業團體として資本金壹萬圓以上の會社を示すと次の通りである。

名 稱	營業ノ種類	所在地	資本金
四國水力電氣株式會社	電燈電力供給其他	多度津町	五、〇三〇、〇〇〇
多度津商專株式會社	木材賣買並船舶運送業	同	五〇〇、〇〇〇
多度津製氷株式會社	氷製造販賣	同	三〇〇、〇〇〇
多度津運送合資會社	貨物運送業	同	二〇、〇〇〇

株式會社松尾商會	醬油製造業	同	一五、〇〇〇
合資會社金子商會	米穀及肥料販賣	同	一〇、〇〇〇
株式會社金陵西野商店	酒類製造	琴平町	五〇〇、〇〇〇
讚岐産業合資會社	肥料、鹽	同	一〇、〇〇〇
關西紡織株式會社	タオル製造販賣	同	五〇〇、〇〇〇
共立檢番株式會社	藝妓檢番	善通寺町	一〇〇、〇〇〇
株式會社中檢番	同	同	一〇〇、〇〇〇
合資會社千葉商會	金錢貸付業有價證券賣買其他	同	一〇〇、〇〇〇
新屋酒造株式會社	清酒醸造	同	六〇、〇〇〇
善通寺無盡合資會社	無盡業	同	三〇、〇〇〇
金比羅醬油株式會社	醬油製造	同	一五〇、〇〇〇
榎井産業株式會社	肥料販賣	榎井村	一七、五〇〇
琴平商專株式會社	漆器製造	同	一〇、〇〇〇
與北製材株式會社	製材	同	五〇、〇〇〇
向井合資會社	肥料賣買業	與北村	五〇、〇〇〇
旭合資會社	綿布製造	同	一〇、〇〇〇
西讃吹株式會社	吹購買販賣	高篠村	五〇、〇〇〇
垂水醸造合資會社	酒類製造	垂水村	四〇、〇〇〇
株式會社相互檢番	藝妓營業取締	龍川村	一〇、〇〇〇

【工業】 最近調査に依れば本郡下工産物總價額は五百二十八萬七千圓で、内主なるものは織物十六萬三千圓、瓦十萬三千圓、肥料十二萬三千圓、酒百三十萬圓、醬油二十一萬二千圓、麥粉九萬圓、飴及菓子三十四萬八千圓、素麵及麵類三萬五千圓、木製品九萬七千圓、彫彫細工三萬九千圓。

麥稈真田五十七萬七千圓及藁製品九十三萬五千圓電気七十萬圓等である。次に本郡最近調査に係る職工十人以上を使用せる工場を示せば左の通り。

工場名稱	製品種類	所在地	工場名稱	製品種類	所在地
多度津製線所	針金延釘製造	多度津町	榎井タオル工場	タオル製造	榎井村
岡田商會分工場	野草莖製造	同	清酒國華醸造場	酒類製造	垂水村
關西紡織株式會社	綿織物タオル	琴平町	與北製材株式會社	製材	與北村
琴平工場	体育用品機械製作及木工業	同	製材工場	綿布織物	同
都村体育器械製造工場	酒類製造	同	旭合名會社		
金陵西野醸造場					

【社 寺】 本郡内に現在する神社は合計二百五十六社で内郷社十一、村社六十六、無格社百七十八社である、又寺院は天臺宗三、眞言宗五十二、淨土宗六、臨濟宗一、眞宗四十、日蓮宗一、合計百三箇寺で境外佛堂が八ある、神社に就ては村社以上、寺院に就ては著名のものを各所在町村の部に於て概記する。

人物、名所、史蹟 人物名所史蹟に就ても著名のもの、みを各所在町村の順に記載する。

【南 村】 東綾歌郡土器、南本郡郡家、西南龍川、北丸龜市に界す明治二十三年二月田村柞原、山北の三村を合併村制を施行せしもの面積〇、二〇四方里大正十年末の人口二千三

百三十八戸數四百五十九である。

社寺 八幡神社(郷社)山の北に在り息長帶姫命外六神を祀る。

天満神社(村社)同上菅原道眞公外六神を祀る。

高嶮神社(村社)柞原に在り息長帶月賣命外十四神を祀る。

常福寺 田村に在り龍泉山と號し眞宗興正寺末寛永十五年了願と云ふ者の創立である。

【郡家村】 東綾歌郡川西、南本郡垂水與北、西龍川、北南村に界す明治二十三年郡家三條

の二村を合併せしもので面積〇、三四二方里大正十年末の人口三千五百四戸數六百九十二

である。

社寺 神野神社(郷社)八幡下に在り天穗日命外五神を祀る。

日吉神社(村社)三條に在り大已貴命を祀る。

興正寺別院 山城葛野郡山内村の別院を移したるもの。

人物 大西雪溪 本姓高島、郡家村の人書を中島來章に學ひ之を能くし一機軸を出したが

明治二十五年七月七十九歳で歿した。

【龍川村】 東郡家、南與北、西善通寺、北丸龜市に接す明治二十三年原田、金藏寺、木徳

の三村を併せ龍川と稱するに至れるもの面積〇、三三五方里大正十年末の人口三千七百七

十三戸數七百五十五である。

社寺 新羅神社(村社)木徳に在り素盞鳴命外七神を祀る仁和元年智證大師の勸請である。

新羅神社(村社)金藏寺に在り素盞鳴命外一神を祀る。
春日神社(郷社)武甕槌命外十神を祀る。

實正寺 原田に在り真宗氷上常光寺末永正中僧真覺の草創である。

西福寺 同上真宗西本願寺末天文中僧正圓の創立である。

金倉寺 大字金藏寺にあり雞足山寶幢院と號し一名道善寺四國七十六番の靈場で天臺宗園城寺末智證大師の誕生所で智證大師の祖父道善及父宅成の菩提の爲めに建て道善寺と號した舊原田に在り後延長六年金倉郷に移し金倉寺と改號した中古衰頽したが寛永十九年松平頼重再興した寺内に國寶として絹本着色智證大師の像がある。

人物 圓珍 木徳の人和氣宅成の子で母は佐伯氏と稱し空海の姪である、幼にして穎悟十歳にして漢籍を讀み十五歳延曆寺の座主義眞に事へた、仁壽三年入唐して開元寺に寓居天臺山に登り天安二年歸朝寛平二年大僧都に任し同年四月十九日七十八歳で寂した後智證大師と諡した。

河田迪齋 諱は興字猶興、屏淑又藻海と號す其先は源三位賴政より出で幼にして異稟年十五にして近藤篤山に經史を學び十八歳東都に學ぶ安政元年正月米船浦賀に來航通商を請ふ時に林大學頭に隨ひ下田に會し應接辨理した、同年十二月昌平疊儒員に任せられ大番上席に班したが同六年正月五十四歳で歿した。

吉田正達 字は士充通稱保次擴齊と號し金藏寺の人近藤篤山に就き經義を攻究し歸郷私塾

を開き子弟を教育した後香川縣の郷養に教官となつた事がある明治二十四年十一月六十九歳で歿した。

【興北村】 東垂水、南高篠象郷、西善通寺、北龍川郡家村に界す舊木徳郷中の一村であつた面積〇、二四七方里大正十年末の人口二千五百五十八戸數四百六十二である。

社寺 皇美屋社(村社)宮前に在り大伴武日連命外十五神を祀る。

持寶院 眞言宗善通寺末中古衰へ寛永中再興した。

正覺寺 眞宗西本願寺末天文中僧正善の創立せしものである。

源正寺 眞宗西本願寺末文龜年間の創立である。

人物 高畑權兵衛 寛文五年三月本村に生れた英資にして文武兩道に通した、大麻山境界論及貯水池築造に盡したが元文二年八月七十三歳で歿した。

【垂水村】 東綾歌郡岡田、南本郡高篠、西興北、北郡家村に界す舊垂水郷下の一村であつたが後明治二十三年二月獨立の一村となつた面積〇、二四四方里大正十年末の人口二千三百四十五戸數四百八である。

社寺 垂水神社(村社)行時に在り田心姫命外十四神を祀る往昔武毅王創建せられ後天平勝寶八年再建せられたことがある頗る古社である。

安樂寺 眞言宗大護寺末大同年間の創立である。

淨樂寺 眞宗興正寺末大永中僧正玄の創立。

願誓寺 眞宗興正寺末文安中僧蓮秀の創立。

善行寺 眞宗氷上常行寺末文明年中僧了專の創立。

西教寺 眞宗西本願寺末天文中僧淨蓮の創立。

西ノ坊 眞宗天文中僧正慶の創立。

【高篠村】 東綾歌郡岡田、南本郡四條、西象郷、北垂水、興北村に界す明治二十三年二月東高篠、西高篠公文の三村を合併村制を布いたもの面積〇、三五六方里大正十年末の人口二千七百九戸數四百八十五である。

社寺 雲氣八幡宮(村社)仲哀天皇外三神を祀る。

富隈神社(村社)公文に在り吉備武彦命外五神を祀る。

圓淨寺 眞宗興正寺末國司菅原道眞公の建立で始め正福寺と號し天臺宗であつたが大永年間僧了專再建し今の宗に改めた。

西念寺 仲津山淨上院と號し淨土宗高松淨願寺末法然上人の草創である。

吉祥寺 公文に在り眞言宗善通寺末寺。

【象郷村】 東高篠、南榎井、琴平、西善通寺、北興北村に界す明治二十三年二月上櫛無、下櫛無、苗田の三村を合併村制を施行せしもの面積〇、二五七方里大正十年末の人口二千三百四十戸數四百六十四を算する。

社寺 櫛梨神社(郷社)神櫛王皇子命外二十三神を祀る讃岐延喜式内二十四社の一である。

大歳神社(村社)上櫛無に在り大物主命外十神を祀る、神櫛皇子の崇められしと云ふ社傳に見れば餘程の古社であるらしい。

石井神社 村社 苗田に在り足仲彦曾外七神を祀る。

大念寺 櫛無に在り如意山と號し眞宗興正寺末寺。

善光寺 同上善通寺末寺。

福成寺 苗田に在り日蓮宗高瀬大坊末寺。

光賢寺 同上眞宗東本願寺末應仁中三谷入道興圓の建立である。

西福寺 同上長祿中富田入道圓了の建立である。

人物 秋山伊豆 諱は惟恭字仲禮嚴山と號し櫛梨神社の祠官であつた、詩文和歌を善くし嘗て頼山陽の門に居つた後丸龜侯の命を受け西讃府志六十一卷を撰したのである文久三年四月五十七歳で卒去した。

【琴平町】 東榎井、南十郷、西三豊郡麻村、北象郷、善通寺町に界す明治二十三年二月琴平村を町とし獨立したもの面積〇、一九三方里大正十年末の人口六千二百十二戸數千三百五十七である、町は象頭山の麓にあり金刀比羅の賽者絡繹織るが如く旅館の廣大櫛比せる關西稀に見る所である。

社寺 金刀比羅宮(第一〇〇頁を見よ)

松尾寺 眞言宗金剛峯寺末寺。

人物 牧驥 字德穉棲碧山人と號し又自ら麻溪詩人と號す文化頃の詩人である。

三井雪航 詩文を菅茶山に學で能くした弘化頃の人。

金陵 金光院の住職獨角又は獅子窟と號し池大雅の畫風を慕ひ韵致あり詩文に達し又俳歌を能くした弘化元年十二月歿した年六十。

松原竹秋 名は崇字士功通稱良助琴平の人曾て昌平黌に入り詩文を以て名あり又書を能くした明治三十五年六月歿した年七十五。

荒川栗園 諱英改字德郷通稱潤吉郎三井雪航に學び詩文を能くし兼て書を作つた陽明學の風を慕ひ慷慨氣節あり燕石の友人である。

美馬援造 名は諸字は和南初め土佛戲號鷲物と稱し後君田又櫻水と號した阿波國重清村の僧であつたが安政元年還俗し姓を美馬と稱へ後琴平に來り燕石の徒と交り憂國の志篤かつた、君田詩文書畫俳歌等能くせざるなく往々燕石の代筆をした、明治七年七月享年六十三歳で歿したが明治三十六年十一月正五位を追贈された。

右の外本町の人又は關係ある人物に片岡琵琶溪、合葉文山、合葉快堂、松原竹里、玉尾退藏大原東塾などがある。

【榎井村】 東四條、南神野、西琴平、北象郷村に界す舊小松郷下の一村で往古天領であつた明治二十三年獨立して村制を布いた、面積〇、一四二方里大正十年末の人口二千六百十八戸數六百九である。

社寺 春日神社(村社)大日靈命外七神を祀る。

玄龍寺 眞宗興正寺末往者玄要寺と稱し眞言宗であつたが曆應中兵火に罹り康永二年榎井の僧了玄なる者再興改宗した。

興泉寺 眞宗興正寺末天文二年榎井の僧祐善の開基、祐善は泉州人和田小太郎正則のことである。

法藏寺 眞言宗仁和寺末、長法寺同上、眞樂寺眞宗東本願寺末。

人物 日柳燕石 諱政章字士煥初め長次郎後耕吉變名赤松劍吾と稱し、其別號を柳東又燕石、戲號を猿石と云ひ其先は草薙隼人の後である、幼より書を好み博覽強記特に史學に富み詠史に長した性豪放任俠風に勤王の志を抱き四方の有志と詩酒交を結び嘗て高杉晋作を庇護せしことあり爲めに嫌疑を受け慶應元年五月幽囚の身となり明治元年春免されて出獄京師に至り大總督仁和寺宮の史官となり北越に赴き同年八月柏崎に於て病歿した遺著數部あり。

右の外本村の人物に奈良廣葉(學者にして尊王家)日柳三舟(燕石の子にして學者)長谷川佐太郎(公益功勞者)などがある。

【神野村】 東吉野、四條、南七箇西、十郷、北榎井村に界す明治二十三年二月五條、岸上、眞野、東七箇の四村を合併村制を實施せしもの面積〇、四二一方里大正十年末の人口三千二百三十九戸數六百十三である。

社寺 大井八幡神社(郷社)五條に在り彌都波能賣神外七神を祀る。

神野神社(村社)東七箇に在り天穗日命外二神を祀る大同年間の勸請である。

諏訪神社(村社)真野に在り弘仁三年山川大膳宗久の勸請である、祭神建御名方命外四神。

久保神社(村社)岸上に在り市杵鳥姬命外二神を祀る。

真福寺 岸上に在り浄土宗智恩院末。

光教寺 真野に在り真宗垂水願誓寺末文明中僧了玄の創立。

龍松寺 五條に在り真言宗仁和寺末最め行基疫病退散祈念の爲め延命地藏尊を祀つたのであるが延享三年寺號を建てた。

願淨寺 淨華山と號し真宗本願寺末一時廢頽したが明治十八年再興せしものである。

満濃池 弘仁十年の築造で以後屢々補修された周圍三里六丁神野、七箇、吉野の三村に跨り水面百町六反歩を占め一市十六箇町村三千五百町歩の田地に灌漑せる縣下最大の溜地である。

【吉野村】 東及北綾歌郡長炭村、南本郡七箇、西神野、四條村に界す元吉野上村と稱したるを明治二十三年獨立改稱するに至つた面積〇、五八九方里大正十年末の人口二千八百七十七戸數五百三十八である。

社寺 大宮神社、郷社)倭姫命外七神を祀る。

八幡神社(村社)大輦別命外十二神を祀る。

常福寺 真宗興正寺末城前と號す天正中火災に罹り中絶して居つたのであるが明治十五年藤田智なる者再興した。

人物 良野芸文 字は伯耕通稱平助華陰と號す良野村の人江戸に遊び擊劔儒學を學び後京都に講堂を開いたが明和七年四月七十二歳で歿した。

上里濟(學者)黒木茂矩(學者にして尊王敬神家)又本村の出である。

【四條村】 東高篠、長炭、吉野村に接し南神野、西榎井、北象郷、高篠村に境す明治二十三年二月吉野下、四條の二村を合併せしもの面積〇、一八〇方里大正十年末の人口二千二百八十四戸數四百四十五である。

社寺 最勝寺 真宗本願寺末往古阿波三好郡増川村に在つたが中古三野郡財田村に移し明治十五年七月更に今の地に移轉した。

城福寺 真言宗仁和寺末由緒不詳。

【十郷村】 東吉野、七箇、南徳島縣三好郡、西三豊郡財田及神田村、北琴平、榎井、神野に界す明治二十三年二月十郷佐文の二村を併せ村制を施行せしもの面積一方里八〇〇大正十年末の人口三千三百九十二戸數五百九十三である。

社寺 葛城神社(村社)買田に在り一言主命外十六神を祀る。

大山祇神社(村社)生間に在り大山祇命外二神を祀る。

高室神社(村社)帆山に在り木之花咲耶姫命外一神を祀る。

三所神社(村社)後山に在り三柱比賣命外一神を祀る。
 三河神社(村社)大口に在り木花咲耶姬命外三神を祀る。
 鷺尾神社(村社)新日に在り天日鷺命外四神を祀る。
 木熊師神社(村社)山脇に在り祭神伊邪那美命外五神。
 三所神社(村社)追上に在り祭神三柱比賣命外三神。
 國尾神社(村社)宮田に在り大已貴命外七神を祀る。
 加茂神社(村社)佐文に在り祭神別雷神外五神天徳二年藤原基雄の勸請。
 圓宗寺 新日に在り眞宗興正寺末西信の開基。
 惠光寺 十郷に在り眞言宗仁和寺末應安中僧淨願の建立。
 西光寺 宮田に在り法然堂と稱す承元元年法然上人此國に左遷せられし時草庵を結び此所に留錫せりと傳へらる上人の像及墓がある。
 法照寺 佐文に在り眞宗興正寺末寺鶴林山と號す。
 【七箇村】 東綾歌郡造田、長炭及本郡吉野村に接し南徳島縣三好郡、西十郷、北神野村に境す明治二十三年二月七箇及摺入の二村を合併せしもの面積一方里九九三大正十年末の人口二千三百十三戸數四百十五である。
 社寺 春日神社(村社)中春日に在り天津兒屋根命外七神を祀る弘安元年の勸請。
 白鳥神社(村社)葛神に在り倭武命外十四神を祀る慶應四年城丸丹後守の勸請である。

山戸神社(村社)摺入に在り事代主神外六神を祀る永正二年の勸請。
 圓徳寺 眞宗永上常光寺末永祿五年沙門正蓮の草創である。
 【善通寺町】 東與北、象郷、南琴平及三豊郡麻村西同勝間、上高瀬西北吉原、北筆岡村に界す明治二十三年二月善通寺、大麻、生野、上吉田、下吉田、稻木の六村を併せ善通寺村としたが明治三十四年十月町制を施行した歩兵第四十三聯隊及特科隊の所在地たり且つ巨剎善通寺及郡役所の所在地で來往者並に賽者絶へず大正十年末の人口一萬九千二百八戸數三千二百二十を有し本郡中の都會である面積は一方里二七四を有する。
 社寺 八幡神社(村社)息長足比賣命外三神を祀る。
 木熊野神社(村社)瓦谷に在り伊邪那美命外四神を祀る。
 御館神社(村社)宮尾に在り同上外七神を祀る。
 木熊野神社(東村社)速玉男命外八神を祀る。
 木熊野神社(西村社)同上。
 大麻神社(郷社)天太玉命を祀る延喜式讚岐二十四社の一である由緒明らかでないか神櫛王の尊崇せられしより見れば餘程の古社で本社尊像二軀は國寶となつて居る。
 八幡神社(村社)下吉田に在り足仲彦大神外四神を祀る。
 善通寺(第一〇二頁を見よ)。
 淨澄寺 生野に在り法得山と號し眞宗東本願寺末。

智光院 普照山と號し淨土宗壽覺院末元丸龜横町に在つたが延享二年此地に遷した。
西光寺 眞宗興正寺末三好長慶の臣松田主殿薙髮して慶明と稱し此地に草創したと傳へら
れる。

養念寺 正樂山と號し眞宗興正寺末香川山城守の草創である。

淨源寺 瑞光山と號し眞宗福善寺末沙門教觀の草創である。

觀智院 眞言宗善通寺末元十善坊と稱し善通寺と同時に建立されたと傳へらる。

花藏院 眞言宗善通寺末草創不明文政十三年鶴足郡土器村横田治郎七の中興せしものであ
る。

史蹟 大麻山城趾 字内山に在り岩崎修理介之れに居つた。

土井山城趾 大麻に在り矢野丹後の居城であつた。

研麻山城趾 善通寺南に在り香川伊賀守の居城であつた。

麻臼山城趾 生野に在り飛田伯耆守之れに居つた。

人物 空海 は多度郡の人佐伯直田公の子母は阿刀氏幼より穎悟年十五京師に上り舅阿刀
宿禰大足に就き文書を習ひ書法に於て妙を得草聖と稱せられた年三十一歳で得度延暦二十
三年入唐青龍寺の惠果に眞言を學び留學四年にして歸朝弘仁七年高野山を開き同十二年滿
濃池(神野村)を築き同十四年東寺を賜つた、天長七年大僧都に任し承和二年三月二十一日
高野山に於て入寂した年六十三延喜二十一年十月弘法大師と諡した。

眞雅 は空海の弟年十五京師に入り空海に眞言法を學び齊衡三年大僧都に任し貞觀元年法
印大和尚位を受け十六年新建の精舎に額を賜ひ貞觀寺と號した元慶三年正月三日七十九歳
で歿した。

眞然 は空海の甥で空海に従ひ密乘を學び眞雅の灌頂を受け傳つた、空海入定に臨んで高
野山に付屬して營造した故に高野山を眞然の内院と稱する、寛平二年に僧正となり同三年
九月十一日八十八歳で寂した。

西行法師 俗の名は佐藤憲清一つに義清とも云つた弓術に長じ兵法に通じ鳥羽上皇に愛せ
られ北面の侍となり従五位下に叙し左衛門尉に任せられたが遁世の志あり崇徳天皇の延保
六年十月嵯峨に行き僧となつた時に年二十三法名を園位と號したが後西行と改め行脚に志
し全國を周遊し到る處風詠を事として樂み文治五年京都に歸り東山雙林寺に庵を結び建久
九年二月十六日入滅した享年七十三。

【筆岡村】 東及南善通寺西吉原村、北四箇、豊原村に界す明治二十三年二月中村及弘田の
二村を合併村制を施行せしもの面積〇、二五六方里大正十年末の人口二千七百二十七戸數
五百七十六を算する。

社寺 雲氣神社(郷社)豊受大神外二神を祀る讚岐延喜式二十四社の一であるが創建は詳か
でない。

春日神社(村社)布津奴肆命外十神を祀る。

本熊野神社(郷社)速玉男命外四神を祀る弘仁年間弘法大師の勸請なりと傳へられる。
圓通寺 弘田に在り寶雲山と號し眞宗興正寺末香川氏の臣香川正貫なる者薙髮西心と號し
庵を結び天和二年四月寺號を建てたと云ふ。

甲山寺 同上醫王山多寶院と號す四國七十四番の靈場で弘仁中空海の草建である。

【吉原村】 東筆岡、南善通寺及三豐郡上高瀬、西大見、村北白方四箇村に界す明治二十三
年吉原、碑殿の二村を合併せしもの面積〇、四五二方里大正十年末の人口二千三百八十九
戸數四百九十を有する。

社寺 菅原神社(村社)碑殿に在り菅魂大神を祀る。

鷺井神社(村社)鷺井に在り少名彥命外十神を祀る。

東西神社(村社)吉原に在り大己貴命外二神を祀る。

水分神社(村社)水分に在り水別神外七神を祀る。

出釋迦寺 眞言宗善通寺末四國七十三番の靈場である。

曼陀羅寺 眞言宗善通寺末四國七十二番の靈坊推古天皇四年の創造である。

萬福寺 眞言宗誕生院末獅子山舍那院と號す行基菩薩の開基である。

覺善寺 眞宗東本願寺末天務山と號し天正頃の開基である。

正覺寺 眞宗本願寺末太平山と號し太平伊賀守國祐の三男僧となり教圓と稱し天文中開基
したものと傳へられる。

牛額寺 碑殿に在り獅師山と號し眞言宗誕生院末寺長和年間僧仁海の草創である。

史蹟 水莖の岡 又山里庵と云ふ曼陀羅寺を西に距る五六丁に松岡某の別墅あり其庭園は
即ち西行法師が四國行脚の際一時草庵を結びて假寓した水莖の岡の舊跡である。

人物 月照 は忍向又忍海又忍鏡と稱し文化十年吉原村下所に生れた、月照は鼎齋の子で
幼名を久丸と呼んだ十歳にして佛門に入り牛額密寺藏海の法弟となり二十餘歳京師に上り
清水寺成就院の住職となり後辞して職を信海に譲り勤王に盡瘁する處あり爲めに幕府の忌
む處となり捕はれんとし難を薩摩に避けたが遁るゝに途なきを察し安政五年十一月十六日
夜南州と俱に薩海に投して死んだ年四十六明治二十四年十二月正四位を贈られた。

信海 月照の弟で文政四年に生れ幼名長丸又綱五郎と稱した、九歳佛門に入り藏海の法弟
となり後高野に上り研學遂に兄の跡を繼ぎ成就院の住職となつた、信海又兄に劣らぬ勤王
家で遂に幕府に捕へられ安政六年三月十八日獄中に歿した年三十九明治二十四年十二月十
七日從四位を贈られた。

【四箇村】 東豊原、南筆岡吉原、西白方、北多度津に界す明治二十三年二月山階、庄村、
三井青木の四箇村を合併村制を施行せしもの面積〇、三一〇方里大正十年末の人口三千三
百三十七戸數六百三を有する。

社寺 春日神社(村社)山階に在り天兒屋根命を祀る。
八幡神社(村社)三井に在り應神天皇外三神を祀る。

蓮忍寺 山階に在り高貴山と號し眞宗本願寺末空海の弟子信戒の開基である。
圓光寺 三井に在り香林山蓮花院と號し眞宗興正寺末明應九年の草創である。

【白方村】 東四箇、南吉原、西及南大見村に界し北瀬戸内海に望む明治二十三年二月西白方、東白方與白方の三村を合併したものの面積〇、四四八方里大正十年の人口二千九百二十四戸數五百九十九である。

社寺 熊手八幡神社(郷社)西白方に在り神功皇后外二神を祀る。

海岸寺 西白方に在り經納山迦毘羅衛院と號し眞言宗道隆寺末寺大同年間の創立と云ふ寺實頗る多い。

三角寺 佛母院八幡山と號し眞言宗明王院末寺空海の母阿刀氏の草創と傳へらる。

藥王寺 寶光院長尾山と號し眞言宗明王院末。

上生寺 長尾山阿彌陀院と號し眞言宗明王院末。

長福寺 朝日山醫王院と號し眞言宗明王院末寺。

【豊原村】 東九龜南善通寺西四箇及多度津に界し北瀬戸内海に蒞む明治二十三年二月南鳴北鳴、堀江、道福寺、葛原の五村を合併せしもの面積〇、二七八方里大正十年末の人口は二千七百六十七戸數五百十三を算する。

社寺 弘濱八幡神社(村社)堀江に在り神功皇后外二神を祀る。

加茂神社(村社)別雷神外三神を祀る。

八幡神社(村社)葛原に在り品陀別大神外二神を祀る。

高福寺 眞宗本願寺末瑞蓮山と號す昔多度津山の麓にあり道福寺と稱し行基の開基であつたが後玄清なる者天正の頃今の地に移り改宗改稱したのである。

淨蓮寺 圓融山願樂院と號し眞宗興正寺末赤松則祐の裔田中可貞の開基と云ふ。

即往寺 入江山と號し眞宗本願寺末寺延寶五年僧賢乘の改宗したもので元眞言宗大善院と稱した。

伊福寺 眞言宗道隆寺末元慶八年七月聖寶尊師の開基である。

道隆寺 桑多山明王院と號し眞言宗大覺寺末四國七十二番の靈場で天平神護二年和氣道隆公の草創である。

【多度津町】 東豊原、南四箇、西白方村に界し、北瀬戸内海に面して居る明治二十三年多度津及新町の二村を合併町制を施行した面積〇、〇八九方里大正十年末の人口七千六百二十五戸數千九百四十四を有する本町は郡の北端に位し舊藩時代に於ては四國九州の船舶輻輳し商業般盛時に金刀比羅及善通寺賽客の乗降場であつたが高松築港の完成と共に貨客を吸集された、此の類勢を挽回すべく時の町長塩田政之助氏は町會に諮り一大築港を企て明治三十八年起工同四十四年完成したが其經費殆んど四十萬圓を要した之が爲め海運に便益を與へ諸般の市況を恢復したのであるか將來豫讃線の開通土讃線の竣工と共に本町は重要な地位に立つて居る、更に本港最近の輸出入額を見ると移出三百五萬八千餘圓移入四百五

十萬一千餘圓に上つて居るが其内譯は左の通りである。

移出			移入		
品名	數量	價額	品名	數量	價額
支米	三三、〇四六石	八〇六、六〇〇	生魚	二五、八六〇	二九、三〇〇
麥	四、〇八一石	二〇、七四〇	木材	一、〇五七、〇〇〇	五七、五五〇
小麥	八、〇八〇	一三七、三六〇	竹材	三、三〇〇	二七、〇五〇
鑛石	三三、二七、〇〇〇斤	三〇八、二五〇	其他絲類	...	一〇五、九五〇
木綿類	四三、〇八二反	一四、一〇〇	其他絹及織物	八、三〇〇	一、二八、一五〇
清酒	八九九石	一四、八五〇	木綿	四〇、二七五反	二〇一、三七五
帽子	三、五八〇打	一〇七、四〇〇	清酒	八六四石	二九、六〇〇
隊	九九五、四五〇枚	一九九、〇九〇	帽子	三、八〇〇	二四、〇〇〇
麥稈及經	一、八三〇	三六、〇〇〇	鑛物肥料	一七、六〇〇	二八、四〇〇
木眞田	人造肥料	一九、四四二	一三六、〇八七
炭化石炭	七四、〇〇〇斤	一〇七、一〇〇	自轉車	一、八九六	一八九、六〇〇
煙草	其他	...	一、四八四、三五
其他	其他
計	...	三、〇五八、八〇三	計	...	四、五〇一、二八七

社寺 天滿神社(村社)新町に在り菅原大神を祀る、往古堀江村に在つたが寛永十二年九月此地に遷したものである。

寶性寺 神龍山廣嚴院と號し眞言宗明王院末寺。

多聞院 寶塔山善福寺と號し眞言宗道隆寺末元慶七年八月聖寶尊師の草創である。

摩尼院 立明山十輪寺と號し眞言宗明王院末寺本尊地藏は空海の作と傳へられる。

寶壽院 眞言宗醍醐三寶院末寺寛永年間の草創で一時衰頽せんとしたが明治十二年改宗古澤養碩高松に再建し後今の地に移した。

勝林寺 定惠山と號し禪宗普興昌寺と稱し妙心寺末であつたが久しく中絶して居つた天保五年常住寺之を再興名を勝林寺と改めた。

湛然寺 眞宗本願寺末應神年中三宅修理太夫大善の草創である。

史蹟 多度津城趾 多度津背後の小丘(本多山に在り)貞治二年香川刑部太輔景則始めて此所に城を築き其裔相繼ぎ天正年間に至る迄二百有餘年之れに居つたが文政年間に至り丸龜藩主京極高或の弟高澄分封せられ天保元年之に移つたが明治維新に至り撤去した。

人物 多度津の人物に 僧通玄、森長見(國史家)林良齋(陽明學者)小倉東溪(畫家)草薙篁齋(畫家)などがある。

【本島村】 丸龜市の正北に位し海を隔て、東與島、西廣島、北岡山縣兒島郡六口島を望む
屬島として牛島、向島、長島などがある面積は〇、五一四方里大正十年末の人口三千九戸
數七百四十二を有する、本村以下他の四島村は舊時所謂天領と稱し何れの國守にも支配さ
れなかつたのであるが明治三年二月高知藩の管治に歸し同年七月倉敷縣に屬し同四年十一
月香川縣に屬した。

社寺 八幡神社(郷社)字高無坊に在り仲哀天皇外二神を祀る天平十四年豊前宇佐より勸請
したものである。

德玉神社(村社)字霍ヶ浦に在り安徳天皇を祀る。

木島神社(村社)字甲松ヶ浦に在り大國主神外二神を祀る。

四社神社(村社)字宮の小路に在り伊邪那岐命外三神を祀る。

三社神社(村社)字福部に在り天照皇大神外二神を祀る。

八阪神社(村社)字八阪通に在り須佐之男神外一神を祀る。

三所神社(村社)字浦内に在り天照皇大神外二神を祀る。

聖神社(村社)牛島に在り祭神伊邪那岐命外一神。

八幡神社(村社)同上祭神應神天皇。

觀音寺字乙松ヶ浦に在り眞言宗三寶院末天平年間行基菩薩の草創。

長徳寺字城根に在り眞言宗觀音寺末。

東光寺字霍ヶ浦に在り龜居山と號し眞言宗觀音寺末。

總光寺字宮ノ濱に在り眞言宗觀音寺末天平元年五月大僧正海順の草創。

寶性寺字乙松ヶ浦に在り眞言宗觀音寺末。

十輪寺 持寶寺、寶泉寺、常福寺眞言宗觀音寺末寺。

專稱寺字城根に在り源光山と號し淨土宗智恩院末寺建永二年草創天正六年徳譽道泉法師の
中興である。

來迎寺 乙松ヶ浦に在り聖象山と號し淨土宗智恩院末建永二年法然上人の開基である。

【與島村】 與島、櫃石、岩黒、瀬居、砂彌、其他の島嶼を管轄し南綾歌郡北岡山縣兒島郡
の半島、下津井との間に碁布して居る面積〇、二四〇方里大正十年末の人口三千二百十四
戸數五百四十三を有する。

社寺 八幡神社(村社)瀬居に在り應神天皇外一神を祀る。

事比羅神社(村社)砂彌島に在り大己貴命を祀る。

王子神社(村社)櫃石島に在り日本武尊外一神を祀る。

初田神社(村社)岩黒に在り埴安神を祀る。

天津神社(村社)與島に在り天津兒屋根命外四神を祀る。

寶珠寺 櫃石島に在り眞言宗觀音寺末寺。

法輪寺 與島に在り眞言宗觀音寺末慶應元年の創建。

人物 理源大師 聖寶と稱し砂彌島の産幼より穎悟年十六にして真雅に従ひ得度三論を元興寺の願曉及圓宗に學んだ後玄榮真然源仁等に事へ顯密共に通し名山靈地に遊歴し貞觀の末年醍醐寺を創立し延喜二年僧正となり同九年七月七十六歳で寂滅した。

【廣島村】 塩飽諸島中の巨島で正南に多度津を望み東本島、西佐柳島、正北岡山縣淺口郡玉島に對し屬島には手島小手島などがある面積一方里〇八二大正十年末の人口二千八百六十戸數六百八十を有する。

社寺 廣島神社(村社)字宮ノ上に在り伊邪那岐命外一神を祀る。

加茂神社(村社)市井浦に在り別雷神外三神を祀る。

青埜神社(村社)字北に在り野槌神外一神を祀る。

八幡神社(村社)立石浦に在り神武天皇外一神を祀る。

塩竈神社(村社)東通に在り塩土神外一神を祀る。

地福寺 江の浦に在り真言宗觀音寺末寺。

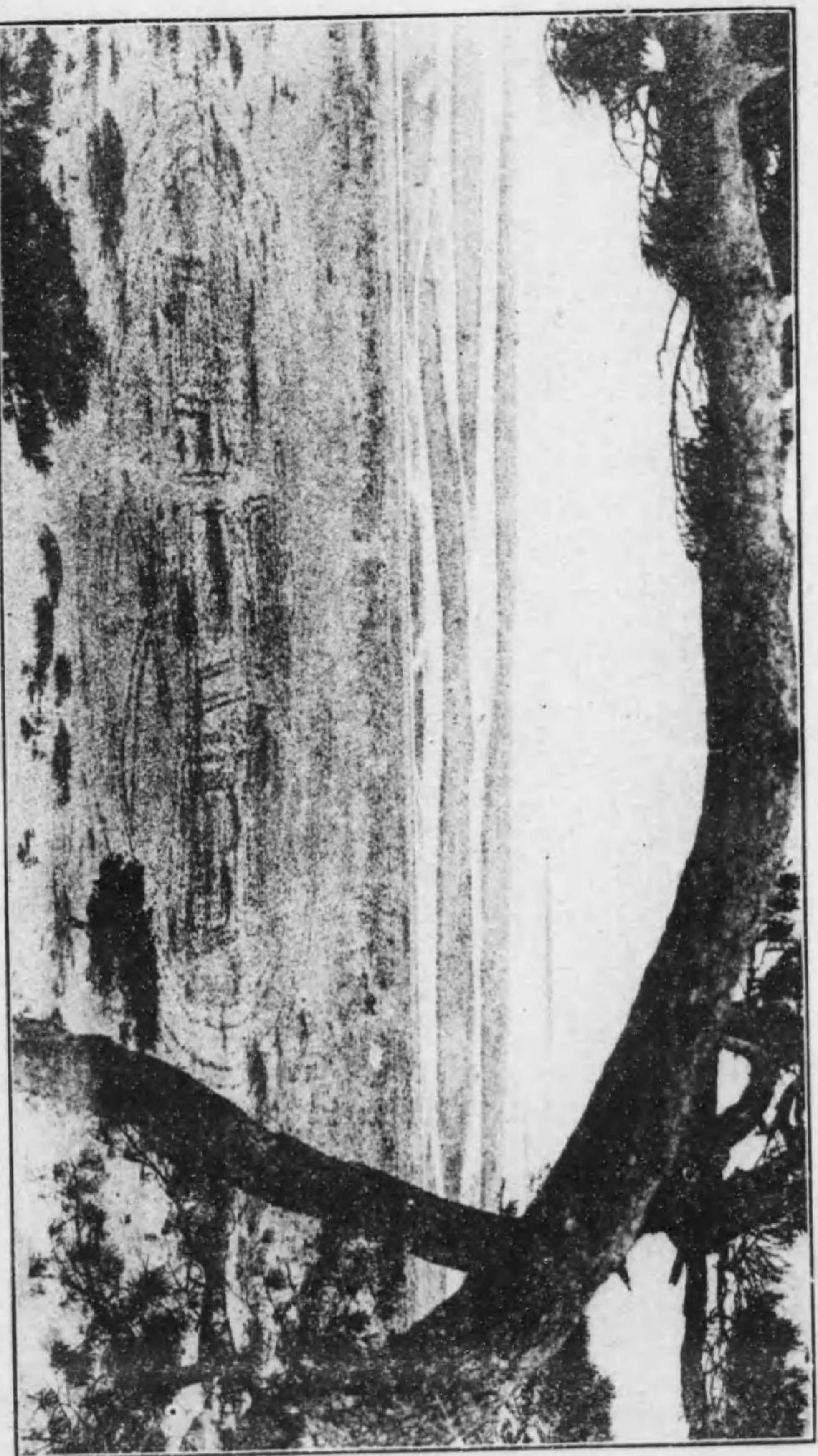
神光寺 立石浦に在り真言宗觀音寺末寺。

醫光寺 江ノ浦に在り藥王山と號し真言宗觀音寺末寺。

正福寺 茂浦に在り醫王山と號し真言宗觀音寺末寺。

長福寺 青木浦に在り岩松山と號し真言宗觀音寺末寺。

玉瀧寺 市井浦に在り天台宗延曆寺末寺。



(廣通水寛) 國公彈琴濱の明寫

金輪寺 手島に在り真言宗觀音寺末寺。

安養寺 手島に在り真言宗觀音寺末寺。

極樂寺 手島に在り真言宗觀音寺末寺。

【佐柳島村】 諸島中の最西に位し東廣島、高見島、正南粟島、西北岡山縣真鍋島に對す面積〇、一六二方里明治十八年一月高見島を管轄して役場を佐柳島に置かれたか明治二十三年各獨立の一村となつた大正十年末の人口千五百十二戸數三百八十七である。

社寺 八幡神社(村社)野都合に在り應神天皇外一神を祀る。

乘蓮寺 本浦に在り真言宗觀音寺末寺。

【高見島村】 東北廣島本村、西北佐柳島西南に粟島を望み正南は三豊郡詫間村に對して居る明治二十三年二月佐柳島村の管轄より獨立して一村を爲したもので面積〇、一七〇方里大正十年末人口は六百八十五戸數百八十六である。

社寺 八幡神社(村社)田ノ上通に在り應神天皇外一神を祀る。

善福寺 田ノ上に在り真言宗觀音寺末寺。

大聖寺 字浦に在り真言宗觀音寺末寺。

三二 豊 郡

明治三十二年四月法律四十一號を以て三野豊田の二郡を合併改稱せしもので三野郡は美乃

彌濃などとも書かれ郡名の起原三野物部の居給ひし處よりとか又郡中山村多く村民山菅の
簀を多く編み出したるを以て美乃の名稱が起つたと稱せられる、豊田郡は讃岐の西端に位
し往古刈田、葛多又は神田と書せられたことかある刈田の名は刈田明神の神田あるにより
起り豊田の名は往古より土地よく開け五穀豊穰の地なりしを以てこの名稱起れりとする、
三野郡は往古八郷四十村豊田郡は七郷四十六村であつた即ち左の通り。

三野郡郷村名

- | | | |
|-----|-----|--------------------------------------|
| 郷名 | 村名 | 名 |
| 財田郷 | 三村 | 上ノ村、中ノ村、西ノ村 |
| 勝間郷 | 七村 | 上勝間、下勝間、上麻、下麻、佐股、神田、羽方 |
| 大野郷 | 二村 | 上大野、下大野 |
| 高野郷 | 三村 | 上高野、下高野、竹田 |
| 本山郷 | 三村 | 本ノ大村、岡本、寺家 |
| 比地郷 | 四村 | 比地、比地ノ中、比地ノ大村、笠岡 |
| 高瀬郷 | 六村 | 上高瀬、下高瀬、新名、大見、原、松崎 |
| 詫間郷 | 十二村 | 詫間、吉津、仁尾、庄内、香田、家浦、大濱、箱浦、生里、積浦、粟島、志々島 |
| 郷名 | 村名 | 名 |
| 山本郷 | 七村 | 池ノ尻、原、古川、辻、新田、中田井、河内 |
| 高屋郷 | 六村 | 東高屋、西高屋、室本、流岡、村黒、吉岡 |

豊田郡郷村名

- | | | |
|-----|-----|--------------------------------------|
| 郷名 | 村名 | 名 |
| 坂本郷 | 十二村 | 坂本、酒屋、茂木、上市、下市、中州、飯屋、鍛冶、大工分、伊吹、植田、出作 |
| 柞田郷 | 四村 | 黒淵、山田尻、北岡、大島 |
| 姫郷 | 十一村 | 姫濱、花稻、有木、内野、中姫、井關、海老濟、萩原、青岡、大野原、福田原 |
| 紀伊郷 | 三村 | 木ノ郷、粟井、丸井 |
| 和田郷 | 三村 | 和田、和田濱、箕浦 |

以上の通りであつたが明治二十二年十二月縣令八十四號を以て左の通り合併存置、二十三年二月十五日より町村制を施行された(沿革の詳細は大川郡の部沿革参照)。

- | | | | |
|------|-------------------|-------|-------------|
| 新村名 | 舊村名 | 新村名 | 舊村名 |
| 仁尾村 | 仁尾村、家浦村 | 比地二村 | 比地村、比地中村 |
| 莊内村 | 大濱浦村、箱浦村、積浦村、生里浦村 | 比地大村 | 比地大村 |
| 粟島村 | 粟島村、志々島村 | 桑山村 | 下高野村、岡本村 |
| 詫間村 | 詫間村、香田浦村、松崎村 | 本山村 | 寺家村、本大村ノ内川東 |
| 大見村 | 大見村 | 上高野村 | 上高野村 |
| 吉津村 | 吉津村 | 二ノ宮村 | 佐股村、羽方村 |
| 下高瀬村 | 下高瀬村 | 麻村 | 下麻村、上麻村 |
| 上高瀬村 | 上高瀬村、新名村 | 神田村 | 神田村 |
| 勝間村 | 上勝間村、下勝間村 | 財田村 | 財田上村、財田中村 |
| 笠岡村 | 笠岡村、竹田村 | 財田大野村 | 大野村、財田西村 |
| 観音寺町 | 観音寺村、伊吹島 | 高室村 | 高室村、室本浦 |

常盤村 一谷村 辻村 河内村 豊田村 粟井村 紀伊村
 植田村、出作村、流岡村、村黒村
 吉岡村、川村、中田井村、本田村ノ内川西
 河内村
 新田村、原村、池尻村
 粟井村
 丸井村、青岡村、木郷村、福田原

中姫村 萩原村 和原村 井關村、田々々村、海老濱村、内野々村、有木村
 萩原村 和原村、箕浦村
 和原村、大野原村、花稻村
 大野原村 大野原村、花稻村
 柞田村 柞田村
 (以上豊田郡)

三野豊田の統治も總説統治の沿革に於て述べた如く上古日本武尊の王子武鼓王の裔に依り統治せられしもの、如く後大寶年間より嘉永に至る國司郡司、鎌倉時代の主護地頭の制を経て細川管領當時詮問氏三野豊田を領し天正十七年以後香川景則領して天霧城に據り後永祿中三好天正年中仙石以後尾藤、生駒、山崎、京極の所領となつて明治に移つた。
 本郡は東仲多度郡に接し北及西は瀬戸内海に面し南西愛媛縣宇麻郡南徳島縣三好郡に界す地勢南北に長く南和田村より北半島莊内村に至る里程七里四丁西觀音寺町より東財田村に至る里程三里二十五丁面積三十三方里四五管内七郡中綾歌に次いで第二位の面積を有する山嶽には五郷外一村に屬する雲邊山(三千六百尺)桑山外八ヶ村に跨る七寶山(千八十尺)大見村に屬する彌谷山(千十一尺)などあり河川には麻村に發源する高瀬川(流域五里)仲多度郡七箇村に發源して觀音寺町に流下する財田川(流域七里十丁)五郷村に發源して觀音寺町に至る柞田川(流域五里)などがある。

【土地】 本郡土質も綾歌郡と同様で特異の点はない今本郡の地目段別を示すと左の通りである。

地目	民有有租地		民有免租地		官有地	
	段別	計	段別	計	段別	計
田畑	七、七七九、〇〇 <small>町</small>	二二、七八一、五七七	保安林	九五五、四五 <small>町</small>	河川	四三四、九一 <small>町</small>
畑地	一、四四〇、五二		溜池	九四、五七		道路
宅地	九三八、四五	一六、九三	道路	九九、〇一	溝渠	二二二、二六
鹽田	七九、一四		公園地	一五、七三	堤塘	八〇、〇〇
池沼	一一、五九	三三、三八	墳墓地	六一、六〇	社地	九四、一二
山林	一一、四八二、五六		堤塘	一、五〇	寺地	四一、八四
山	一一、四八二、五六	一六、九三	學校數地	二一、七二	溜池	七四六、六六
原野	三三、三八		其他	二四、八八	其他	三一、二〇
雜種地	一一、四八二、五六	二二、七八一、五七七	其他	二四、八八	其他	二、〇六八、六二
計	二二、七八一、五七七		計	一、二七四、四六	計	二、〇六八、六二

【戸口】 大正十年末現在本籍人口は計十五萬六千八百八十一人で内男七萬九千七百四十三人女七萬七千三百三十八人現住人口は計十二萬九千四百四十八人内男六萬四千二十二二人女六萬

五千二十二人で本籍人口に比し貳萬七千八百三十七人の減少で即ち他管への出員を示すものであるが一面本郡一方里の人口密度を見ると五千七百四十八、〇〇六に當り仲多度郡に次で第二位の密度を示し他府縣平均一方里の人口二千二百三十九人に對比し實に二倍五六に當つて居る。

本籍人口、現住人口、戸數町村別

(×印は町)

町村名	本籍人口		現住人口		現住戸數
	男	女	男	女	
仁尾	五、三一六	四、六一九	三、三五二	三、七二四	一、五五二
莊内	二、九七四	二、八三五	二、八二二	二、五九八	一、〇二七
栗島	一、五六三	一、五〇九	一、五〇四	一、三二〇	五二〇
詫間	四、五九三	四、三八四	四、〇九七	四、〇六七	一、七三四
大見	二、二二七	二、一一三	一、七一五	一、六九八	七〇四
吉津	一、七八六	一、七二八	一、三四八	一、四四〇	五七
下高瀬	一、四三三	一、二九三	一、一四一	一、〇九六	四六五
上高瀬	一、八七三	二、八一九	一、八四一	一、九三七	七八八
詫間	二、〇八三	二、一四五	一、六〇五	一、七一一	六三四

町村名	本籍人口		現住人口		現住戸數
	男	女	男	女	
笠田	一、三九二	一、三九九	一、〇八三	一、〇九七	四四七
比地二	一、七七五	一、六七五	一、五四三	一、四八九	五五〇
比地大	一、〇七一	九五〇	八一三	八〇二	三四四
桑山	一、九六二	一、八二〇	一、六二六	一、五三七	五九〇
本山	九九九	九七八	八二四	八九九	三三九
上高野	一、二二八	一、一九五	一、二〇一	一、二二二	四四一
二ノ宮	一、六三七	一、六〇六	一、三三〇	一、五六五	五三二
麻田	二、〇六五	一、九六六	一、五四一	一、六五六	六七八
神田	一、一〇八	一、一〇五	八五八	九〇五	三二〇
財田	三、五二八	三、二六一	二、七四七	二、六七九	一、〇二三
財田大野	一、一二九	一、三三三	一、一二九	一、三三三	四八六
×觀音寺	七、九三七	七、七八七	七、四〇九	七、六七一	三、〇四六
高室	一、九一一	一、九〇八	一、四二六	一、四四六	五六九
常盤	二、〇〇七	一、八八二	一、五二四	一、四九八	五九八
一ノ谷	一、六六一	一、五七五	一、三〇〇	一、二七五	四七三
辻	一、六九八	一、五二二	一、二三八	一、一六七	四六五

河内	七九二	七六九	一、五六一	六九八	六七一	一、三六九	二二六
豐田	一、九二六	一、八一九	三、七四五	一、六七三	一、六九八	三、三七一	五六八
栗井	一、六一九	一、四九三	三、一一二	一、一五九	一、一八五	二、三四四	四四七
紀伊	一、九一〇	一、七一八	三、六二八	一、四一三	一、三三二	二、七四五	五三六
中姫	九五九	八七八	一、八三七	六九一	六七一	一、三六二	二七一
萩原	一、一七七	一、一九七	二、三七四	九五四	九八〇	一、九三四	三五三
五郷	九六〇	八九八	一、八五八	七九四	七六六	一、五六〇	二六三
和田	二、七二一	二、七六六	五、四八七	二、二〇一	二、二〇六	四、四〇七	八九四
× 豊濱	三、一三二	三、一五七	六、二八九	一、九八九	二、二七八	四、二六七	八七八
大野原	四、七〇六	四、四一七	九、一二三	三、三五二	三、三五七	六、七〇九	一、三九七
柞田	二、八八五	二、六二七	五、五二二	二、〇九一	二、〇四四	四、一三五	七六四
計	七九、七四三	七七、一三八	一、五八八	六四、〇三二	六五、〇二二	二、一九、〇四四	二五、四九三

【交通】 本郡陸路の交通として国道二十三號線の高松より伊豫に連する路線にして本郡内中央大見、下高瀬、上高瀬、二宮、笠田、上高野、本山、一ノ谷、常盤、柞田、大野原豊濱、和田の各村を通じ他の路線として左の縣道四線、郡道六十線の外里道延里數六十二里共に縦横に通じ交通機關として仁尾觀音寺間、仁尾詫間間、觀音寺財田村戸川間、戸川

德島池田間を運轉する乗合自動車あり又讚岐鉄道は郡内北部及海岸を通過現在伊豫三芳迄を運轉して居る。

縣道 觀音寺池田線、觀音寺町字白濱より常盤、一ノ谷、財田大野、財田（財田大野村大字財田西に於て縣道琴平豊濱線重用、財田上に於て国道二十三號重用）を経て財田村大字財田上德島縣界に至る七里十六丁（重用線を含む）。

觀音寺停車場線、觀音寺字白濱より字上新開に至る四丁三十九間（同上）。

觀音寺港線、觀音寺字白濱より字加茂に至る七丁三十九間（同上）。

豐濱觀音寺線、豊濱町大字姫濱字上林より大野原柞田村を経て觀音寺町字白濱に至る一里二十五丁（同上）。

郡道 詫間道主要延長四里、下道同一里二十六丁、山本道同二里十八丁、曼陀道同四里二十八丁、莊内道同六里、仁尾道同二里二十四丁、麻道同二里六丁、紀伊道同二里十丁、中央道同三里二十五丁、二ノ宮道同二里二十二丁、長瀬道同二里二丁、沙木道同二里二十丁、詫間越道同一里二丁、本山道同十三丁五十四間、小瀧道同十四丁五十一間、粟井道同三十丁、萩原道同一里一丁、和田道同十六丁四十九間、柞田道同十五丁、吉澤馬道同十八丁、詫間驛道四十間、上高瀬驛道三十二丁、新名道同六丁、上高瀬道同一里七丁、觀音寺驛道同九丁、觀音寺港道同十二丁五十六間、觀音寺驛東道同四丁十九間、豊濱驛道同五丁、巡見道同十一丁五十間、新田道同三十一丁、勝間道同五丁四十七間、木ノ郷道同二里十九丁

立道同三十四丁、竹田道同一里十八丁、中村道同二十二丁四十三間、香原道同三十丁、龍光寺道同一里二十三丁、大口道同三里三十五丁、多治川道同二里八丁、粟島道同二十丁、明星道同六丁、丸井道同一里十四丁、中筋道同二十八丁五十六間、河内道同十八丁、辻道同八丁三十九間、田野々道同一里十四丁、萩原下道同十九丁五十七間、豐濱驛南道同四十五間、鳶ヶ巢道同十八丁、大道寺道同一里一丁、井ノ口道同十八丁三十六間、寺家道同二十六丁、曼陀支道同二十丁、岡野道同三十四間、箕浦道同一里二丁、豐濱道同七丁、岩瀬道同二里二丁、彌谷道同十五丁四十五間、石田道同二十丁、内野々道同二十一丁五十一間、合計六十線七十六里十五丁。

【教育】 郡内小學校は合計四十七校で内尋常小學校四校高等科を併置するもの三十七校同分教場六校學級尋常科三百八十二、高等科八十三、合計四百六十五、尋常科の教授に従事する正教員男二百二十三名女五十名高等科の教授に従事する男七十名女二名尋常科専科正教員男五名女二十名同高等科男四名尋常科准教員男二十名女四十八名尋常科代用教員男十名女四十八名合計男三百三十二名女百六十八名又十年三月一日現在在籍兒童は尋常科男九千九百五十六、女九千五百九十一、高等科男千九百五十、女九百七十九、合計二萬二千四百六十七名である。

本郡内縣立學校としては左の三校である。

縣立三豐中學校明治三十三年四月一日縣立九龜中學校三豐分校として創設生徒の定員二百

人とし觀音寺町設琴陽館(公會堂)を校舍として開校した、同三十五年三月二十九日新築校舎落成移轉同三十六年四月一日縣立三豐中學校と改稱獨立し生徒定員四百名と定め、大正八年四月一日五百名に増した、現在職員十九名學級數十在籍生徒數四百六十一名明治三十七年度より大正九年度迄の卒業生九百七十二名に達して居る。

縣立粟島航海學校明治三十年五月一日村立として開校同三十一年四月三豐郡各町村組合立に變更修業年限二ヶ年を三ヶ年に改めた明治三十二年七月三豐郡立に改め甲種程度とし香川縣粟島航海學校と改稱した、又同年九月機關科の教科を設置した、明治三十九年四月縣立に移管香川縣立粟島航海學校と改稱した、大正八年三月甲種商船學校令改正に伴ひ學則を改正本科の課程を三ヶ年とし新に練習科を置いた、現在職員十六名學級數航海科五、機關科五、豫科一、合計十一學級、在籍生徒航海科百五十四、機關科百四十一、豫科二十二、合計三百十七名明治三十五年度より大正十年度迄の卒業生航海科二百二十五名機關科百七十七名である。

縣立三豐高等女學校、明治四十年五月の開校で元三豐實業女學校と稱し徒弟學校規程に依つて設立されたのであるか明治四十四年四月實科高等女學校と改稱入正十年度より更に組織を改め高等女學校とし同十一年度より縣立に移管された、現在職員十七名生徒の定員四百名在籍生徒數三百八十八名學級數九、明治四十年以降大正九年度迄の卒業生八百五十名である。